

調査の結果

調査結果の解説



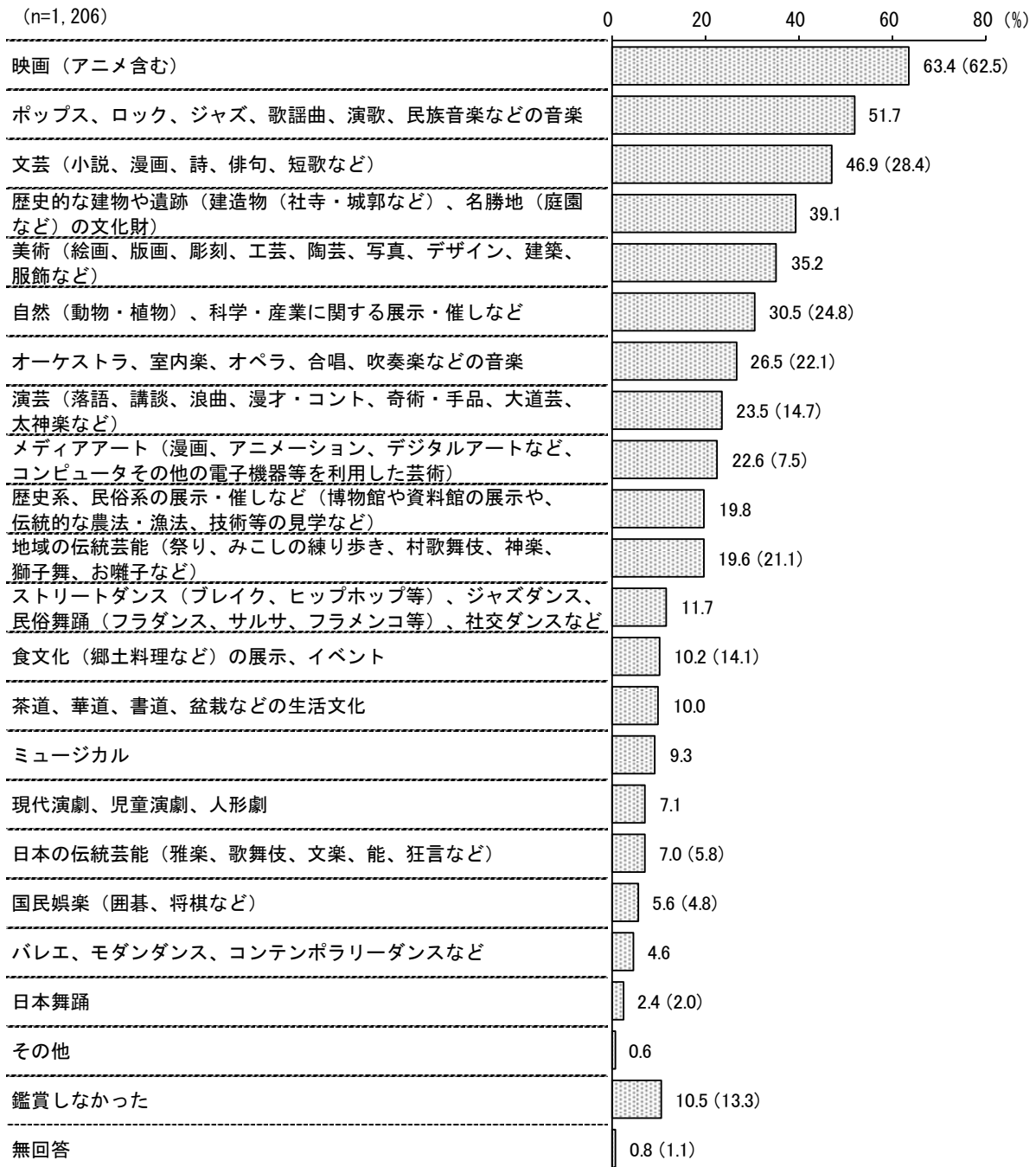
# 1. 鑑賞について

## (1) 昨年度に鑑賞した文化芸術

◇「映画（アニメ含む）」が6割を超えており最も高い

問1 あなたが昨年度(2023年4月1日～2024年3月31日)鑑賞した文化芸術はどれですか。  
(〇はいくつでも)

<図表1-1>昨年度に鑑賞した文化芸術



注) ( ) の数字は令和元年度の同様の項目による調査結果 n=1,052

※「オーケストラ、室内楽、オペラ、合唱、吹奏楽などの音楽」は、令和元年度では「音楽（クラシック）」

※「演芸（落語、講談、浪曲、漫才・コント、奇術・手品、大道芸、太神楽など）」は、令和元年度では「演芸（落語、講談、漫才など）」  
※「メディアアート（漫画、アニメーション、デジタルアートなど、コンピュータその他の電子機器等を利用した芸術）」は、令和元年度では「電子機器等を利用した芸術（デジタルアートなど）」  
※「地域の伝統芸能（祭り、みこしの練り歩き、村歌舞伎、神楽、獅子舞、お囃子など）」は、令和元年度では「地域の伝統芸能（みこしの練り歩き、村歌舞伎、踊り、笛・太鼓の音楽など）」  
※「食文化（郷土料理など）の展示、イベント」は、令和元年度では「食文化（郷土料理など）」  
※「日本の伝統芸能（雅楽、歌舞伎、文楽、能、狂言など）」は、令和元年度では「日本の伝統芸能（歌舞伎、文楽、能、狂言など）」

昨年度に鑑賞した文化芸術について聞いたところ、「映画（アニメ含む）」（63.4%）が6割を超えて最も高く、以下「ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽などの音楽」（51.7%）、「文芸（小説、漫画、詩、俳句、短歌など）」（46.9%）、「歴史的な建物や遺跡（建造物（社寺・城郭など）、名勝地（庭園など）の文化財）」（39.1%）が続く。  
一方で、「鑑賞しなかった」（10.5%）が1割となっている。

（図表1-1）

#### 【地域別】

地域別にみると、「文芸（小説、漫画、詩、俳句、短歌など）」は、“東葛飾地域”（56.4%）が5割台半ばで高くなっている。

（図表1-2）

#### 【性・年代別】

性・年代別でみると、「映画（アニメ含む）」は、男性の30代（84.2%）、女性の20代（84.2%）が8割台半ば、女性の30代（83.1%）、男性の20代（82.1%）が8割を超え、女性の40代（80.4%）が8割で、それぞれ高くなっている。

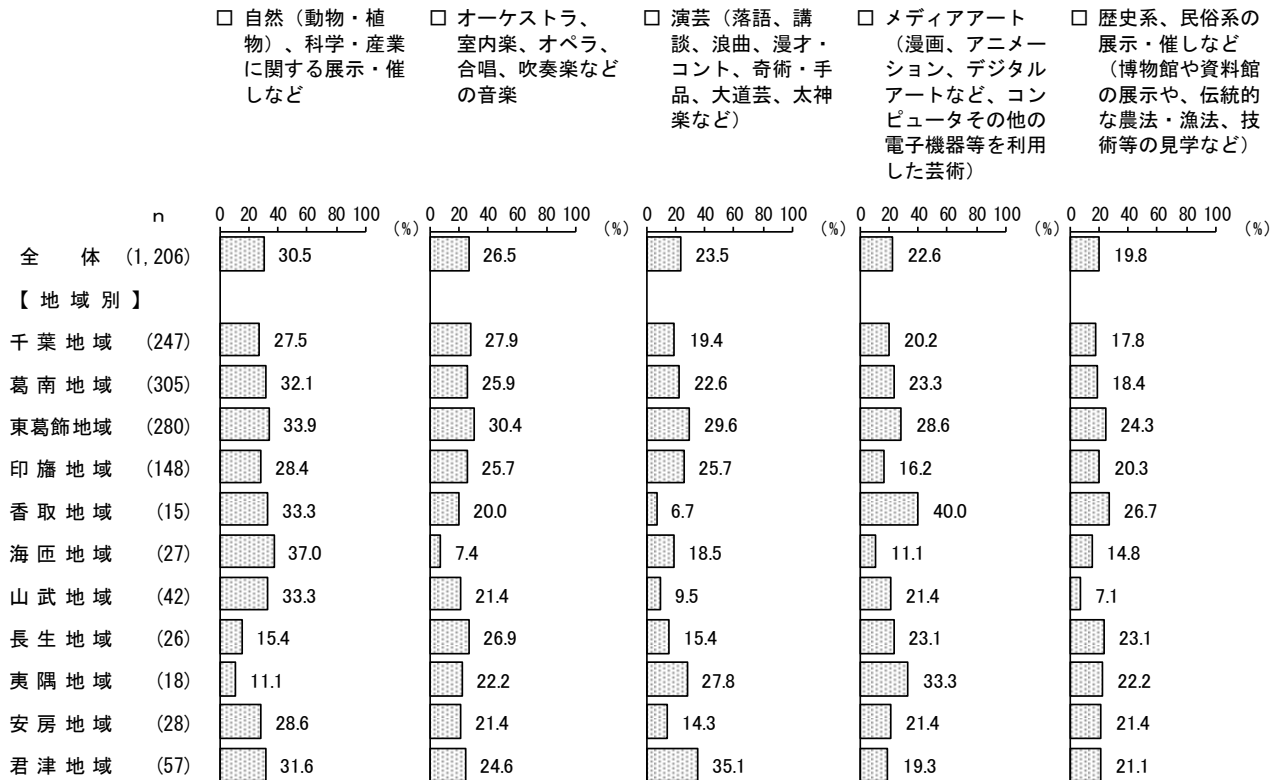
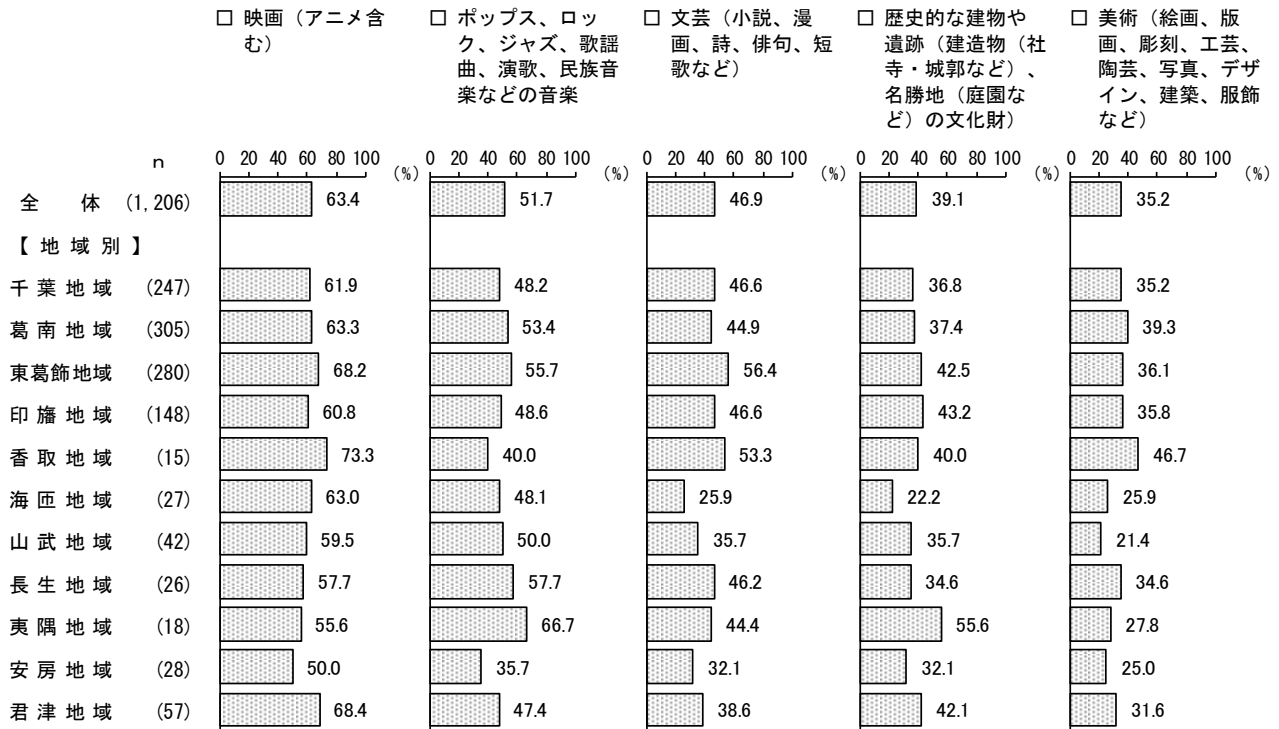
「文芸（小説、漫画、詩、俳句、短歌など）」は、女性の40代（58.0%）が約6割で高くなっている。

「歴史的な建物や遺跡（建造物（社寺・城郭など）、名勝地（庭園など）の文化財）」は、女性の50代（49.0%）が約5割で高くなっている。

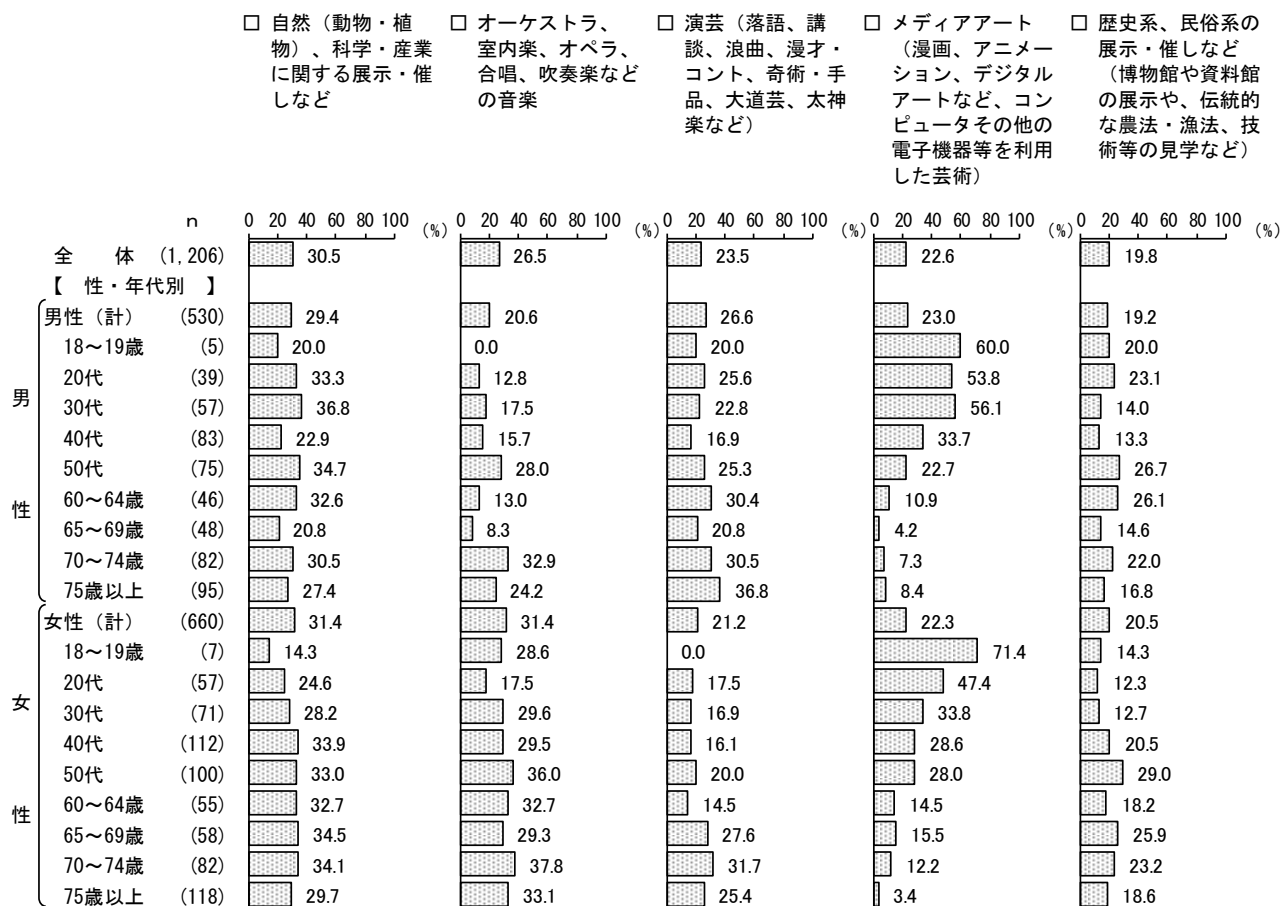
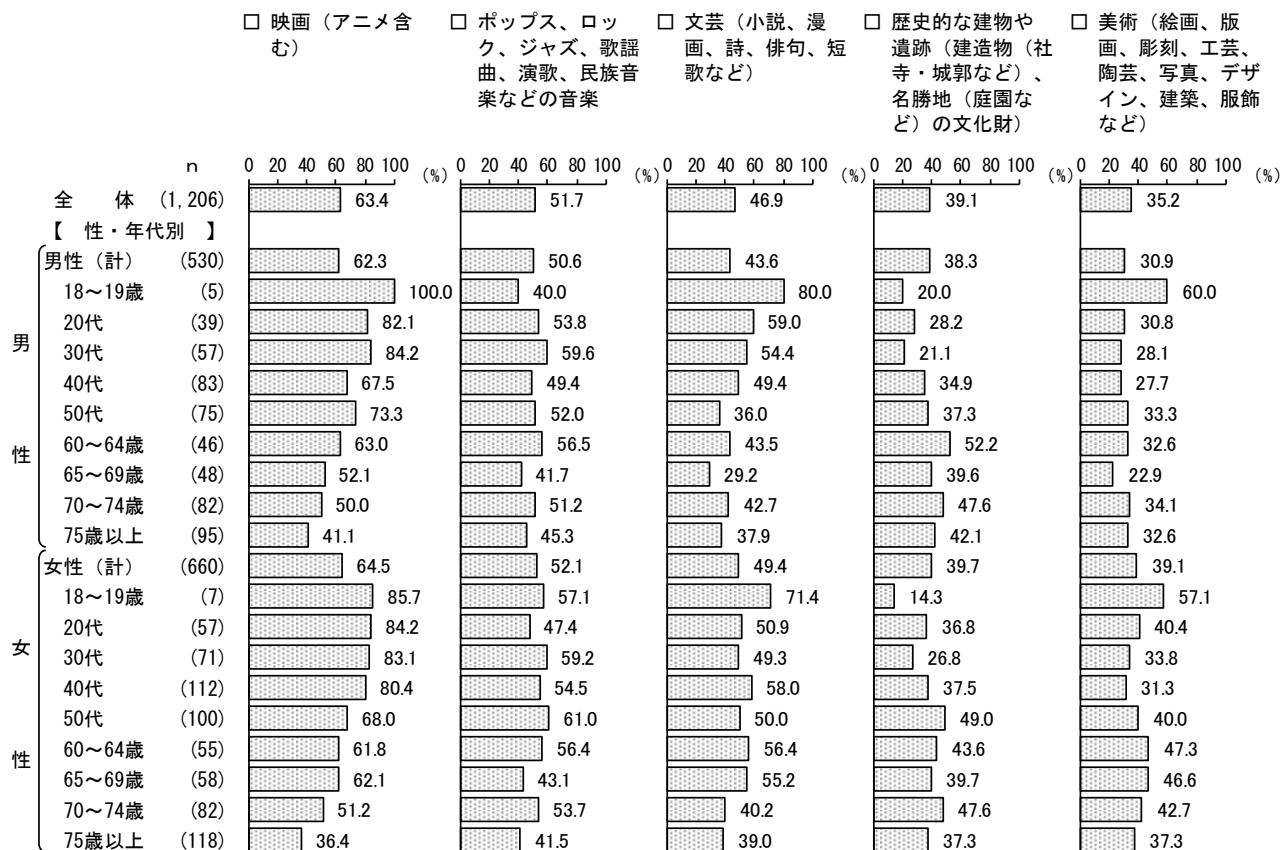
「メディアアート（漫画、アニメーション、デジタルアートなど、コンピュータその他の電子機器等を利用した芸術）」は、男性の30代（56.1%）、男性の20代（53.8%）が5割台半ば、女性の20代（47.4%）が約5割で、それぞれ高くなっている。

（図表1-3）

<図表1-2> 昨年度に鑑賞した文化芸術／地域別（上位10項目）



<図表1-3>昨年度に鑑賞した文化芸術／性・年代別（上位10項目）



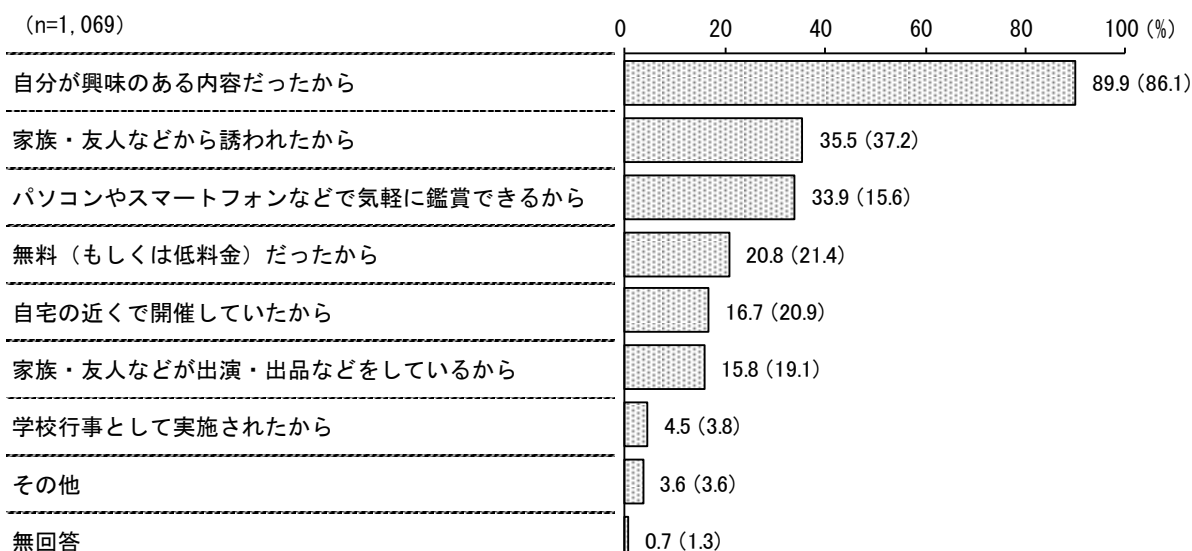
## (2) 文化芸術を鑑賞した理由

◇「自分が興味のある内容だったから」が約9割で最も高い

【問1で「昨年度、文化芸術を鑑賞した」と回答した方に】

問2 昨年度、文化芸術を鑑賞した理由はなんですか。(〇はいくつでも)

＜図表1-4＞文化芸術を鑑賞した理由



注) ( ) の数字は令和元年度の同様の項目による調査結果 n=900

※「パソコンやスマートフォンなどで気軽に鑑賞できるから」は、令和元年度では「パソコンや携帯などで気軽に鑑賞できるから」

「昨年度、文化芸術を鑑賞した」と回答した1,069人を対象に、鑑賞した理由を聞いたところ、「自分が興味のある内容だったから」(89.9%)が約9割で最も高く、以下「家族・友人などから誘われたから」(35.5%)、「パソコンやスマートフォンなどで気軽に鑑賞できるから」(33.9%)、「無料(もしくは低料金)だったから」(20.8%)が続く。

(図表1-4)

### 【地域別】

地域別で特に大きな違いは見られない。

(図表1-5)

### 【性・年代別】

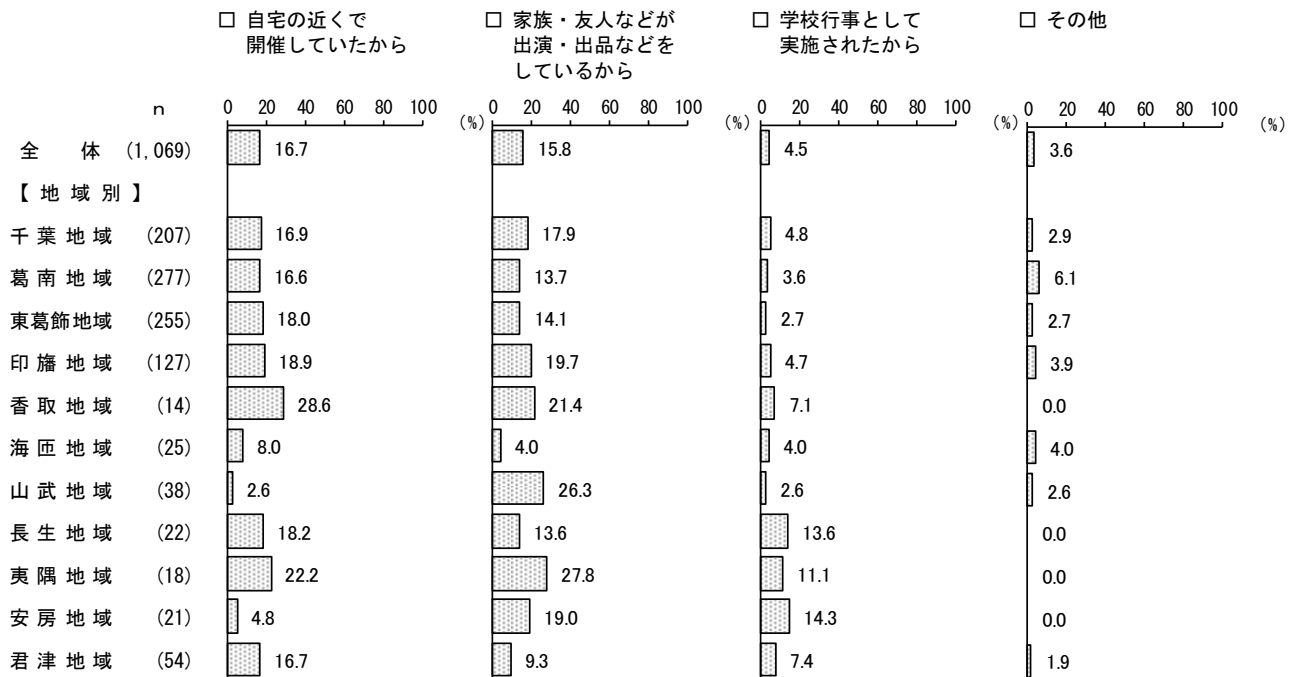
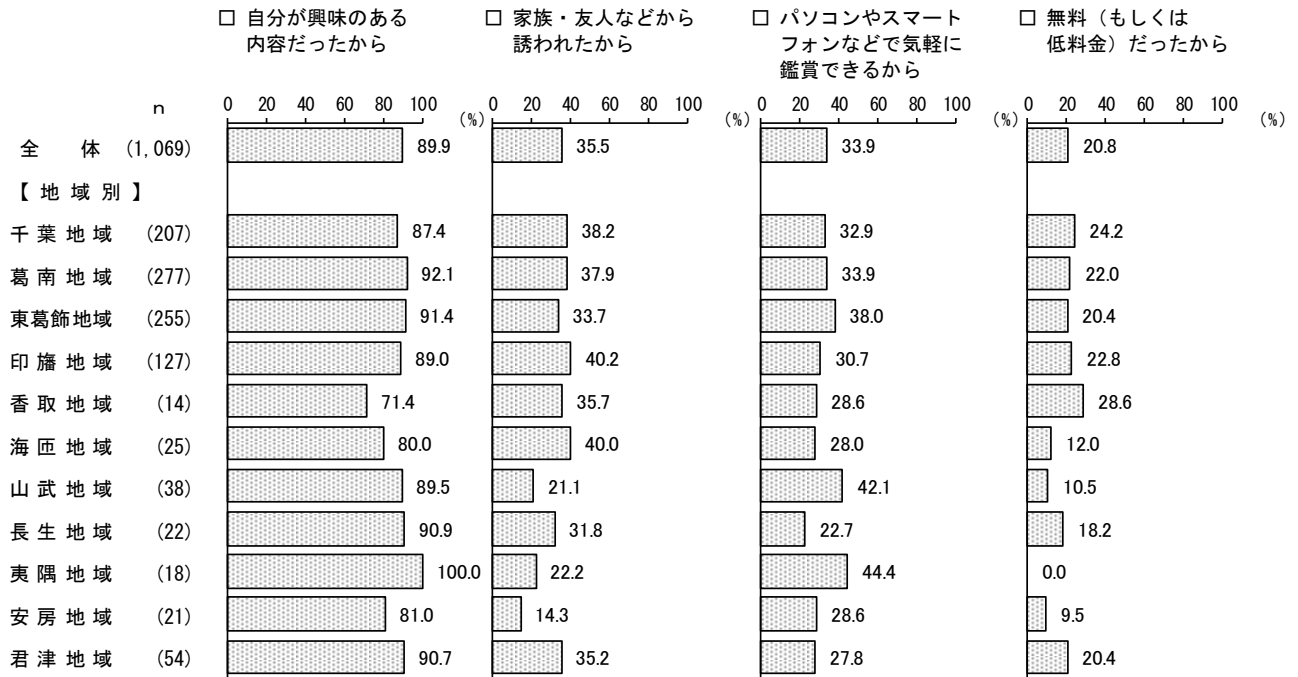
性・年代別でみると、「家族・友人などから誘われたから」は、女性の20代(50.0%)が5割、女性の40代(47.2%)が約5割で高くなっている。

「パソコンやスマートフォンなどで気軽に鑑賞できるから」は、男性の20代(54.1%)が5割台半ば、女性の30代(45.6%)、男性の40代(44.6%)が4割台半ばで、それぞれ高くなっている。

「無料(もしくは低料金)だったから」は、男性の60~64歳(40.0%)が4割、男性の40代(29.7%)が約3割で、それぞれ高くなっている。

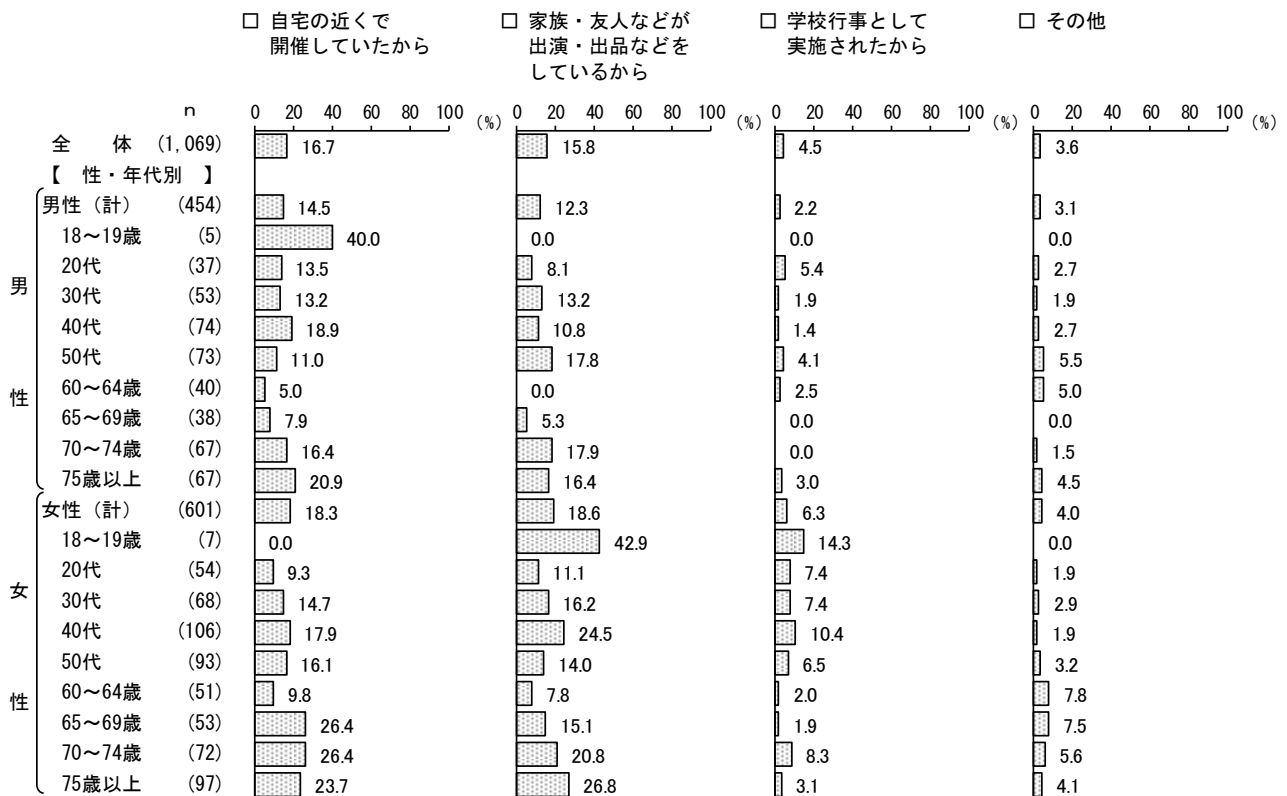
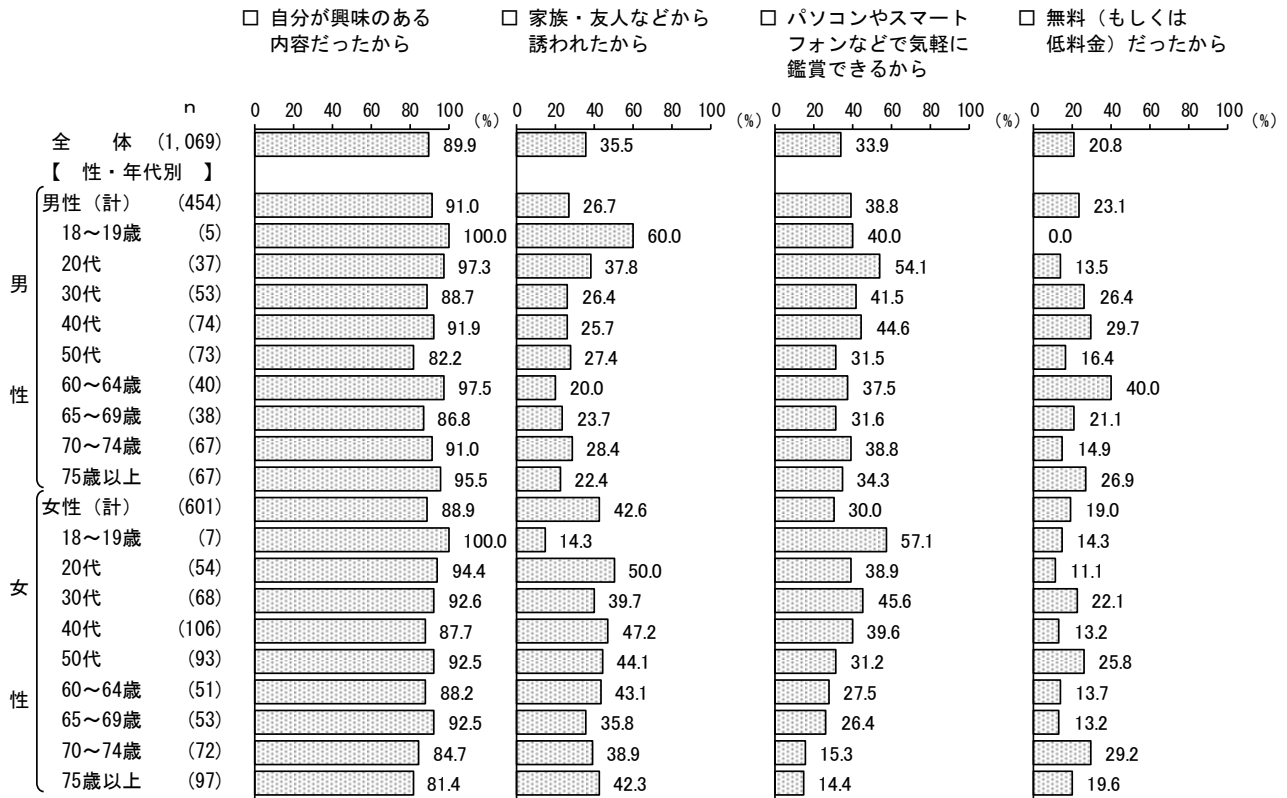
(図表1-6)

<図表 1-5>文化芸術を鑑賞した理由／地域別





<図表1-6>文化芸術を鑑賞した理由／性・年代別



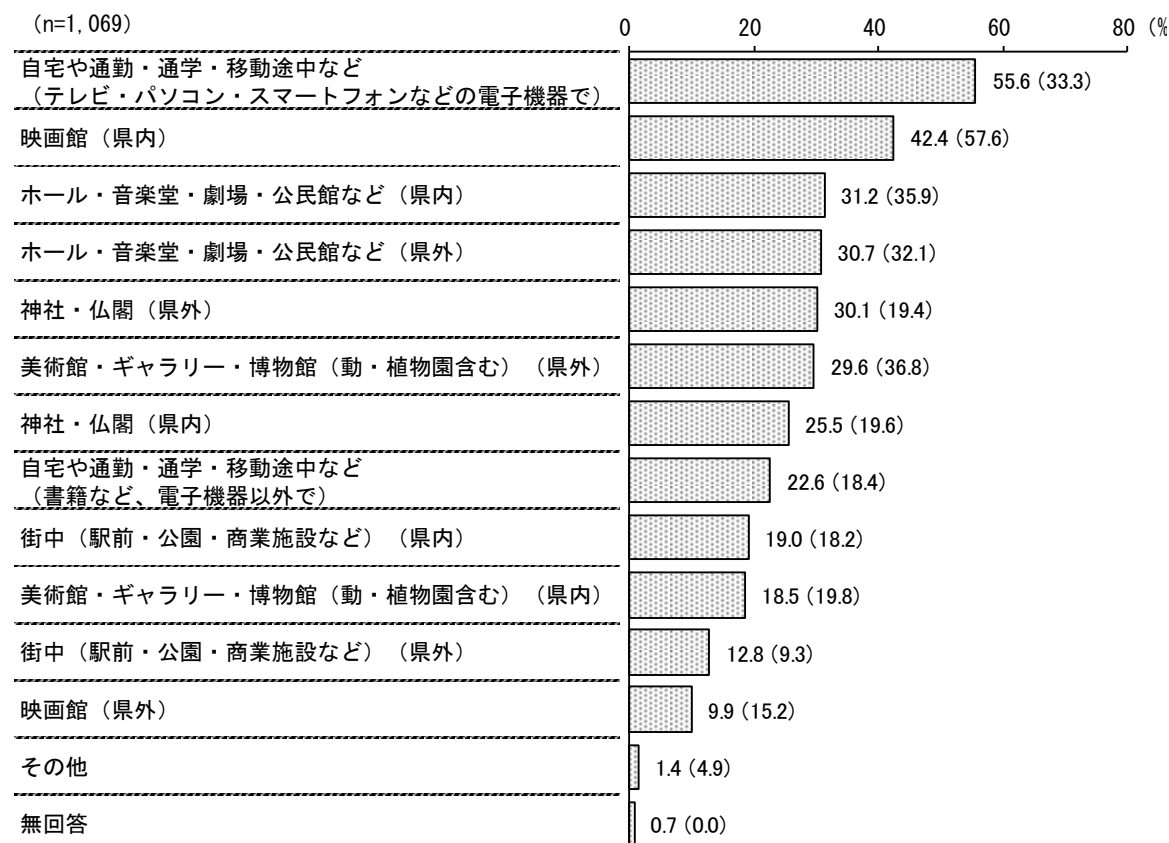
### (3) 文化芸術を鑑賞した場所

◇「自宅や通勤・通学・移動途中など（テレビ・パソコン・スマートフォンなどの電子機器で）」が5割台半ばで最も高い

【問1で「昨年度、文化芸術を鑑賞した」と回答した方に】

問3 昨年度、文化芸術をどこで鑑賞しましたか。（〇はいくつでも）

＜図表1-7＞文化芸術を鑑賞した場所



注) ( ) の数字は令和元年度の同様の項目による調査結果 n=900

※「自宅や通勤・通学・移動途中など（テレビ・パソコン・スマートフォンなどの電子機器で）」は、令和元年度では「自宅や通勤・通学・移動途中など（テレビ・パソコン・携帯などの電子機器で）」

※「街中（駅前・公園・商業施設など）（県内）」は、令和元年度では「街中（駅前・公園など）（県内）」

※「街中（駅前・公園・商業施設など）（県外）」は、令和元年度では「街中（駅前・公園など）（県外）」

「昨年度、文化芸術を鑑賞した」と回答した1,069人を対象に、鑑賞した場所を聞いたところ、「自宅や通勤・通学・移動途中など（テレビ・パソコン・スマートフォンなどの電子機器で）」（55.6%）が5割台半ばで最も高く、以下「映画館（県内）」（42.4%）、「ホール・音楽堂・劇場・公民館など（県内）」（31.2%）、「ホール・音楽堂・劇場・公民館など（県外）」（30.7%）が続く。

また、「映画館」は『県内』が『県外』に比べ約33ポイント高く、「美術館・ギャラリー・博物館（動・植物園含む）」は『県内』が『県外』に比べ約11ポイント低い。

（図表1-7）

### 【地域別】

地域別にみると、“東葛飾地域”は、「神社・仏閣（県外）」（36.1%）、「美術館・ギャラリー・博物館（動・植物園含む）（県外）」（35.7%）が3割台半ばで高くなっている。

（図表1－8）

### 【性・年代別】

性・年代別でみると、「自宅や通勤・通学・移動途中など（テレビ・パソコン・スマートフォンなどの電子機器で）」は、男性の30代（75.5%）が7割台半ば、男性の20代（73.0%）が7割を超え、それぞれ高くなっている。

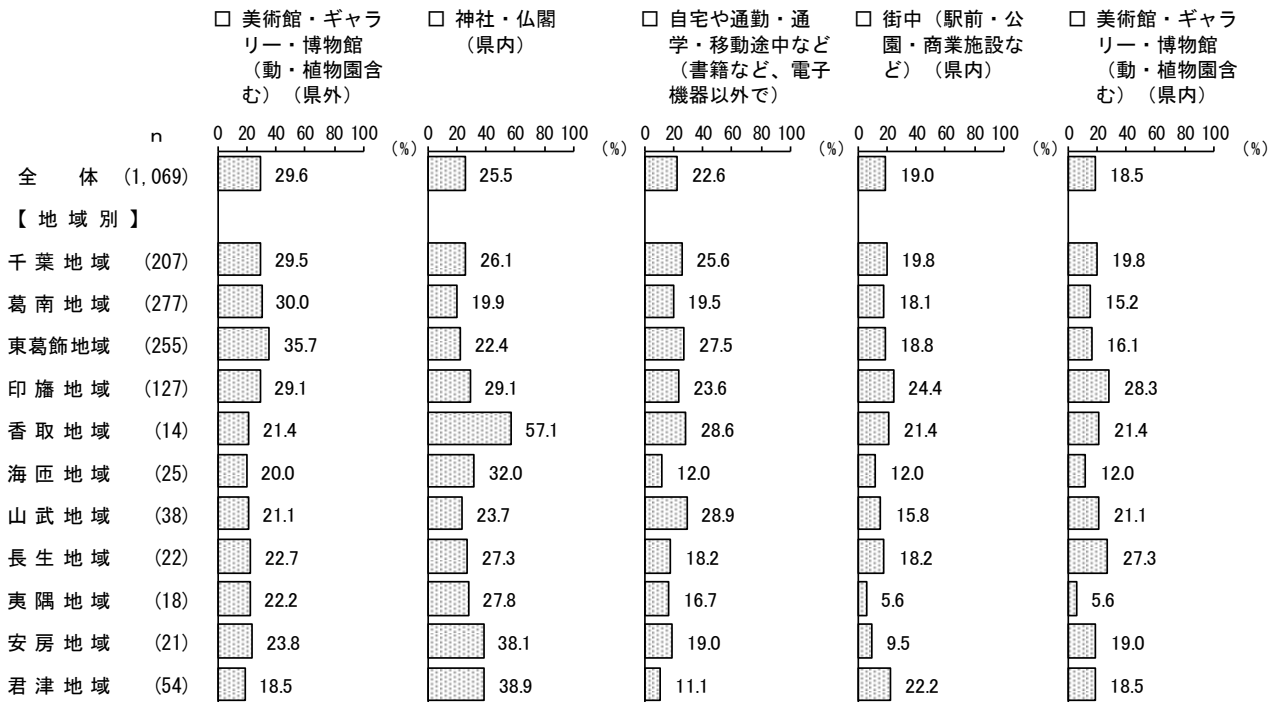
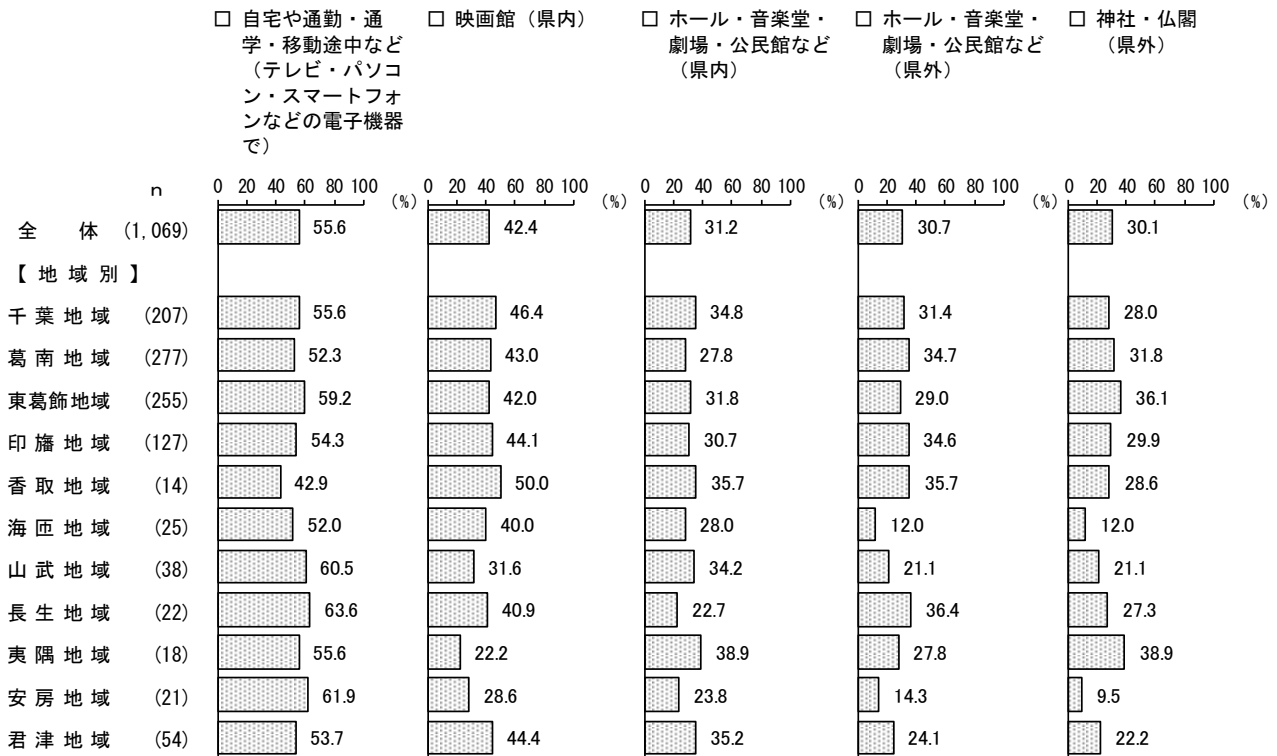
「映画館（県内）」は、女性の20代（64.8%）が6割台半ば、男性の30代（62.3%）が6割を超え、女性の40代（55.7%）が5割台半ばで、それぞれ高くなっている。

「ホール・音楽堂・劇場・公民館など（県内）」は、女性の65～69歳（47.2%）が約5割、女性の70～74歳（45.8%）、女性の75歳以上（45.4%）が4割台半ば、女性の40代（41.5%）が4割を超え、それぞれ高くなっている。

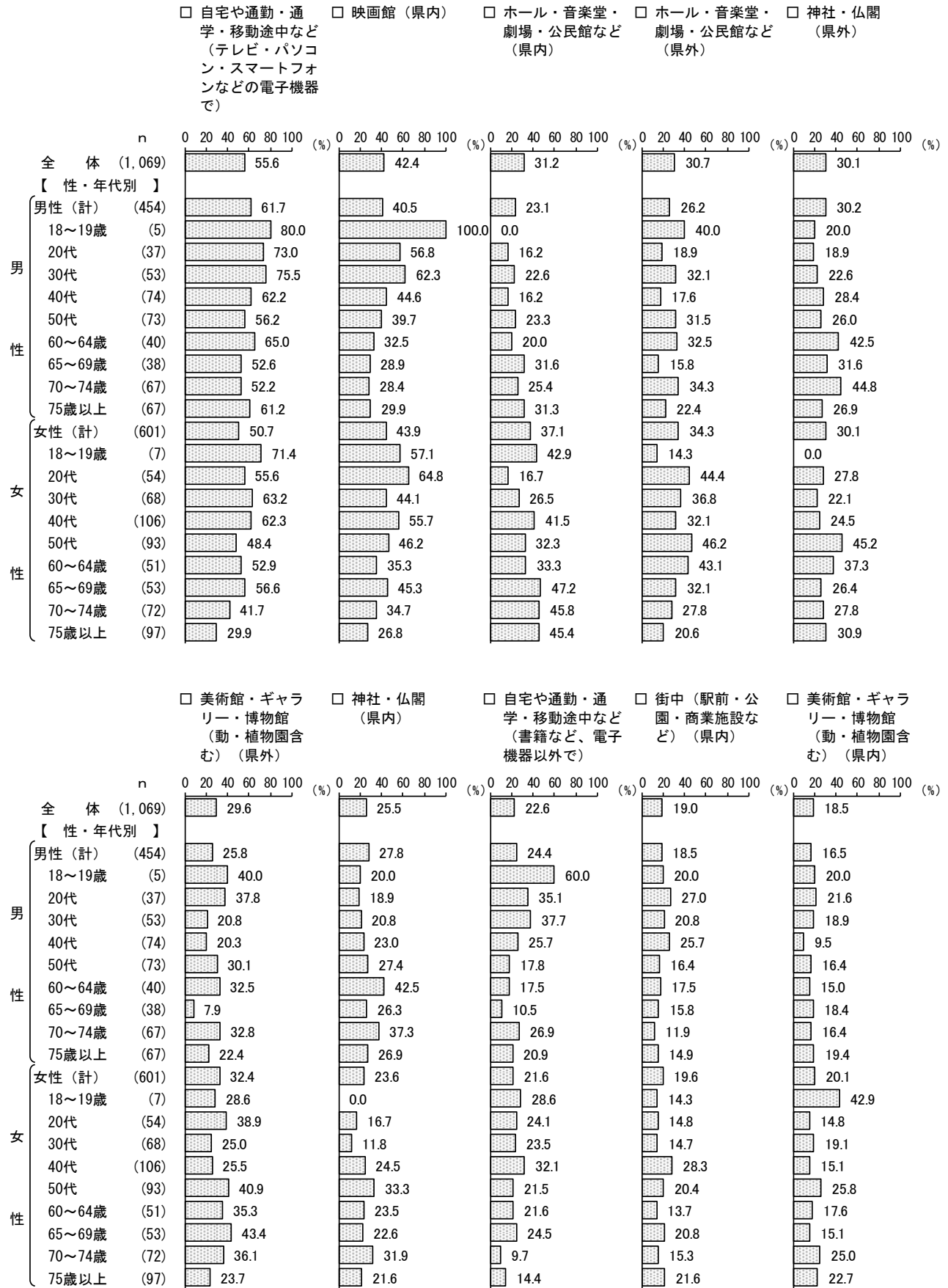
「ホール・音楽堂・劇場・公民館など（県外）」は、女性の50代（46.2%）、女性の20代（44.4%）が4割台半ば、女性の60～64歳（43.1%）が4割を超え、それぞれ高くなっている。

（図表1－9）

<図表1-8>文化芸術を鑑賞した場所／地域別（上位10項目）

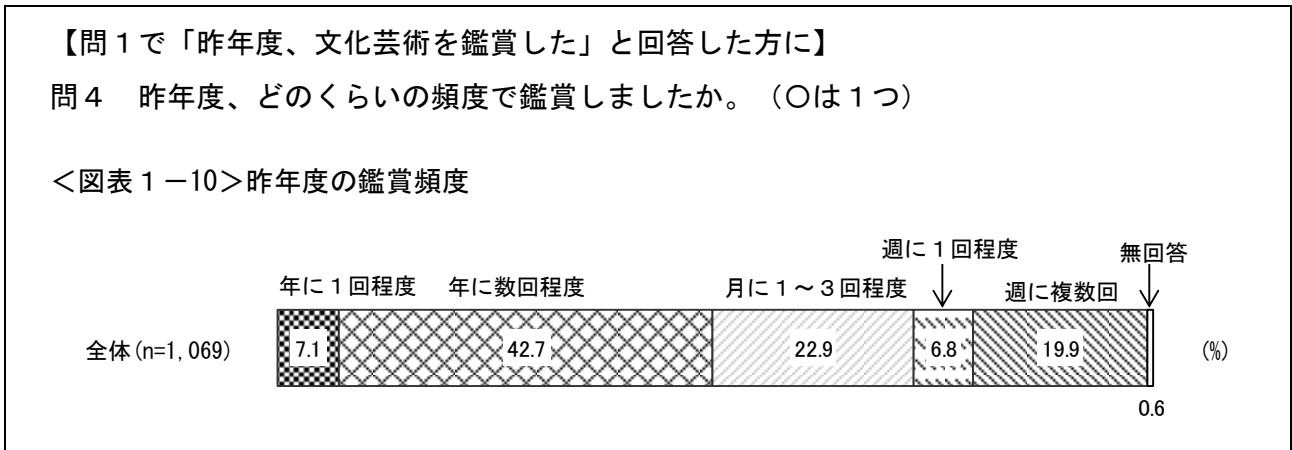


<図表1-9>文化芸術を鑑賞した場所／性・年代別（上位10項目）



(4) 昨年度の鑑賞頻度

◇「年に数回程度」が4割を超えて最も高い



「昨年度、文化芸術を鑑賞した」と回答した1,069人を対象に、鑑賞頻度を聞いたところ、「年に数回程度」(42.7%)が4割を超えて最も高く、以下「月に1~3回程度」(22.9%)、「週に複数回」(19.9%)、「年に1回程度」(7.1%)、「週に1回程度」(6.8%)となっている。

(図表1-10)

【地域別】

地域別で特に大きな違いは見られない。

(図表1-11)

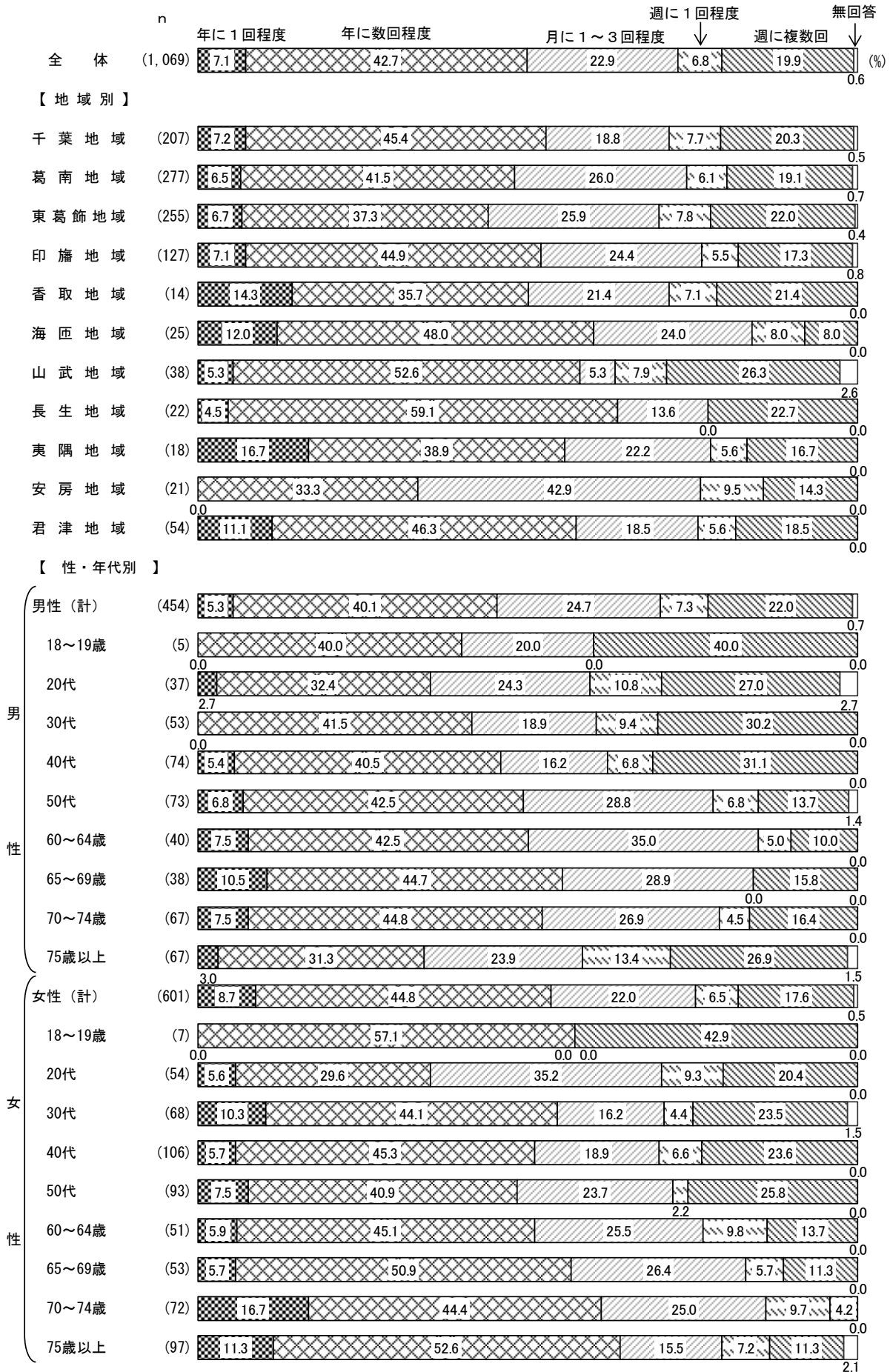
【性・年代別】

性・年代別でみると、「年に数回程度」は女性の75歳以上(52.6%)が5割を超えて高くなっている。

「週に複数回」は、男性の40代(31.1%)が3割を超えて高くなっている。

(図表1-11)

<図表 1-11> 昨年度の鑑賞頻度／地域別、性・年代別



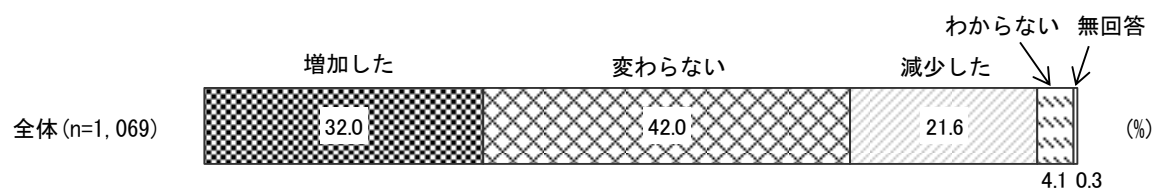
## (5) コロナ禍前と比べた鑑賞頻度の増減

◇「増加した」が3割を超え、「減少した」を上回る

【問1で「昨年度、文化芸術を鑑賞した」と回答した方に】

問5 問4で回答した頻度は、2020年4月以前（新型コロナウイルス感染症による1回目の緊急事態宣言の以前）と比較して、増加したと思いますか、減少したと思いますか。  
(○は1つ)

＜図表1-12＞コロナ禍前と比べた鑑賞頻度の増減



「昨年度、文化芸術を鑑賞した」と回答した1,069人を対象に、コロナ禍前と比べた鑑賞頻度の増減を聞いたところ、「増加した」(32.0%)が3割を超え、「減少した」(21.6%)を上回っている。

また、「変わらない」(42.0%)が4割を超えている。

(図表1-12)

### 【地域別】

地域別で特に大きな違いは見られない。

(図表1-13)

### 【性・年代別】

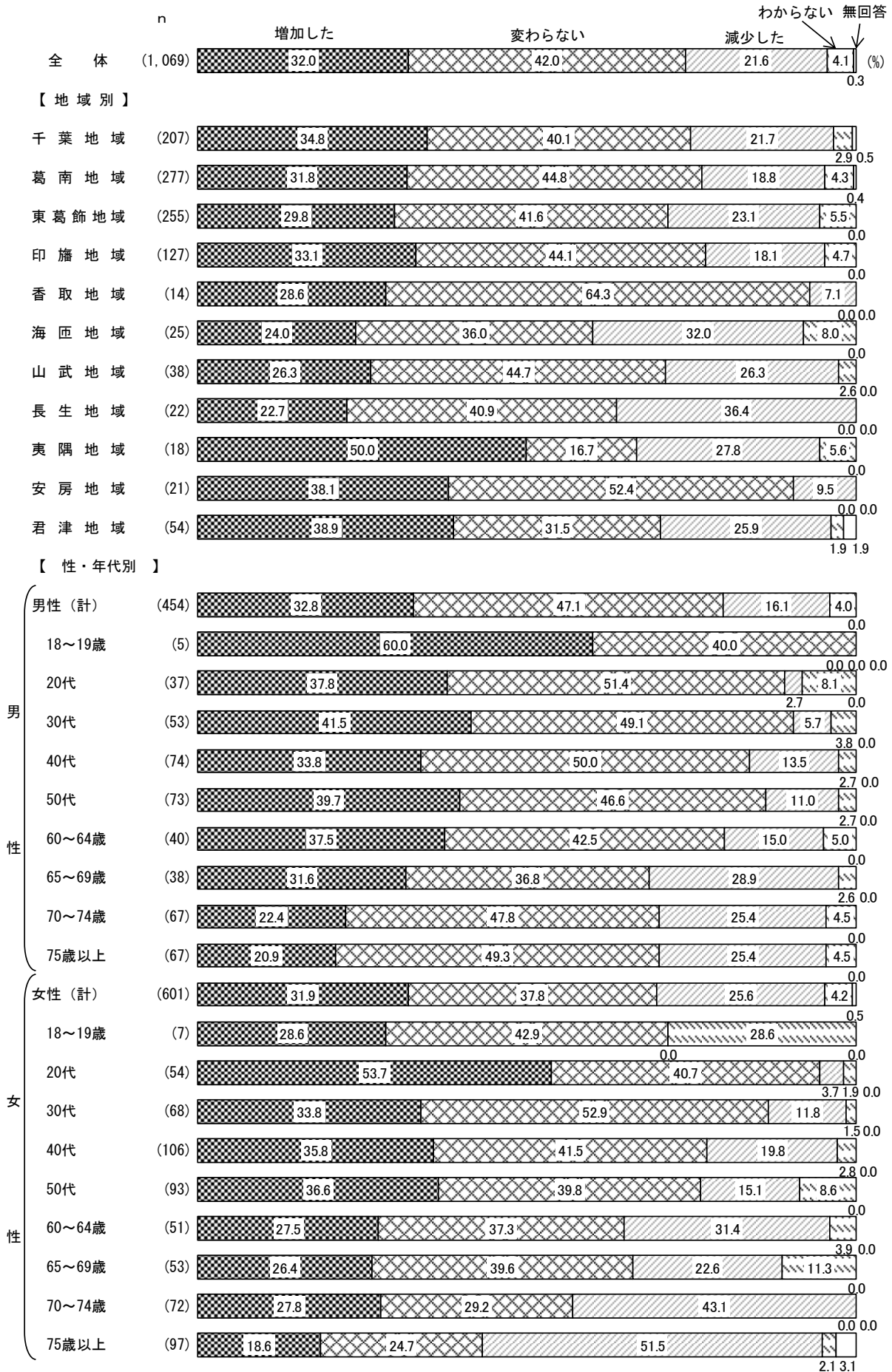
性・年代別でみると、「増加した」は、女性の20代(53.7%)が5割台半ばで高くなっている。

一方で「減少した」は、女性の75歳以上(51.5%)が5割を超え、女性の70～74歳(43.1%)が4割を超え、それぞれ高くなっている。

(図表1-13)



<図表 1-13> コロナ禍前と比べた鑑賞頻度の増減／地域別、性・年代別



(6) コロナ禍前と比べた鑑賞についての変化（自由記述の集計）

◇「自宅での鑑賞が増えた」が最も多い

【問1で「昨年度、文化芸術を鑑賞した」と回答した方に】

問6 2020年4月以前（新型コロナウイルス感染症による1回目の緊急事態宣言の以前）と比べて、文化芸術を鑑賞することに対して何か変化はありましたか。（例えば「自宅での鑑賞が増えた」、「鑑賞に対する気持ちが変わった」など）  
どのようなことでも結構ですので、ご自由にお書きください。

<図表1-14> コロナ禍前と比べた鑑賞についての変化（自由記述）

順位	内容	件数
第1位	自宅での鑑賞が増えた	187
第2位	人混みは避けるようになった	68
第3位	インターネットや、動画配信で鑑賞することが増えた	63
第4位	鑑賞したい／行ける時に行きたいという気持ちになった	37
第5位	外出して鑑賞することが少なくなった	34
〃	鑑賞に出かける頻度が増えた	34
第7位	感染予防の意識が強くなった	30
〃	外出しなくなった	30
第9位	外出の機会が増えた	29
第10位	直接鑑賞できることのありがたさを知った	28
第11位	テレビで鑑賞することが増えた	24
〃	マスクを着用するようになった	24
第13位	コロナ禍前に戻った／気にしなくなった	18
第14位	近場で済ませることが多くなった	10
第15位	イベント等の開催が減った	8
第16位	鑑賞する頻度が減った	7
第17位	旅行先での鑑賞が増えた	6
〃	美術館などが予約が必要になった	6
第19位	読書が増えた	4
-	その他	37
-	変化なし／特になし	179

合 計（延べ件数） 863

※回答内容ごとに項目へ分類。

※一人の回答が複数の内容にわたる場合には、それぞれの項目へ分類。

「昨年度、文化芸術を鑑賞した」と回答した1,069人を対象に、コロナ禍前と比べた鑑賞についての変化について聞いたところ、「自宅での鑑賞が増えた」が187件で最も多く、以下「人混みは避けるようになった」（68件）、「インターネットや、動画配信で鑑賞することが増えた」（63件）、「鑑賞したい／行ける時に行きたいという気持ちになった」（37件）が続く。

(図表1-14)

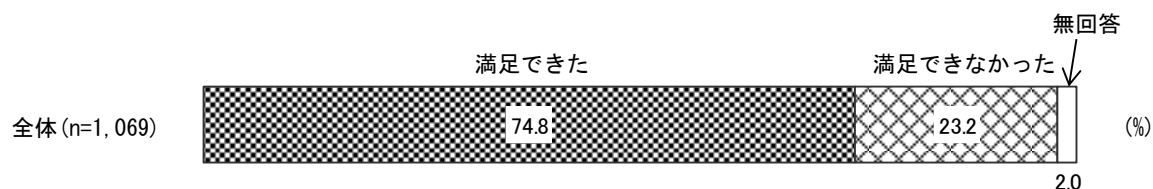
## (7) 鑑賞した回数や内容の満足度

◇「満足できた」が7割台半ば

【問1で「昨年度、文化芸術を鑑賞した」と回答した方に】

問7 昨年度、文化芸術を鑑賞した回数や内容に満足できましたか。(○は1つ)

〈図表1-15〉鑑賞した回数や内容の満足度



「昨年度、文化芸術を鑑賞した」と回答した1,069人を対象に、鑑賞した回数や内容に満足できたかを聞いたところ、「満足できた」(74.8%)が7割台半ばとなっている。

一方で「満足できなかった」(23.2%)が2割を超えている。

(図表1-15)

### 【地域別】

地域別にみると、「満足できた」は、「千葉地域」(81.2%)が8割を超えて高くなっている。

(図表1-16)

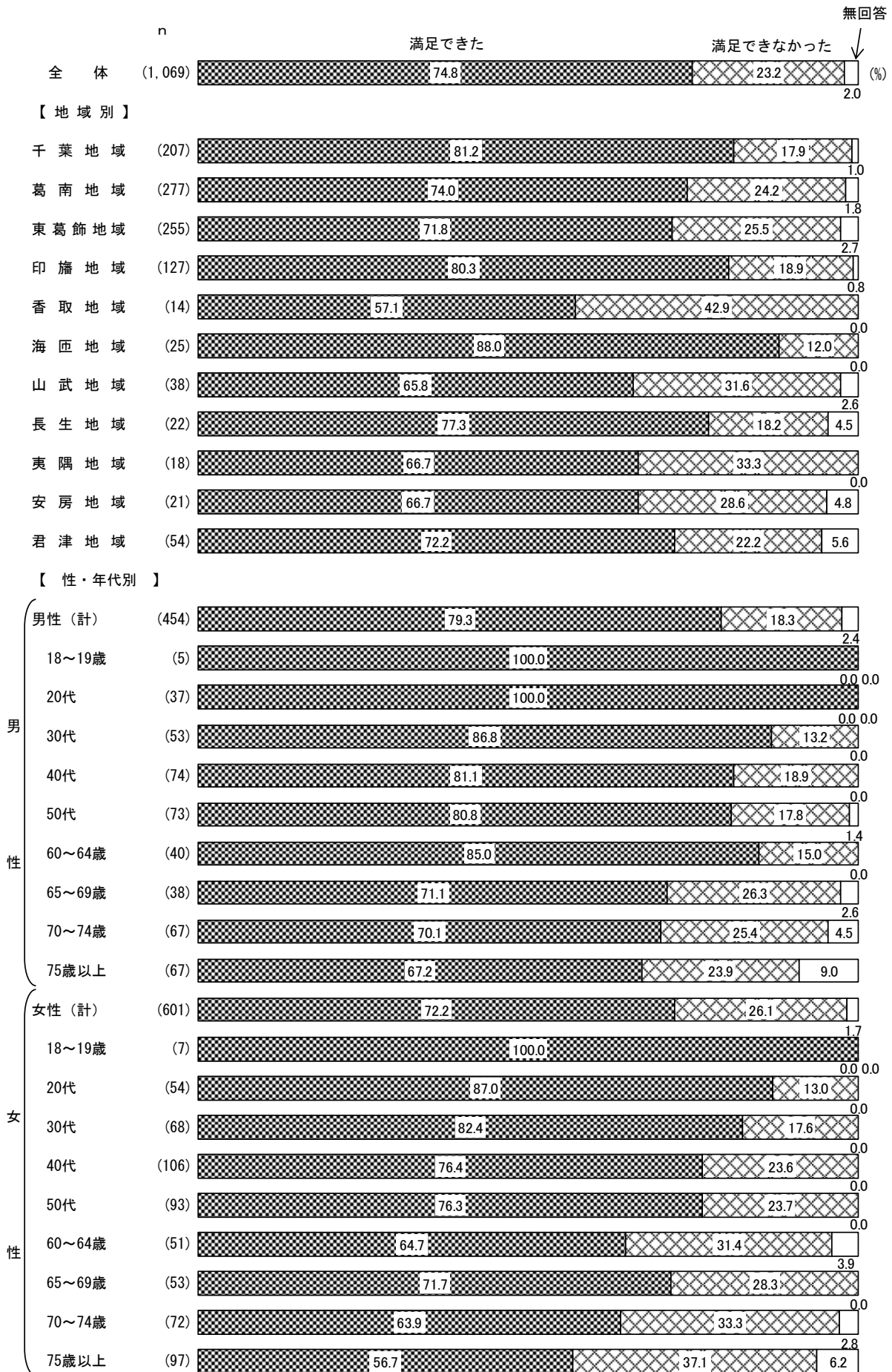
### 【性・年代別】

性・年代別でみると、「満足できた」は、男性の20代(100.0%)が10割、女性の20代(87.0%)が約9割、男性の30代(86.8%)が8割台半ばで、それぞれ高くなっている。

一方で「満足できなかった」は、女性の75歳以上(37.1%)が約4割、女性の70～74歳(33.3%)が3割を超え、それぞれ高くなっている。

(図表1-16)

<図表 1-16>鑑賞した回数や内容の満足度／地域別、性・年代別



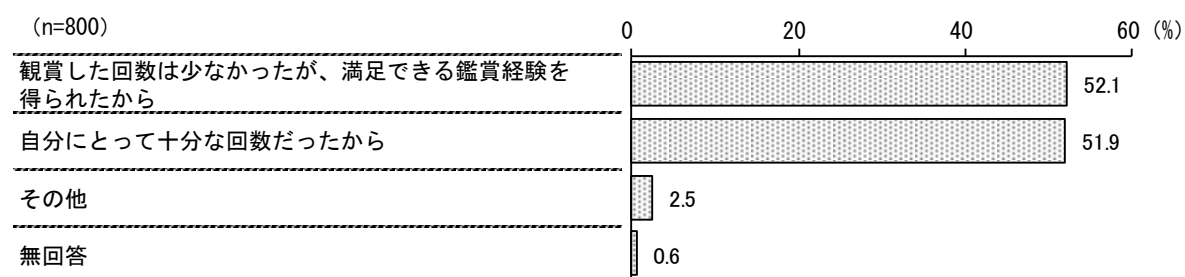
## (8) 「満足できた」理由

◇「観賞した回数は少なかったが、満足できる鑑賞経験を得られたから」、「自分にとって十分な回数だったから」がともに5割を超える

【問7で「1 満足できた」とお答えの方に】

問8 満足できた理由はなんですか。(〇はいくつでも)

<図表1-17> 「満足できた」理由



「満足できた」と回答した800人を対象に、その理由を聞いたところ、「観賞した回数は少なかったが、満足できる鑑賞経験を得られたから」(52.1%)、「自分にとって十分な回数だったから」(51.9%)がともに5割を超えている。

(図表1-17)

### 【地域別】

地域別で特に大きな違いは見られない。

(図表1-18)

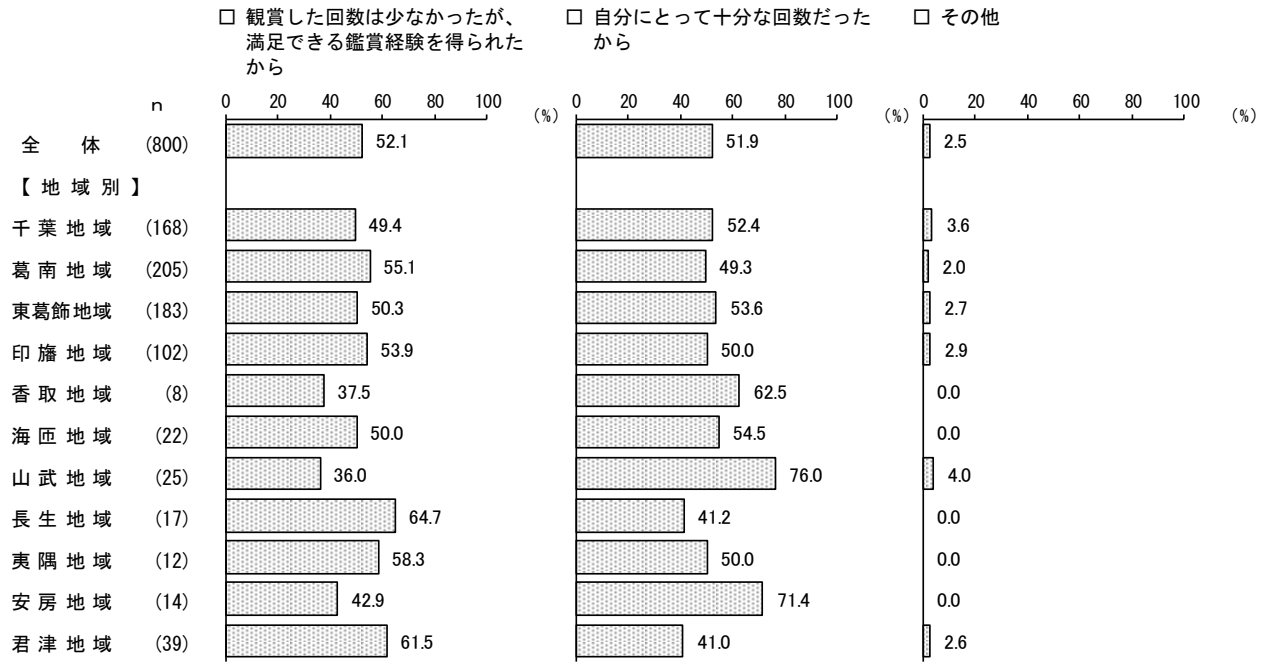
### 【性・年代別】

性・年代別で見ると、「観賞した回数は少なかったが、満足できる鑑賞経験を得られたから」は、女性の70～74歳(71.7%)が7割を超え、女性の50代(63.4%)が6割を超え、それぞれ高くなっている。

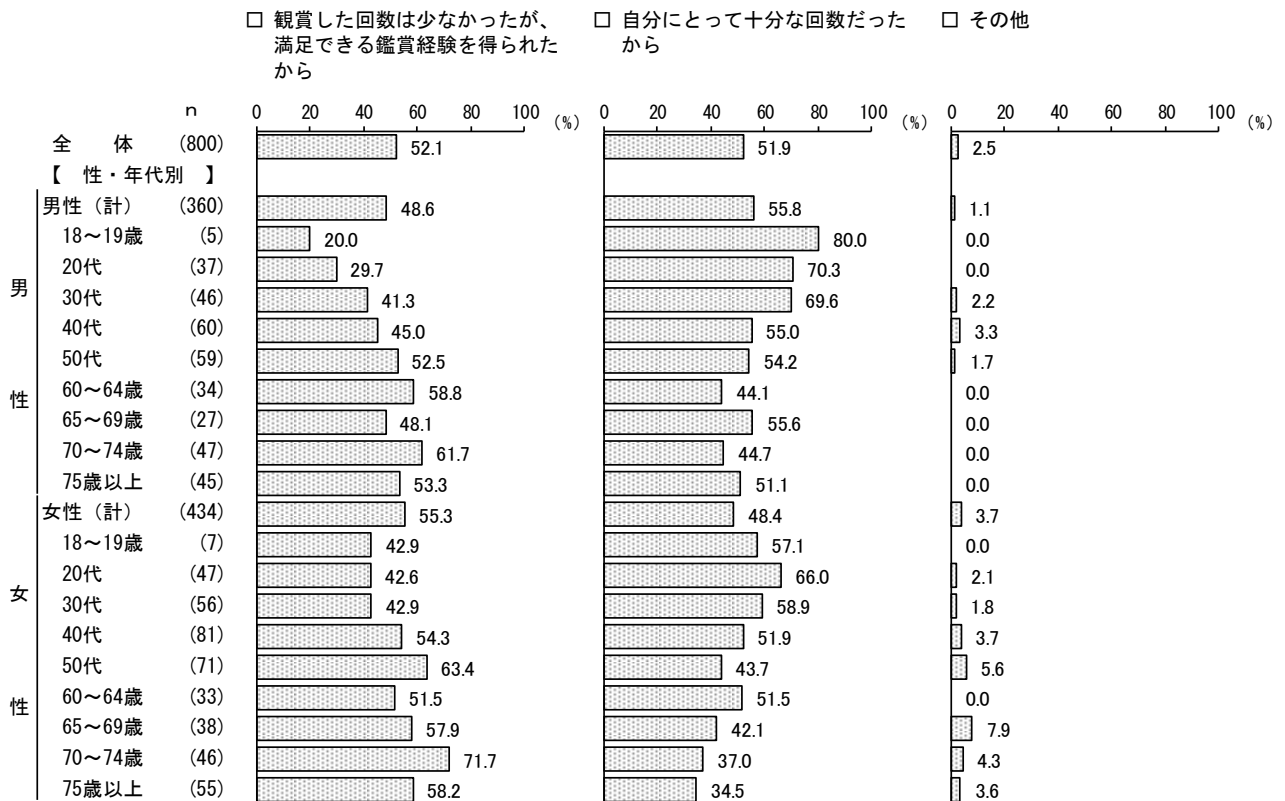
「自分にとって十分な回数だったから」は、男性の20代(70.3%)が7割、男性の30代(69.6%)が約7割、女性の20代(66.0%)が6割台半ばで、それぞれ高くなっている。

(図表1-19)

<図表 1-18> 「満足できた」理由／地域別



<図表 1-19> 「満足できた」理由／性・年代別



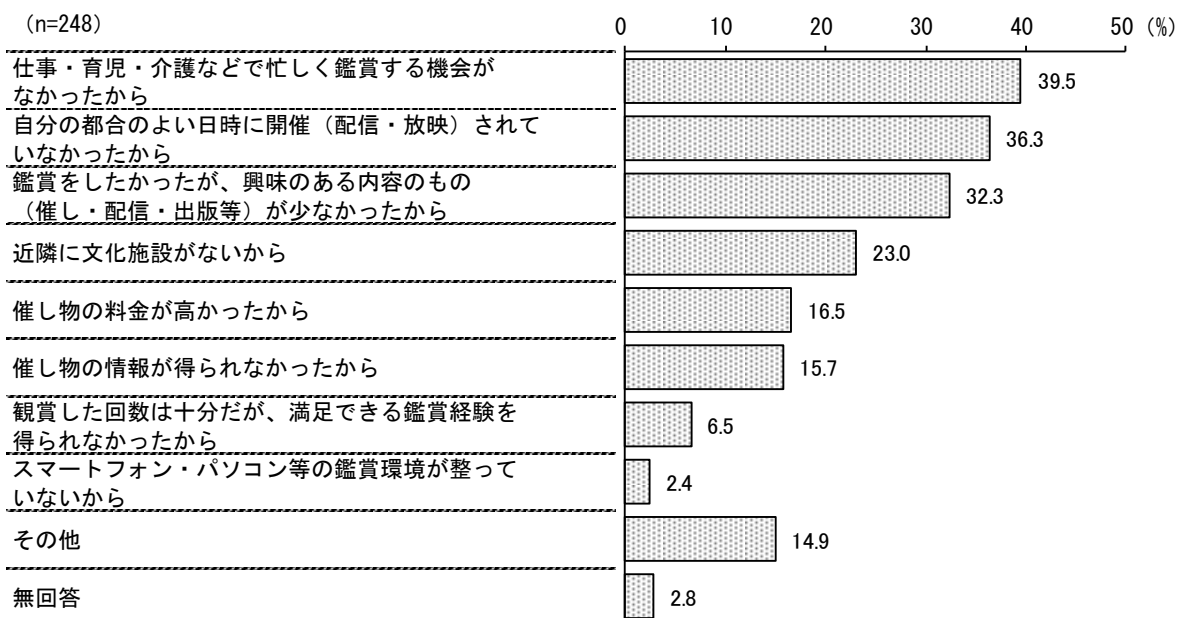
(9) 「満足できなかった」理由

◇「仕事・育児・介護などで忙しく鑑賞する機会がなかったから」が約4割で最も高い

【問7で「2 満足できなかった」とお答えの方に】

問9 満足できなかった理由はなんですか。(〇はいくつでも)

<図表1-20> 「満足できなかった」理由



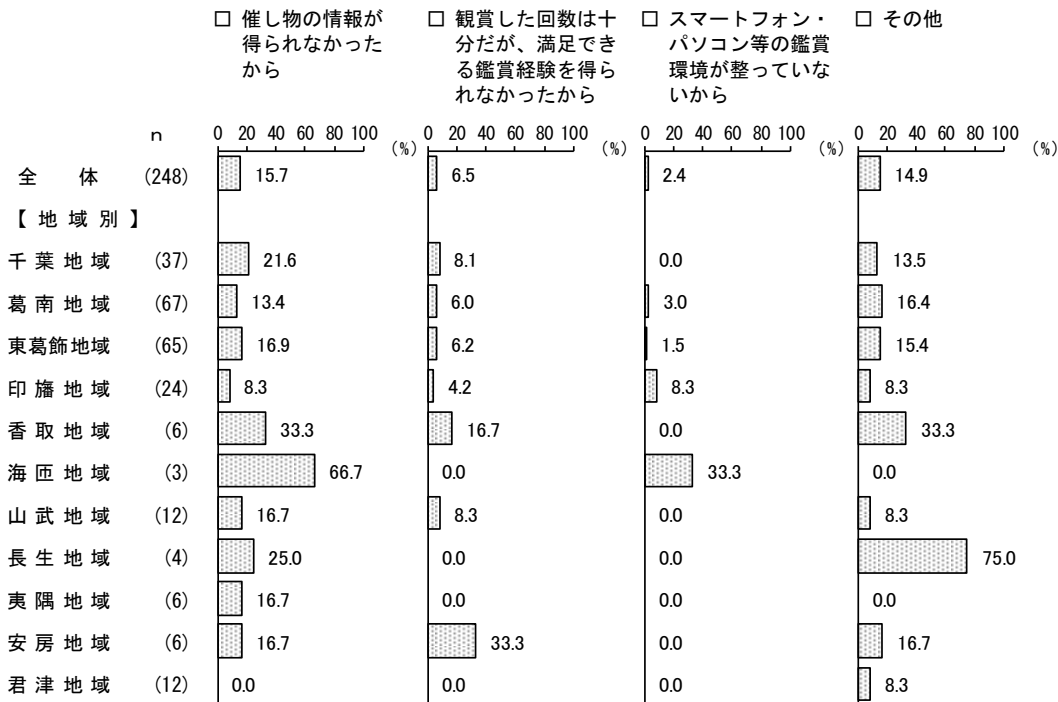
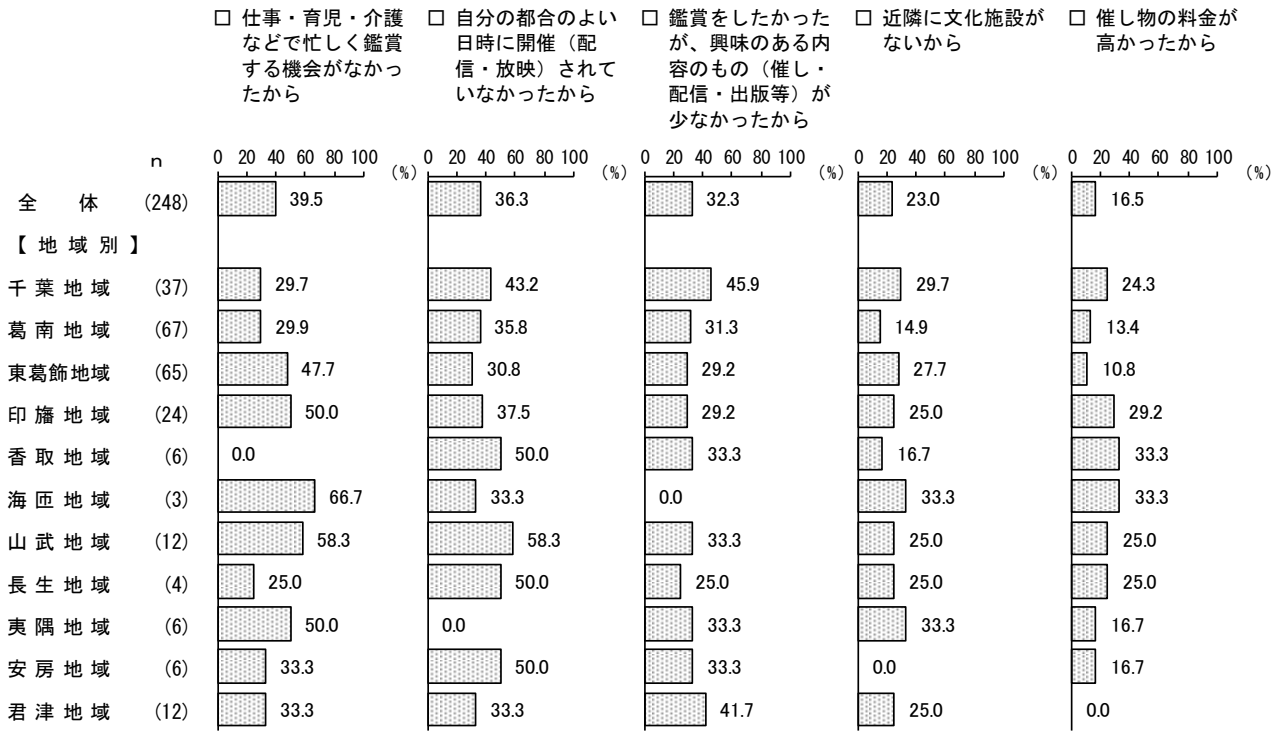
「満足できなかった」と回答した248人を対象に、満足できなかった理由を聞いたところ、「仕事・育児・介護などで忙しく鑑賞する機会がなかったから」(39.5%)が約4割で最も高く、以下「自分の都合のよい日時に開催(配信・放映)されていなかったから」(36.3%)、「鑑賞をしたかったが、興味のある内容のもの(催し・配信・出版等)が少なかったから」(32.3%)、「近隣に文化施設がないから」(23.0%)が続く。

(図表1-20)

※サンプル数が少ないため、【地域別】、【性・年代別】は参考までに図示するにとどめる。

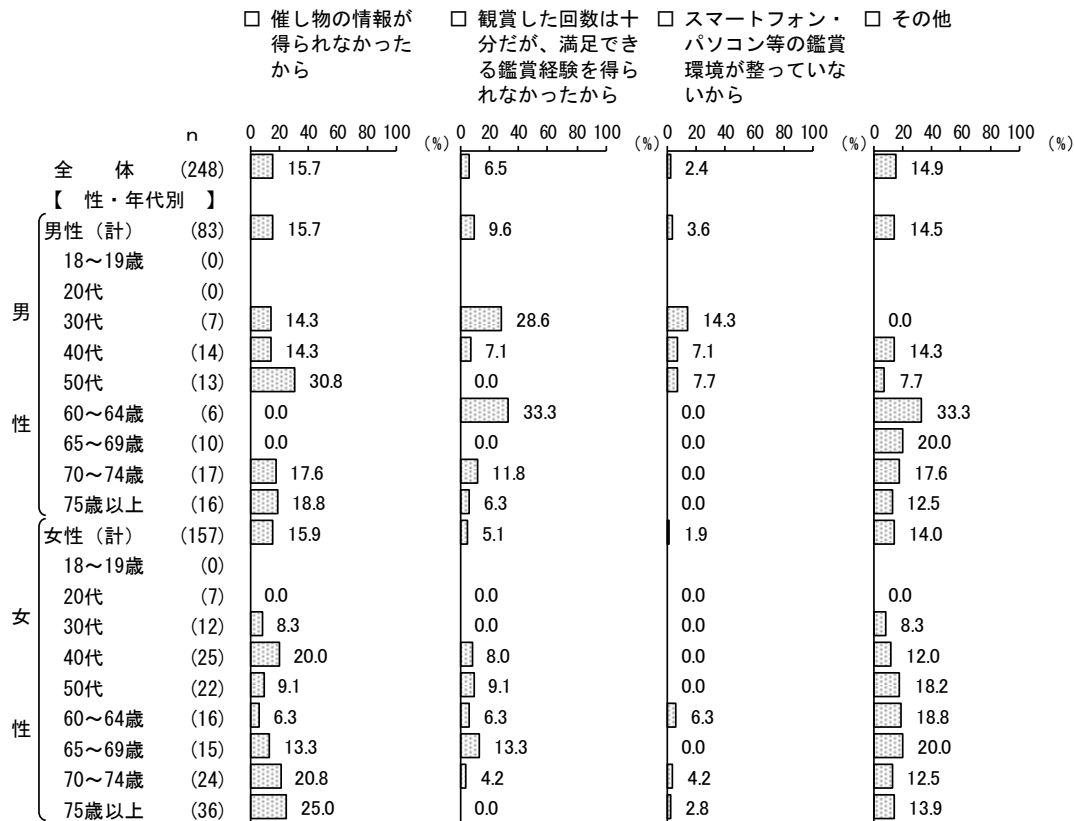
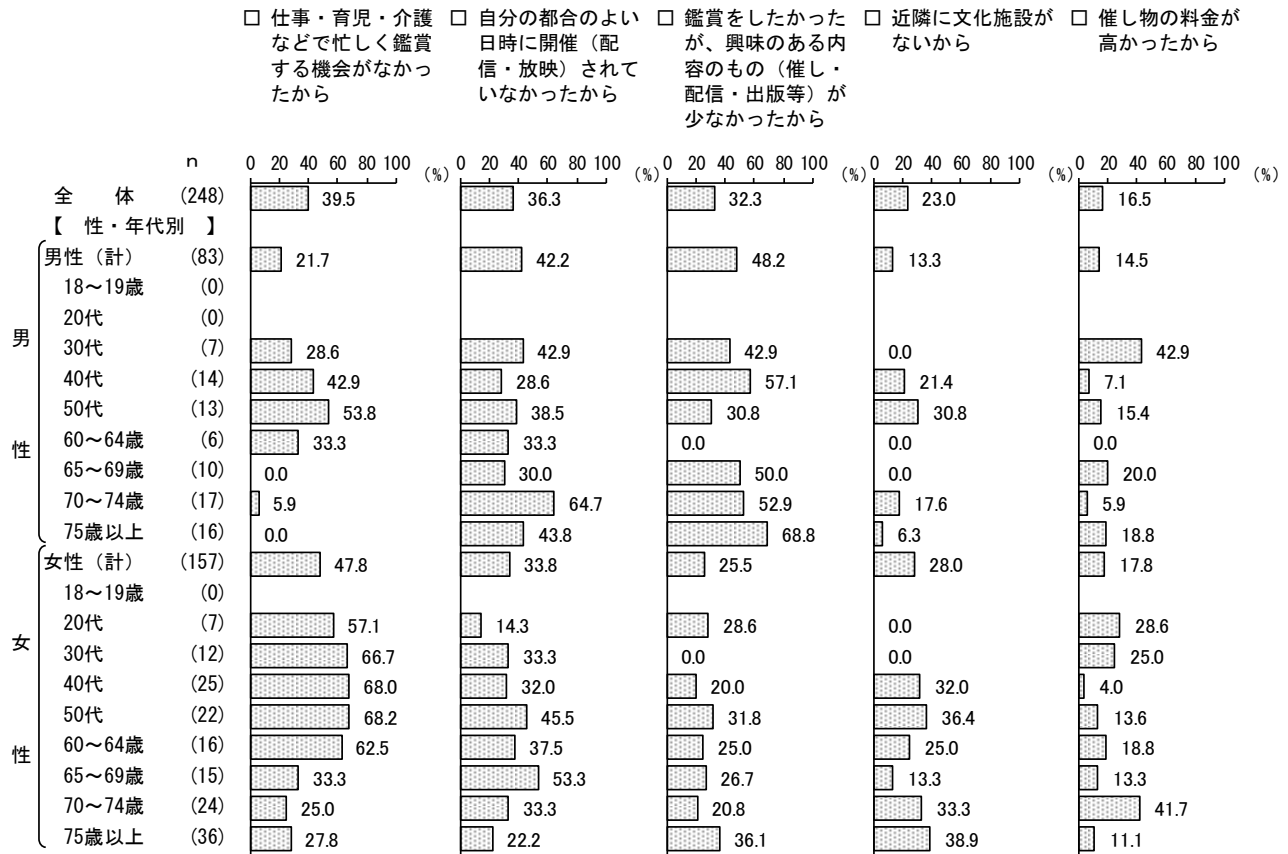
(11ページ「報告書の見方(4)」を参照) (図表1-21) (図表1-22)

<図表 1-21> 「満足できなかった」理由／地域別



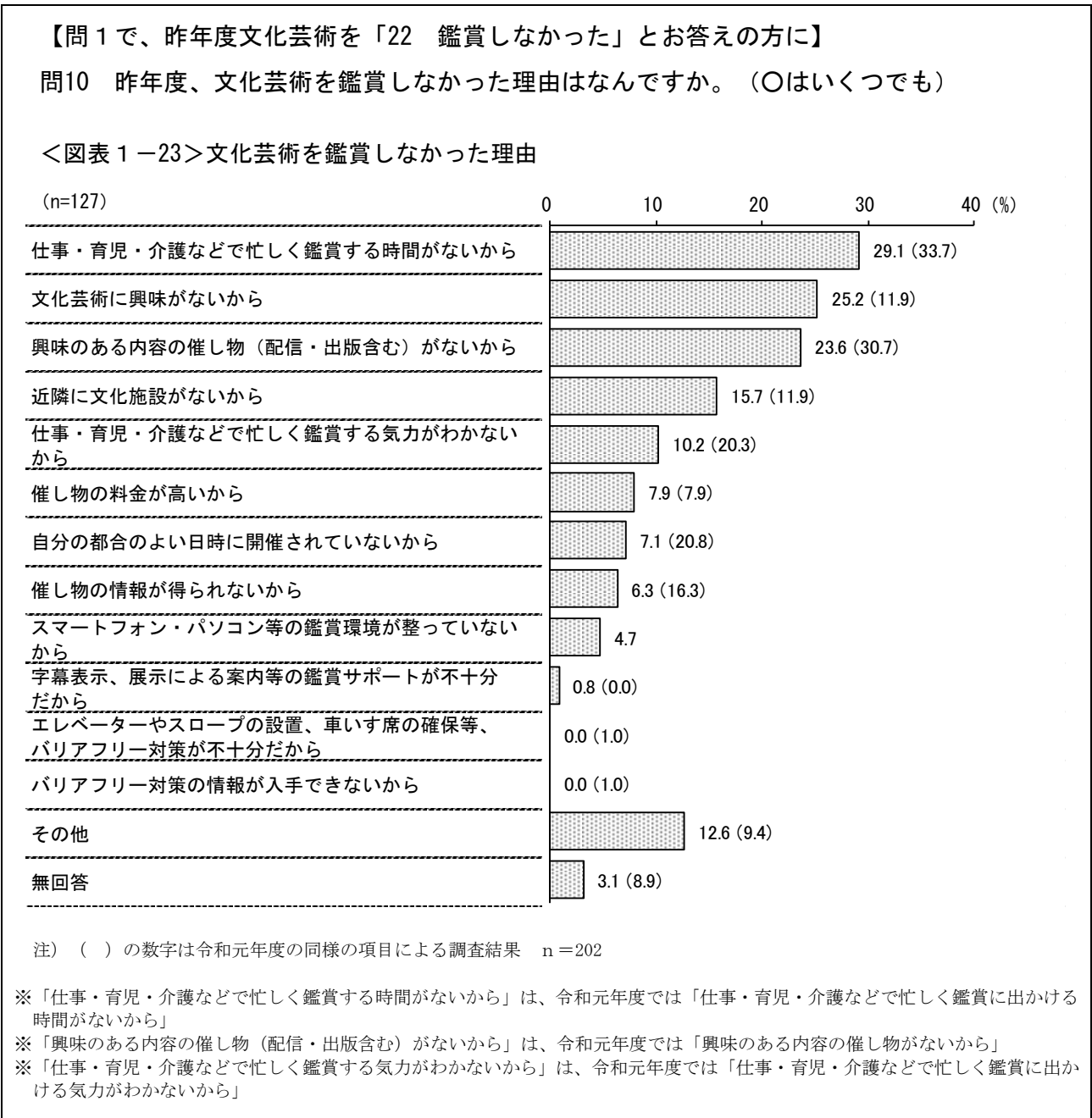


<図表1-22> 「満足できなかった」理由／性・年代別



(10) 文化芸術を鑑賞しなかった理由

◇「仕事・育児・介護などで忙しく鑑賞する時間がないから」が約3割で最も高い

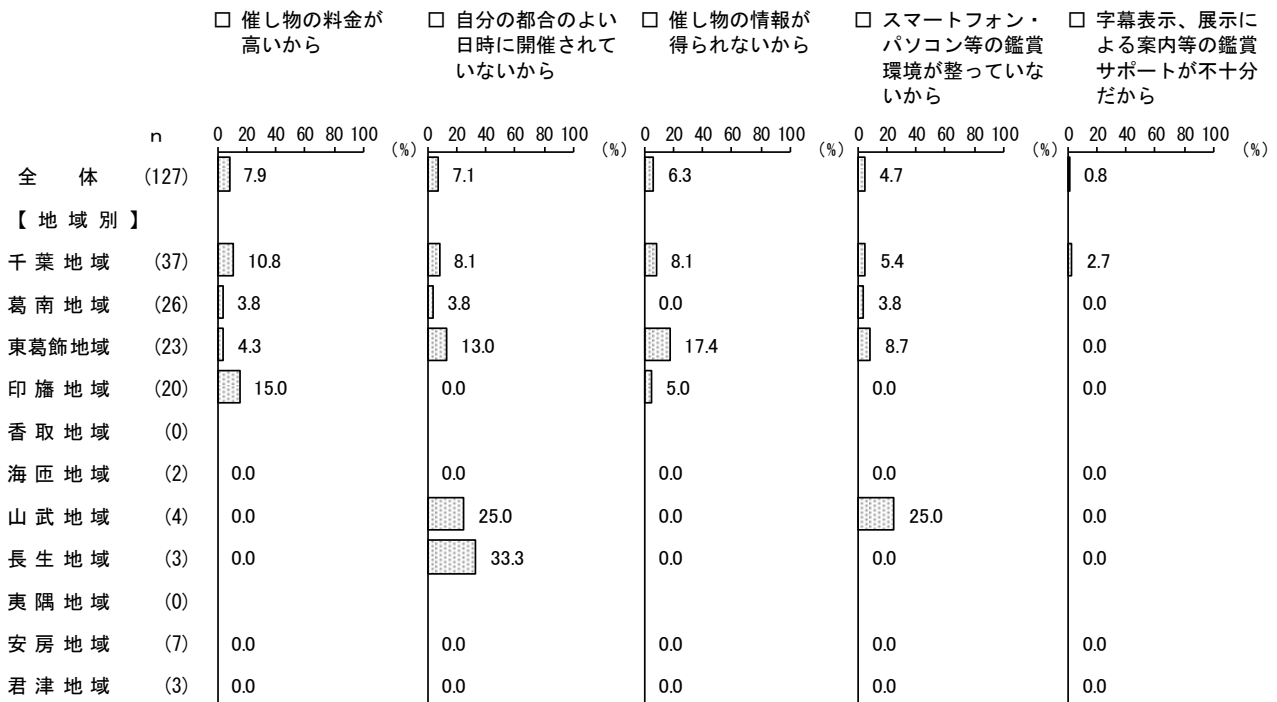
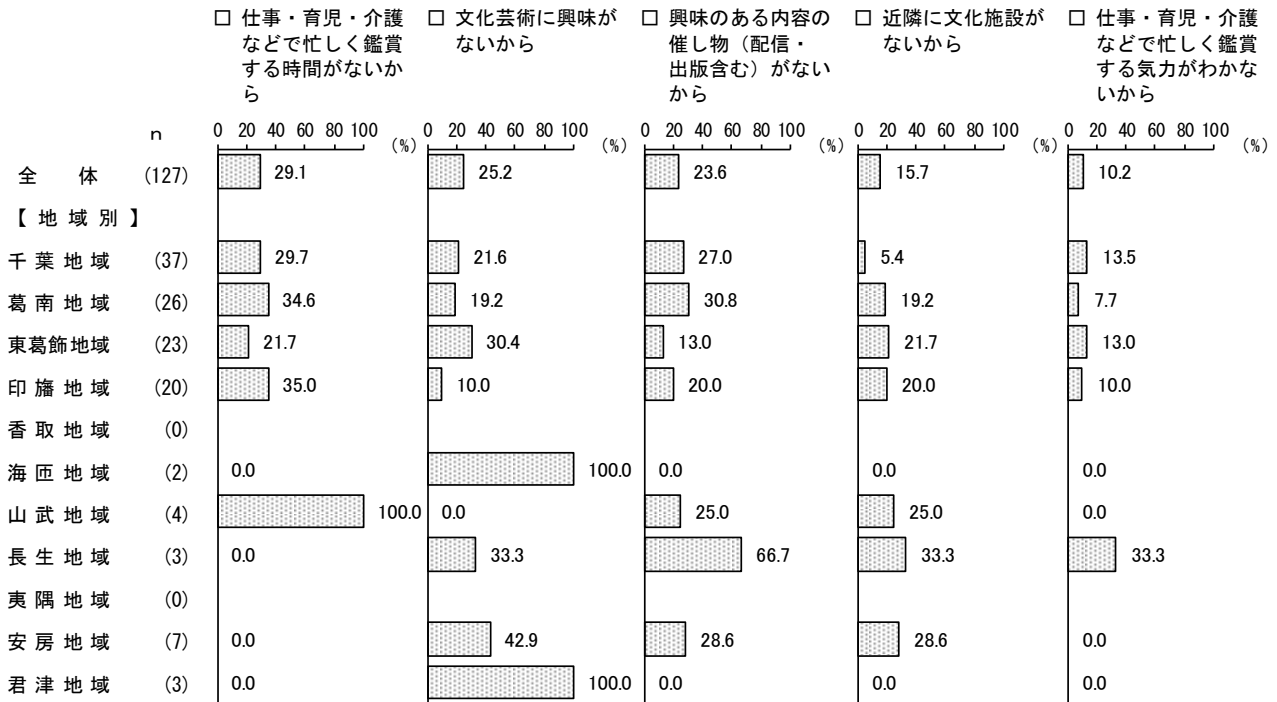


「昨年度に文化芸術を鑑賞しなかった方」127人を対象に、その理由を聞いたところ、「仕事・育児・介護などで忙しく鑑賞する時間がないから」（29.1%）が約3割で最も高く、以下「文化芸術に興味がないから」（25.2%）、「興味のある内容の催し物（配信・出版含む）がないから」（23.6%）、「近隣に文化施設がないから」（15.7%）が続く。

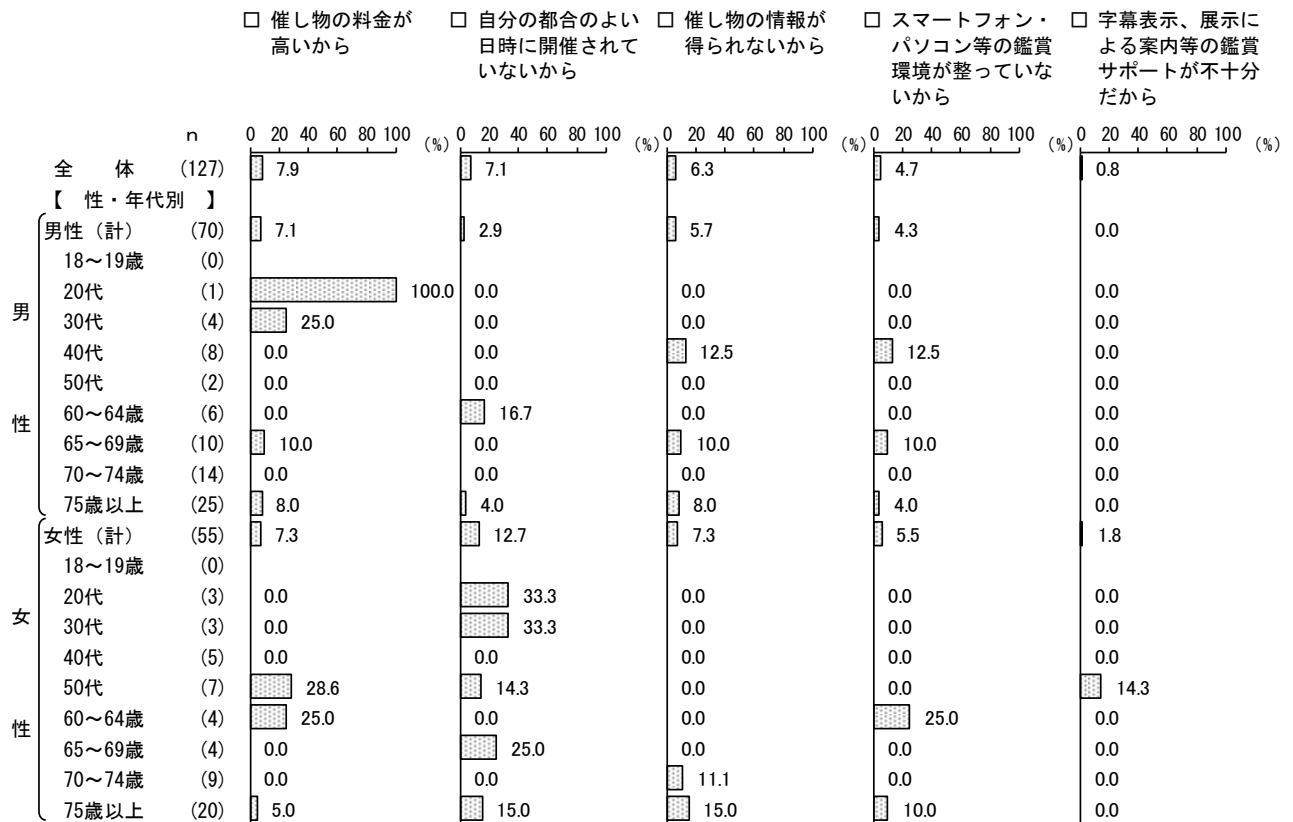
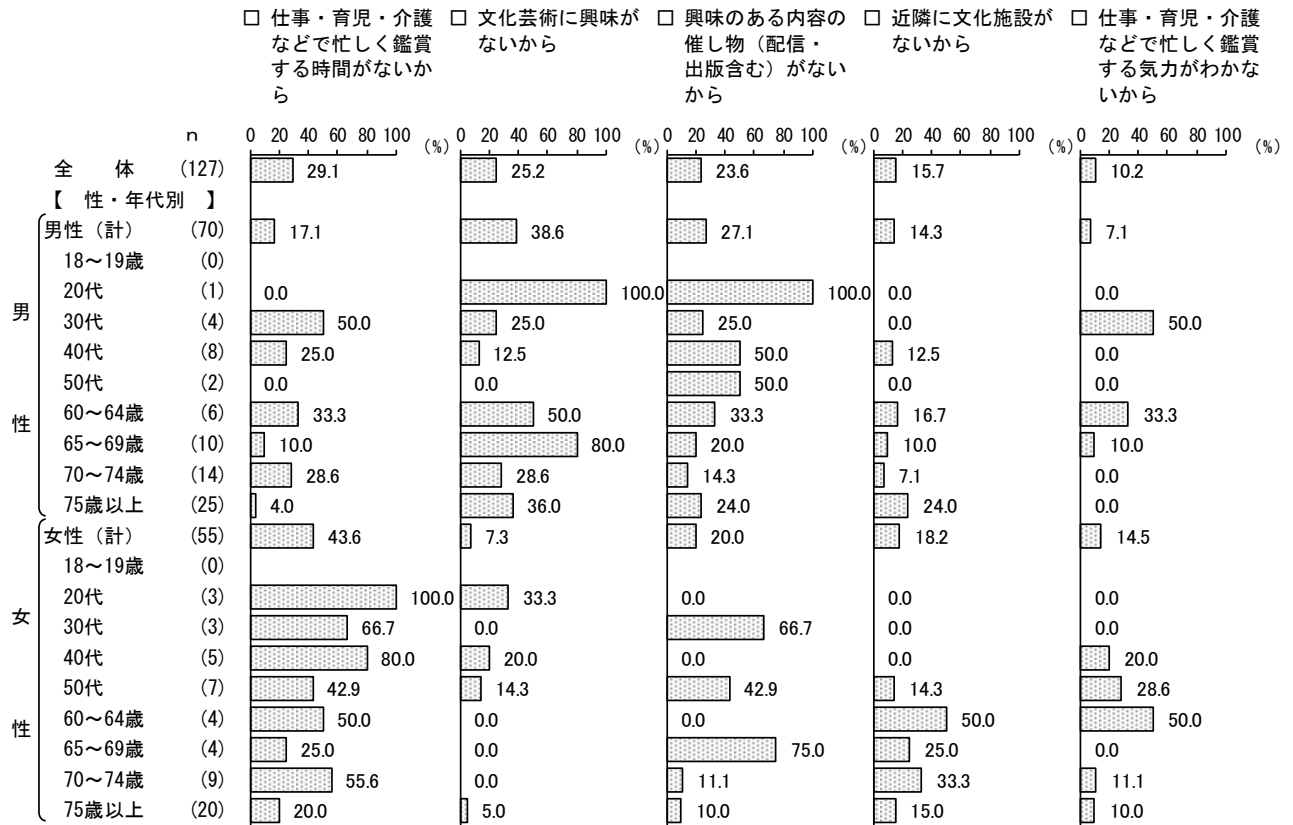
(図表1-23)

※サンプル数が少ないため、【地域別】、【性・年代別】は参考までに図示するにとどめる。  
 (11ページ「報告書の見方(4)」を参照) (図表1-24) (図表1-25)

<図表 1-24>文化芸術を鑑賞しなかった理由／地域別（上位10項目）



<図表1-25>文化芸術を鑑賞しなかった理由／性・年代別（上位10項目）



(11) 昨年度鑑賞しなかった方の普段の余暇活動（自由記述の集計）

◇「テレビ」が最も多い

【問1で、昨年度文化芸術を「22 鑑賞しなかった」とお答えの方に】

問11 普段の余暇時間※に鑑賞しているもの、活動していることは何かありますか。（例：スポーツ観戦をしている、ゲームをしている 等）

※余暇時間とは、いわゆる生活時間のうち、労働および睡眠・食事・家事その他の生活を営む上で必要となる時間を除いた、自分の好きに過ごせる時間のことを指します。

<図表1-26>昨年度鑑賞しなかった方の普段の余暇活動（自由記述）

順位	内容	件数
第1位	テレビ	22
第2位	スポーツ観戦	21
第3位	ゲーム	13
第4位	動画配信サービス	12
第5位	家庭菜園／ガーデニング	8
第6位	スポーツ／運動	6
〃	スマートフォン／PC	6
第8位	読書	4
第9位	音楽鑑賞	3
〃	余暇時間がない	3
第11位	散歩	2
〃	アニメ	2
〃	パチンコ／競馬	2
〃	フラワーアレンジメント	2
-	その他	11
-	特になし	13

合 計（延べ件数） 130

※回答内容ごとに項目へ分類。

※一人の回答が複数の内容にわたる場合には、それぞれの項目へ分類。

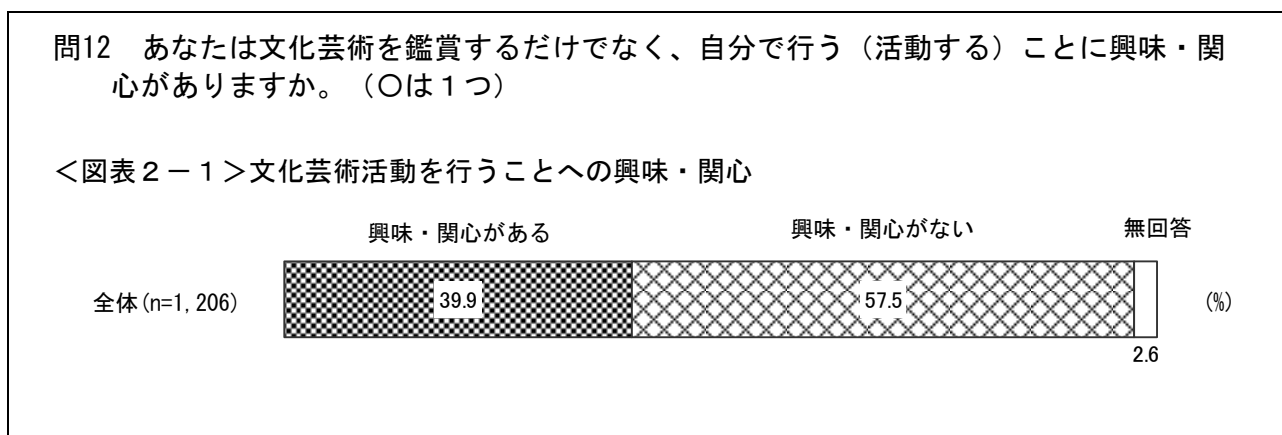
「昨年度に文化芸術を鑑賞しなかった方」127人を対象に、普段の余暇活動について聞いたところ、「テレビ」が22件で最も多く、以下「スポーツ観戦」（21件）、「ゲーム」（13件）、「動画配信サービス」（12件）が続く。

（図表1-26）

## 2. 自分自身の参加・出演について

### (1) 文化芸術活動を行うことへの興味・関心

◇「興味・関心がある」は約4割

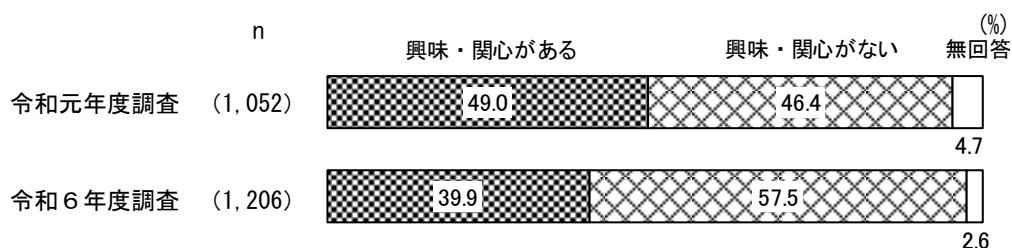


文化芸術活動を自分で行う（活動する）ことへの興味・関心を聞いたところ、「興味・関心がある」（39.9%）が約4割となっている。

一方で「興味・関心がない」（57.5%）は約6割となっている。

（図表2-1）

〔参考〕令和元年度・令和6年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



#### 【地域別】

地域別で特に大きな違いは見られない。

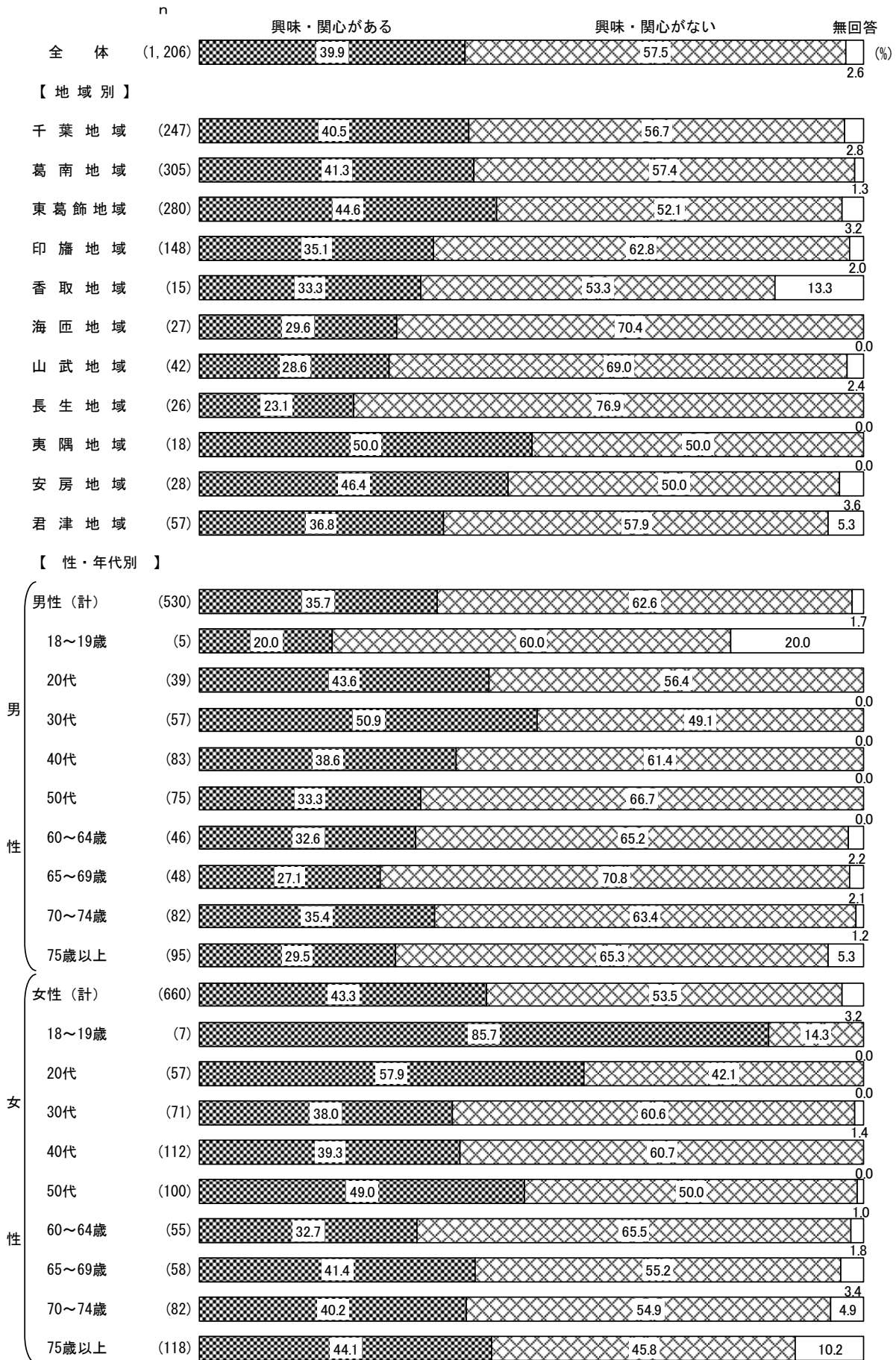
（図表2-2）

#### 【性・年代別】

性・年代別で見ると、「興味・関心がある」は、女性の20代（57.9%）が約6割で高くなっている。

（図表2-2）

<図表 2-2>文化芸術活動を行うことへの興味・関心／地域別、性・年代別



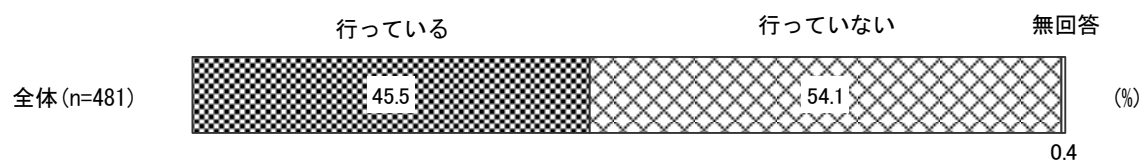
## (2) 文化芸術活動の実施の有無

◇「行っている」が4割台半ば

【問12で「1 興味・関心がある」と回答した方に】

問13 あなたは文化芸術活動を行っていますか。(○は1つ)

＜図表2-3＞文化芸術活動の実施の有無

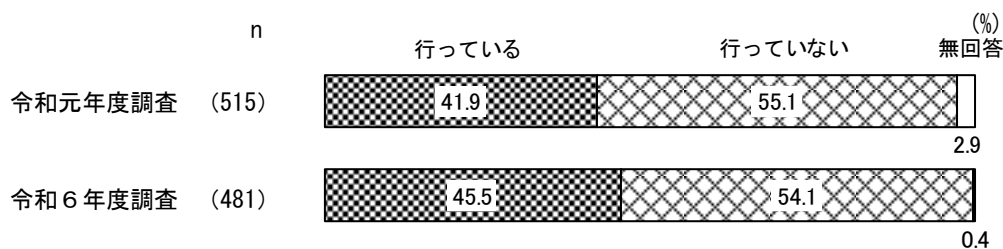


文化芸術活動を行うことに「興味・関心がある」と回答した481人を対象に、文化芸術活動を行っているかを聞いたところ、「行っている」(45.5%)が4割台半ばとなっている。

一方で、「行っていない」(54.1%)は5割台半ばとなっている。

(図表2-3)

〔参考〕令和元年度・令和6年度の同様の項目による調査結果との比較(単位:%)



### 【地域別】

地域別で特に大きな違いは見られない。

(図表2-4)

### 【性・年代別】

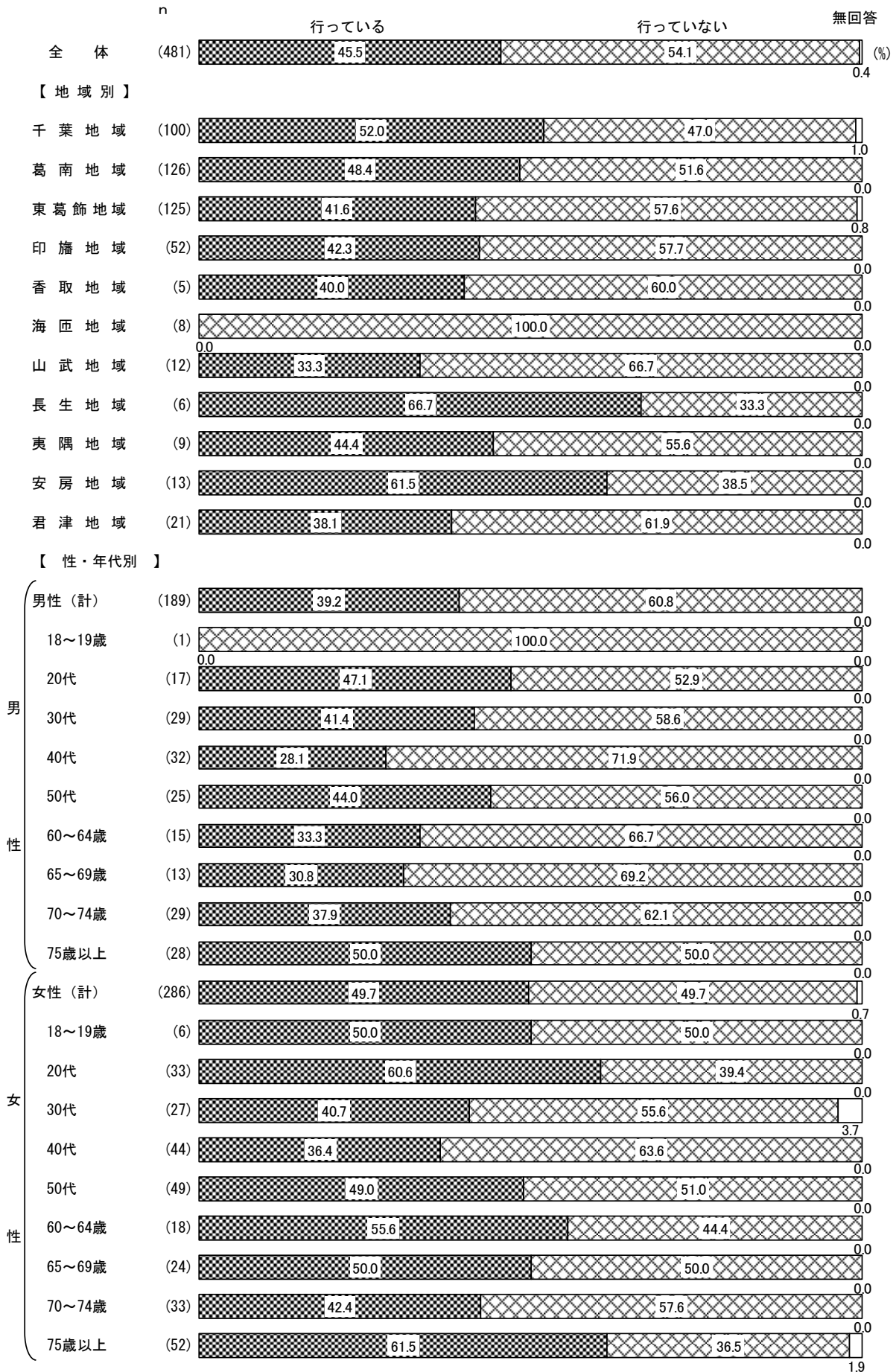
性・年代別で見ると、「行っている」は、女性の75歳以上(61.5%)で6割を超えて高くなっている。

一方で「行っていない」は、男性の40代(71.9%)が7割を超えて高くなっている。

(図表2-4)



<図表2-4>文化芸術活動の実施の有無／地域別、性・年代別



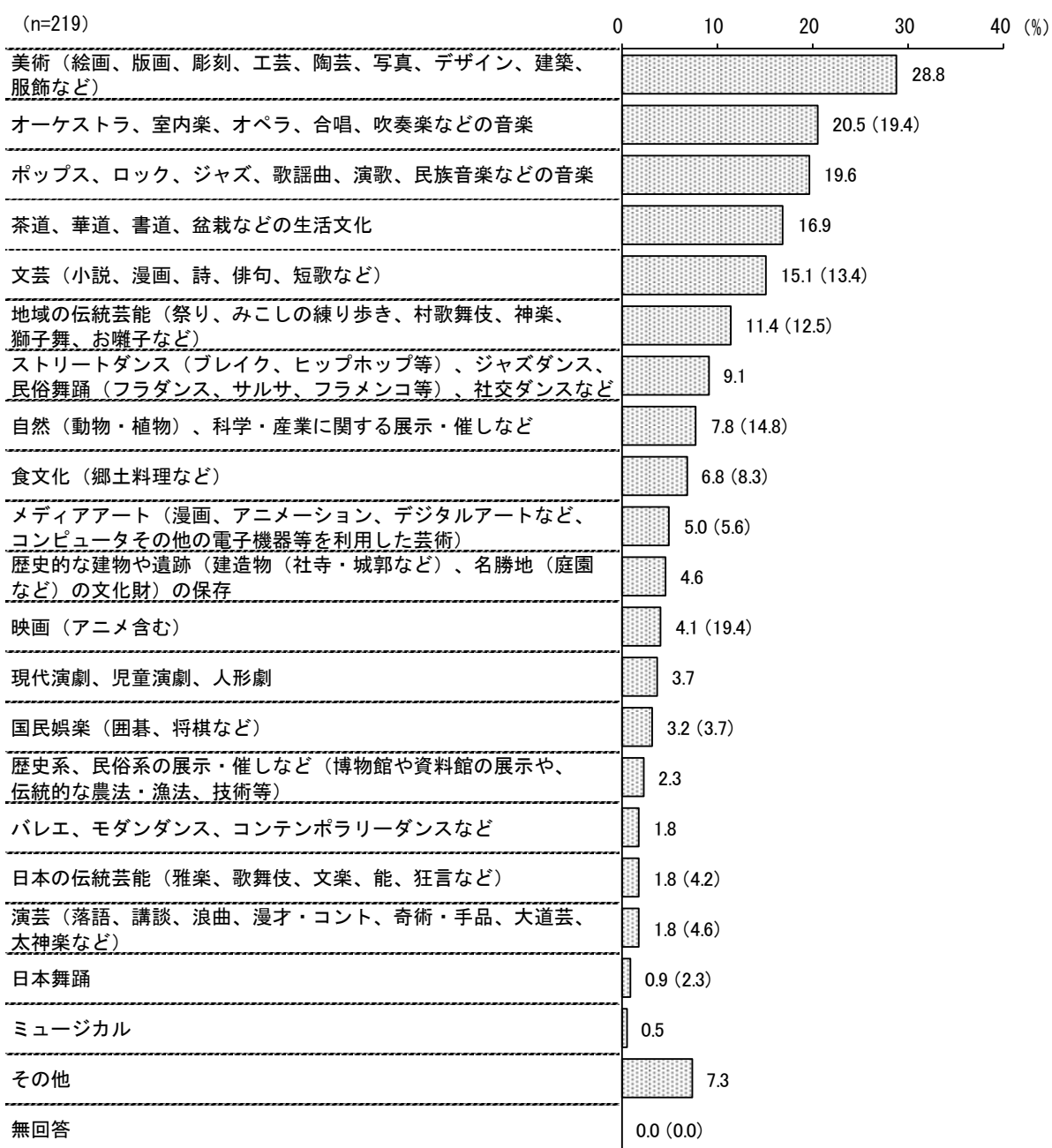
### (3) 実施しているジャンル

◇「美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、写真、デザイン、建築、服飾など）」が約3割で最も高い

【問13で「1 行っている」とお答えの方に】

問14 あなたが行っている文化芸術活動のジャンルはなんですか。（〇はいくつでも）

<図表2-5>実施しているジャンル



注) ( ) の数字は令和元年度の同様の項目による調査結果 n=216

※「オーケストラ、室内楽、オペラ、合唱、吹奏楽などの音楽」は、令和元年度では「音楽（クラシック）」

※「地域の伝統芸能（祭り、みこしの練り歩き、村歌舞伎、神楽、獅子舞、お囃子など）」は、令和元年度では「地域の伝統芸能（みこしの練り歩き、村歌舞伎、踊り、笛・太鼓の音楽など）」

※「メディアアート（漫画、アニメーション、デジタルアートなど、コンピュータその他の電子機器等を利用した芸術）」は、令和元年度では「電子機器等を利用した芸術（デジタルアートなど）」

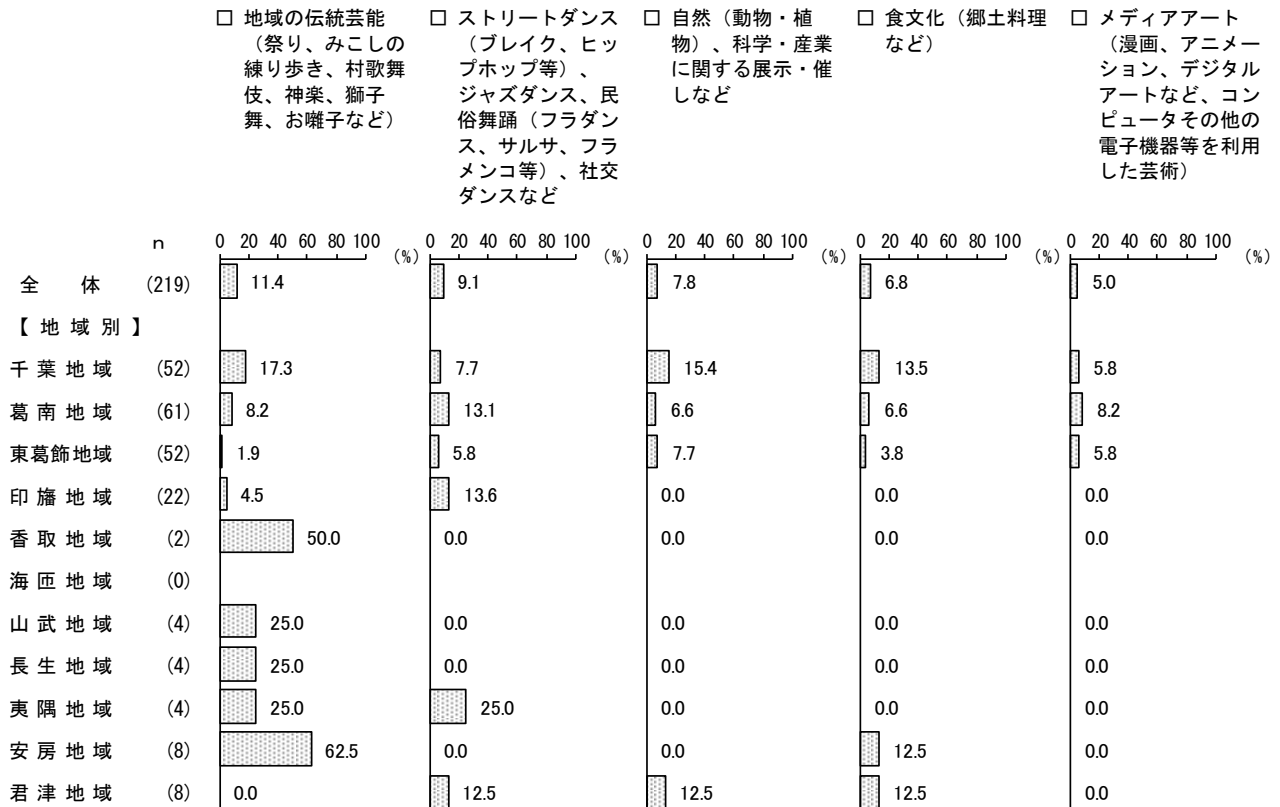
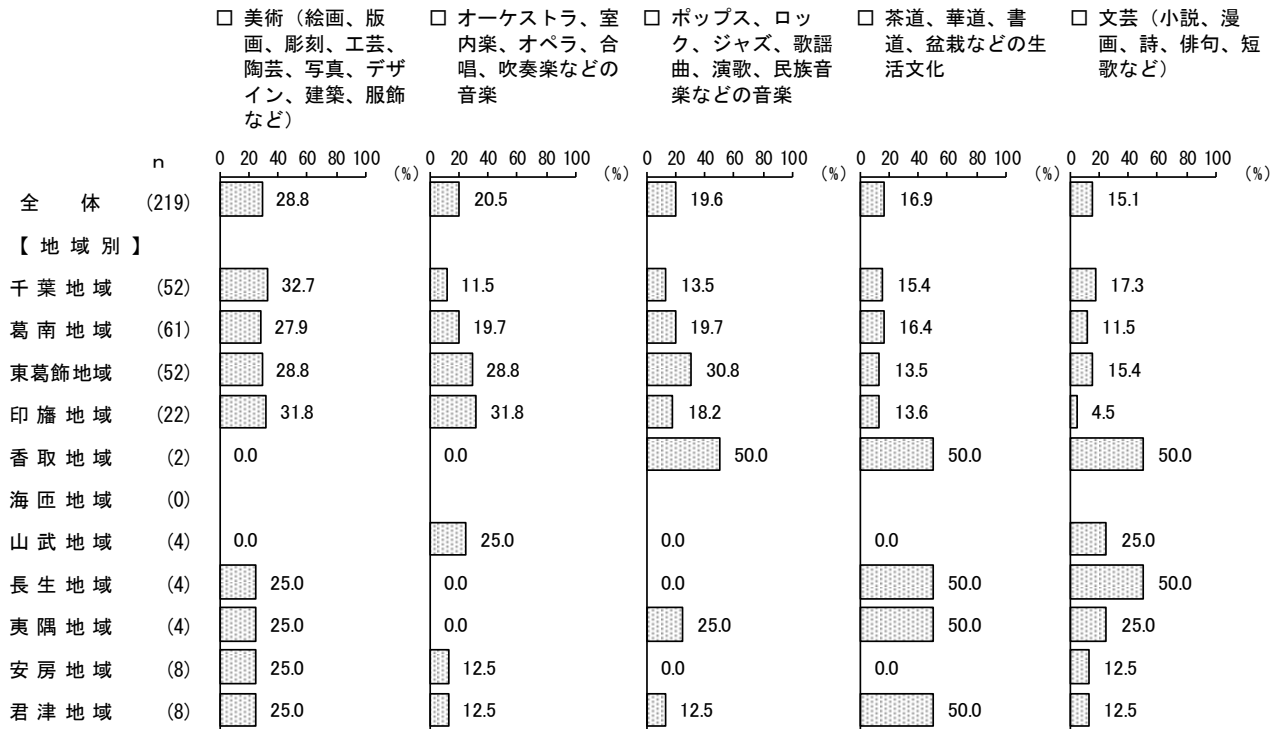
※「日本の伝統芸能（雅楽、歌舞伎、文楽、能、狂言など）」は、令和元年度では「日本の伝統芸能（歌舞伎、文楽、能、狂言など）」  
※「演芸（落語、講談、浪曲、漫才・コント、奇術・手品、大道芸、太神楽など）」は、令和元年度では「演芸（落語、講談、漫才など）」

「文化芸術活動を行っている」と回答した219人を対象に、行っているジャンルを聞いたところ、「美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、写真、デザイン、建築、服飾など）」（28.8%）が約3割で最も高く、以下「オーケストラ、室内楽、オペラ、合唱、吹奏楽などの音楽」（20.5%）、「ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽などの音楽」（19.6%）、「茶道、華道、書道、盆栽などの生活文化」（16.9%）が続く。

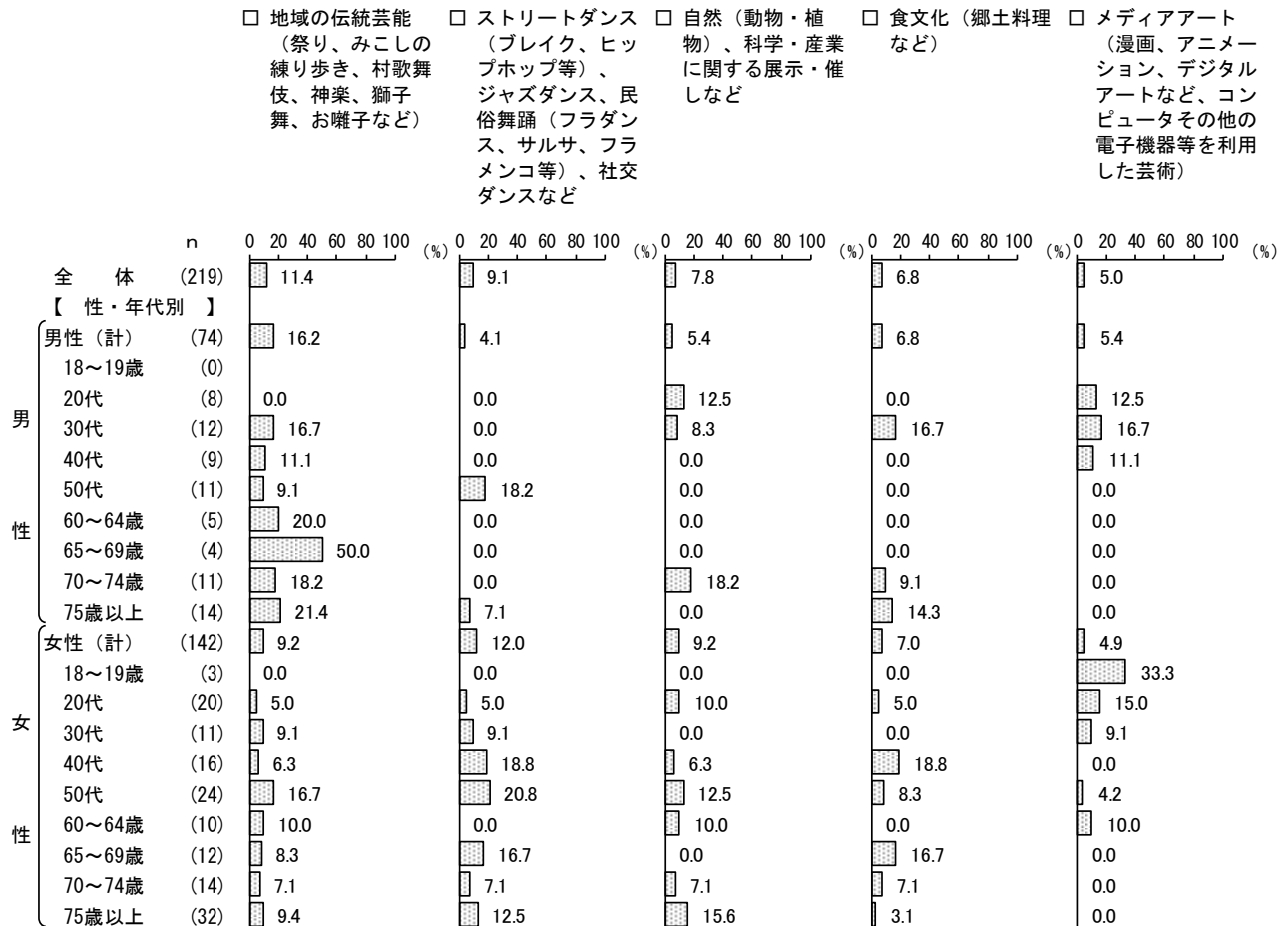
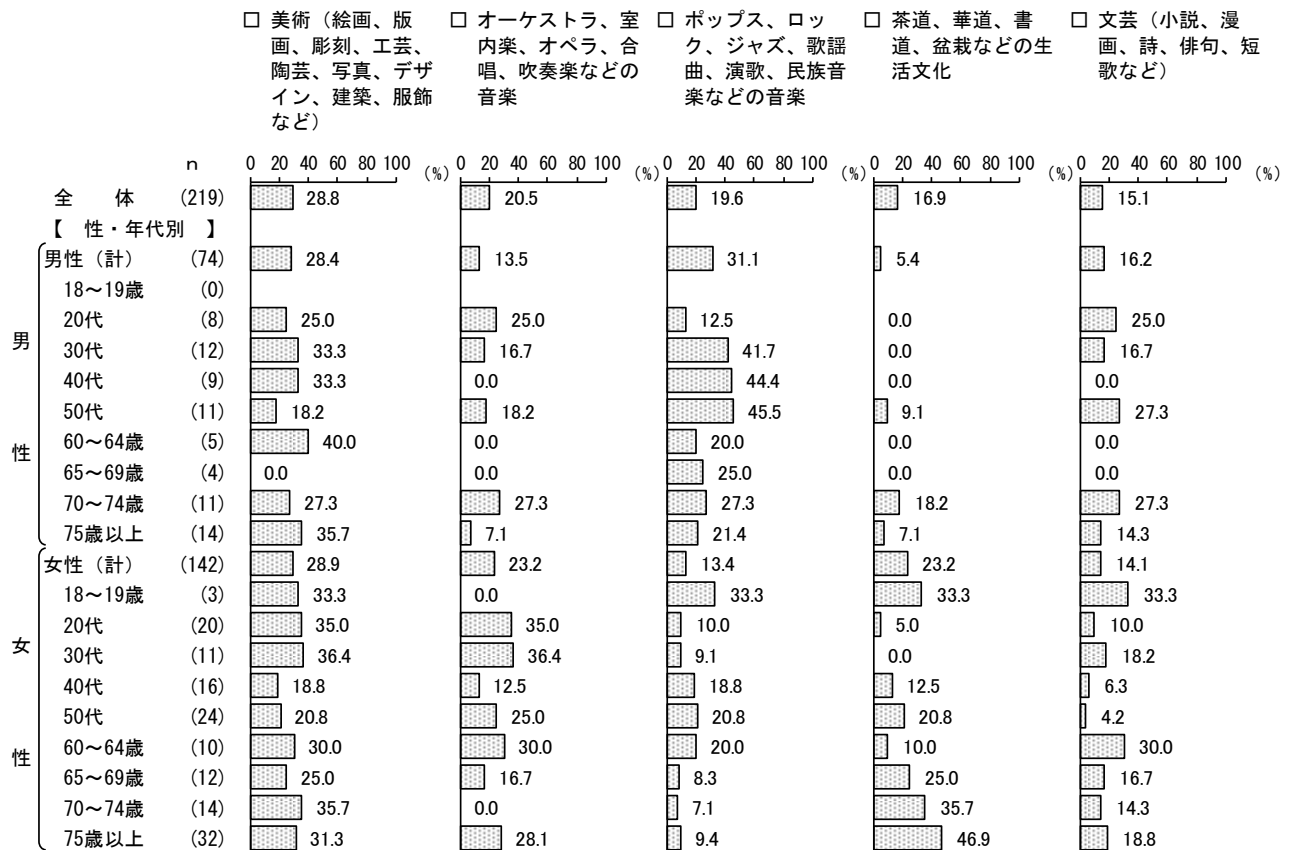
（図表2-5）

※サンプル数が少ないため、【地域別】、【性・年代別】は参考までに図示するにとどめる。  
（11ページ「報告書の見方（4）」を参照）（図表2-6）（図表2-7）

<図表2-6>実施しているジャンル/地域別（上位10項目）



<図表2-7>実施しているジャンル／性・年代別（上位10項目）



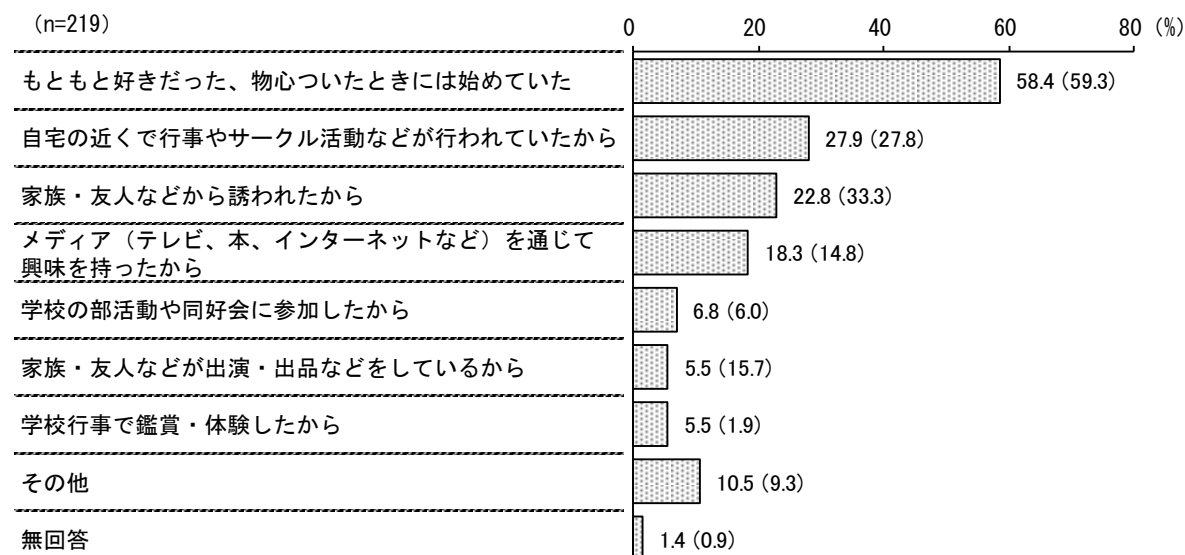
#### (4) 文化芸術活動を始めた理由

◇「もともと好きだった、物心ついたときには始めていた」が約6割で最も高い

【問13で「1 行っている」とお答えの方に】

問15 問14で回答した文化芸術活動を始めた理由はなんですか。(〇はいくつでも)

＜図表2-8＞文化芸術活動を始めた理由



注) ( ) の数字は令和元年度の同様の項目による調査結果 n=216

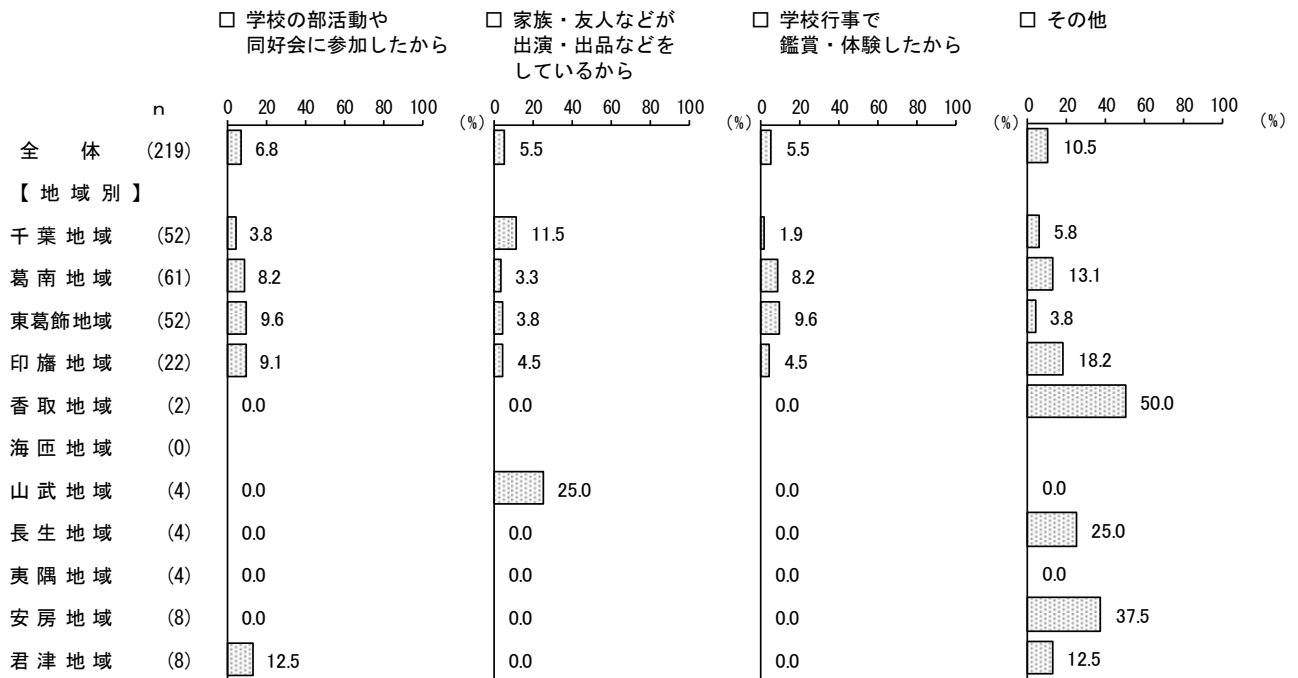
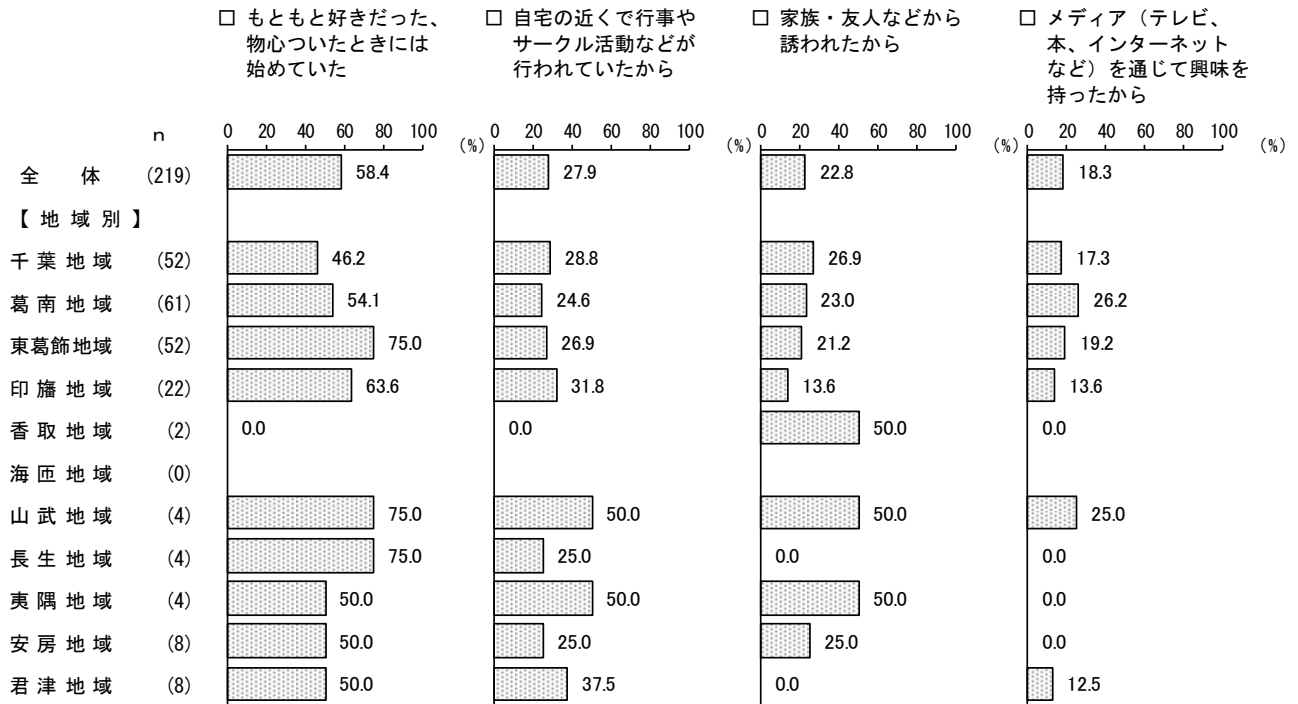
「文化芸術活動を行っている」と回答した219人を対象に、文化芸術活動を始めた理由を聞いたところ、「もともと好きだった、物心ついたときには始めていた」(58.4%)が約6割で最も高く、以下「自宅の近くで行事やサークル活動などが行われていたから」(27.9%)、「家族・友人などから誘われたから」(22.8%)、「メディア(テレビ、本、インターネットなど)を通じて興味を持ったから」(18.3%)が続く。

(図表2-8)

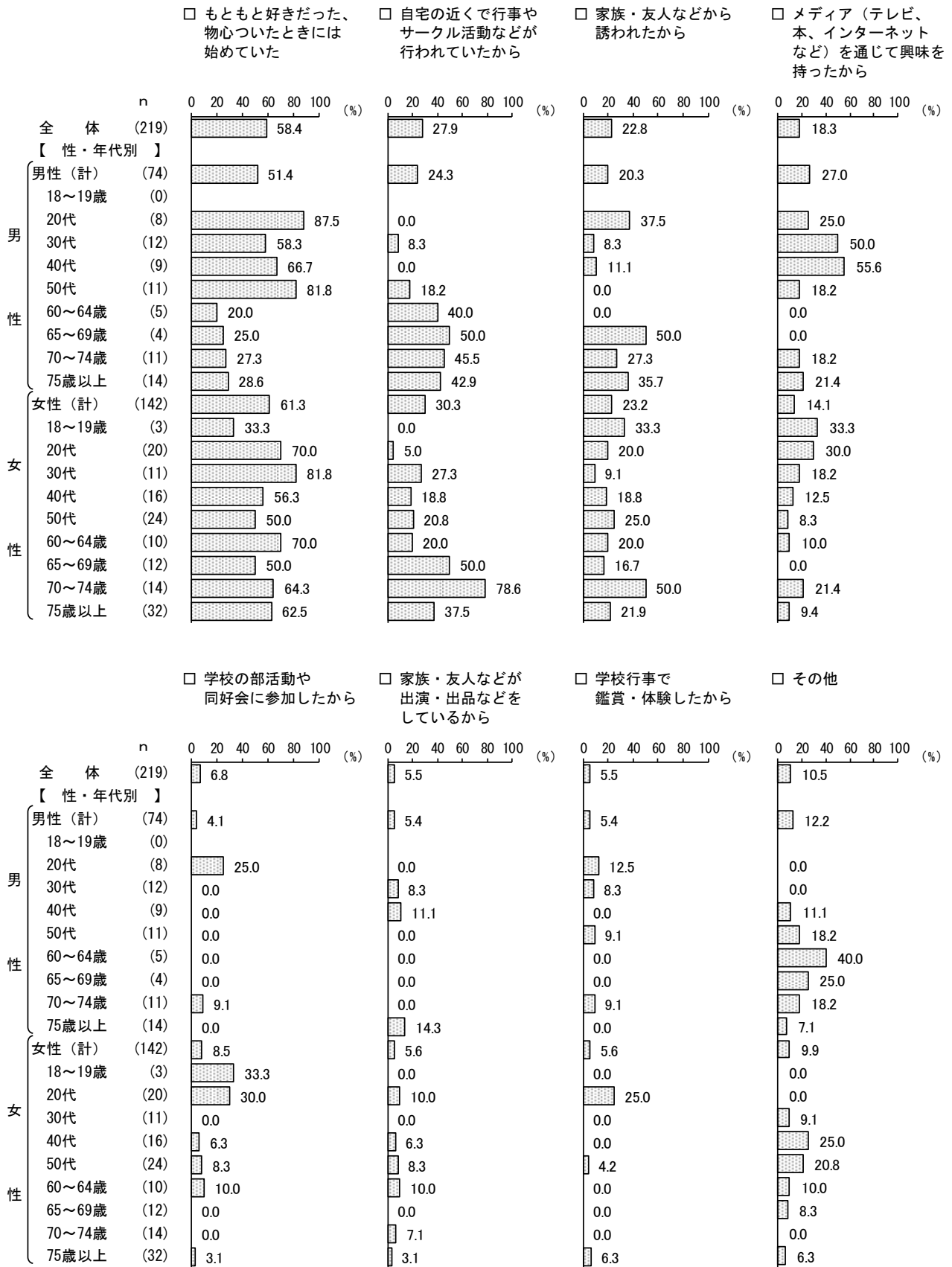
※サンプル数が少ないため、【地域別】、【性・年代別】は参考までに図示することと定める。

(11ページ「報告書の見方(4)」を参照) (図表2-9) (図表2-10)

<図表2-9>文化芸術活動を始めた理由／地域別



<図表2-10>文化芸術活動を始めた理由／性・年代別





(5) コロナ禍前と比べた活動についての変化（自由記述の集計）

◇「活動の頻度が減少した」が最も多い

【問13で「1 行っている」とお答えの方に】

問16 2020年4月以前（新型コロナウイルス感染症による1回目の緊急事態宣言の以前）と比べて、文化芸術活動をするに対して何か変化はありましたか。（例えば、「活動方法が変わった」、「活動に対する気持ちが変わった」など）  
どのようなことでも結構ですので、ご自由にお書きください。

<図表2-11> コロナ禍前と比べた活動についての変化（自由記述）

順位	内容	件数
第1位	活動の頻度が減少した	18
第2位	文化芸術活動ができることへの喜びや感謝の気持ちを持った	14
第3位	感染予防の徹底	13
第4位	オンラインでの活動が増えた	12
第5位	活動頻度が増えた／増える見込み	7
〃	マスクを着用するようになった	7
〃	活動を再開しているが、以前の水準には戻っていない	7
第8位	活動人数の減少	6
〃	コロナ前に戻りつつある	6
第10位	活動意欲が高まった	5
第11位	外出して活動することが少なくなった	4
〃	個人での活動が増えた	4
-	その他	32
-	特になし／変化なし	32

合 計（延べ件数） 167

※回答内容ごとに項目へ分類。

※一人の回答が複数の内容にわたる場合には、それぞれの項目へ分類。

「文化芸術活動を行っている」と回答した219人を対象に、コロナ禍前と比べた活動についての変化について聞いたところ、「活動の頻度が減少した」が18件で最も多く、以下「文化芸術活動ができることへの喜びや感謝の気持ちを持った」（14件）、「感染予防の徹底」（13件）、「オンラインでの活動が増えた」（12件）が続く。

（図表2-11）

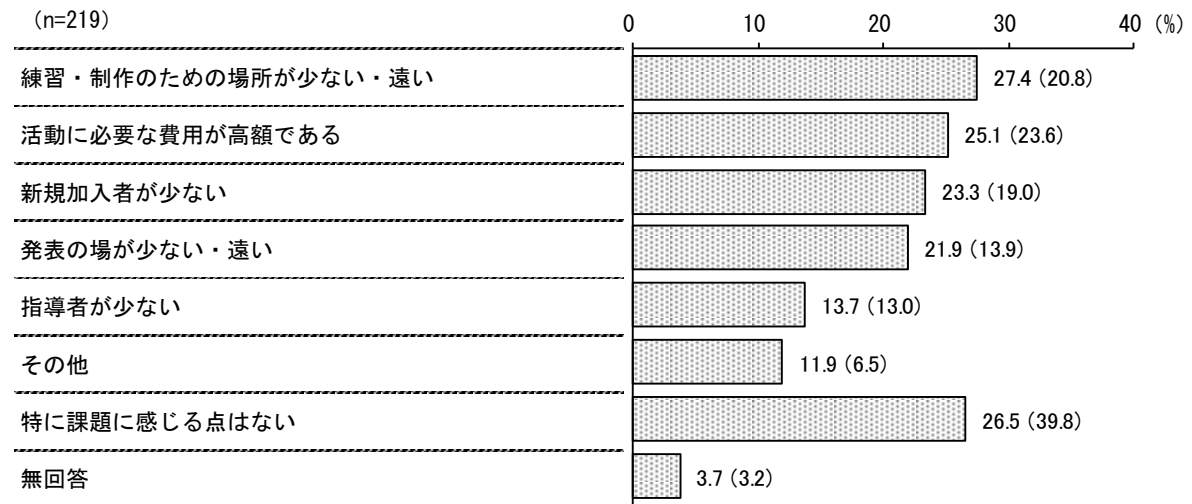
(6) 文化芸術活動を行う際に課題と感ずる点

◇「練習・制作のための場所が少ない・遠い」が約3割で最も高い

【問13で「1 行っている」とお答えの方に】

問17 問14で回答した文化芸術活動を行う際に課題と感ずる点はなんですか。(〇はいくつでも)

＜図表2-12＞文化芸術活動を行う際に課題と感ずる点



注) ( )の数字は令和元年度の項目による調査結果 n=216  
令和元年度調査は「文化芸術活動を行う際の不満や不便な点はありませんか」の設問文で実施

※「特に課題に感ずる点はない」は、令和元年度では「特に不満や不便な点はない」

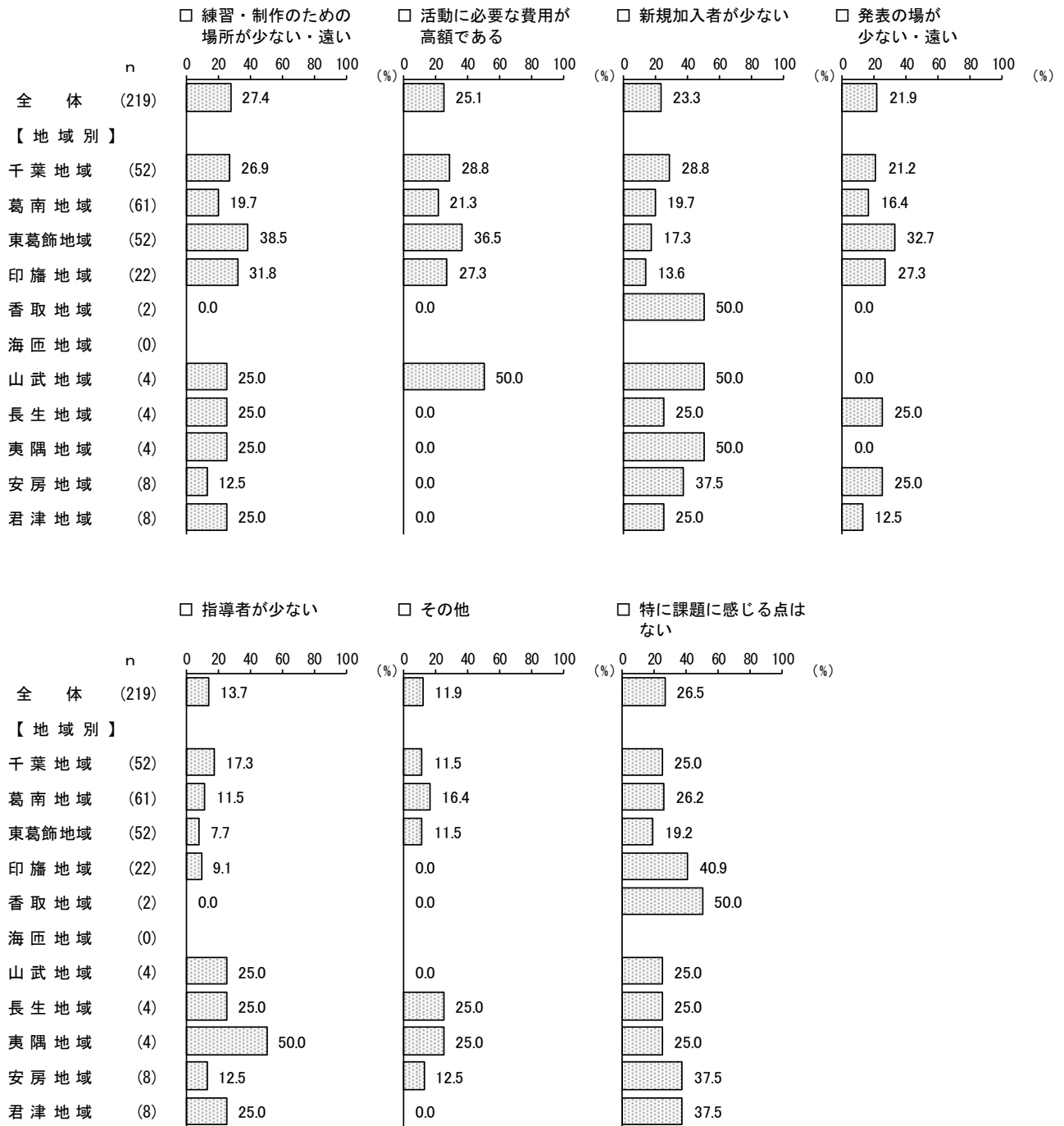
「文化芸術活動を行っている」と回答した219人を対象に、文化芸術活動を行う際に課題と感ずる点を聞いたところ、「練習・制作のための場所が少ない・遠い」(27.4%)が約3割で最も高く、以下「活動に必要な費用が高額である」(25.1%)、「新規加入者が少ない」(23.3%)、「発表の場が少ない・遠い」(21.9%)が続く。

(図表2-12)

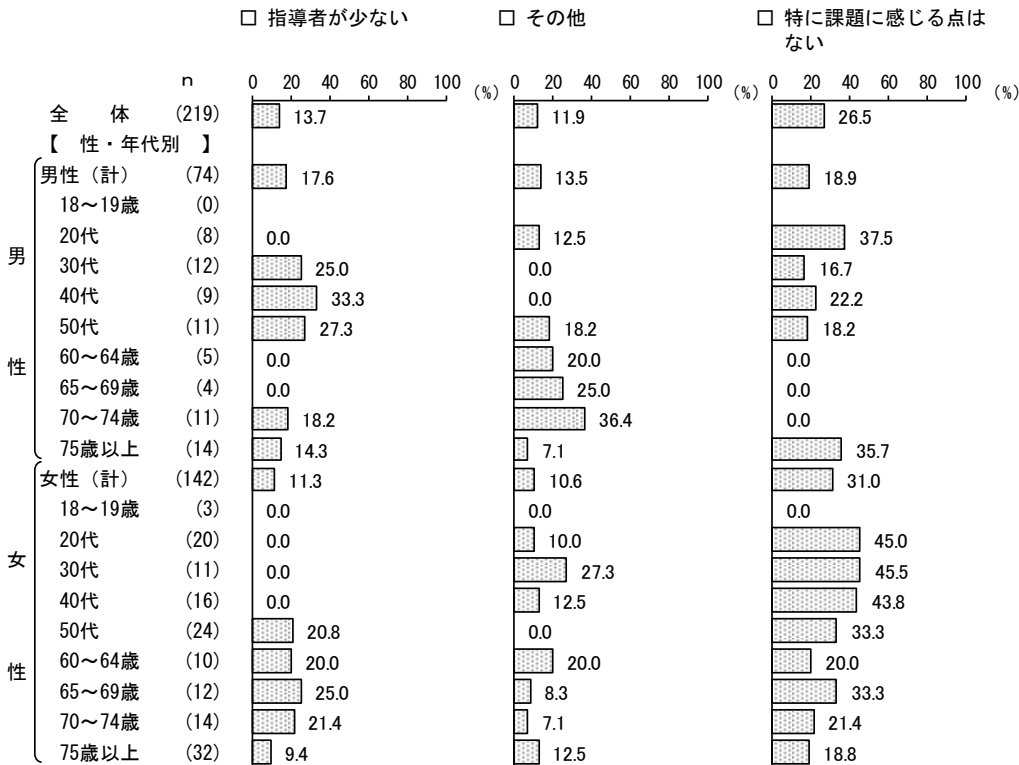
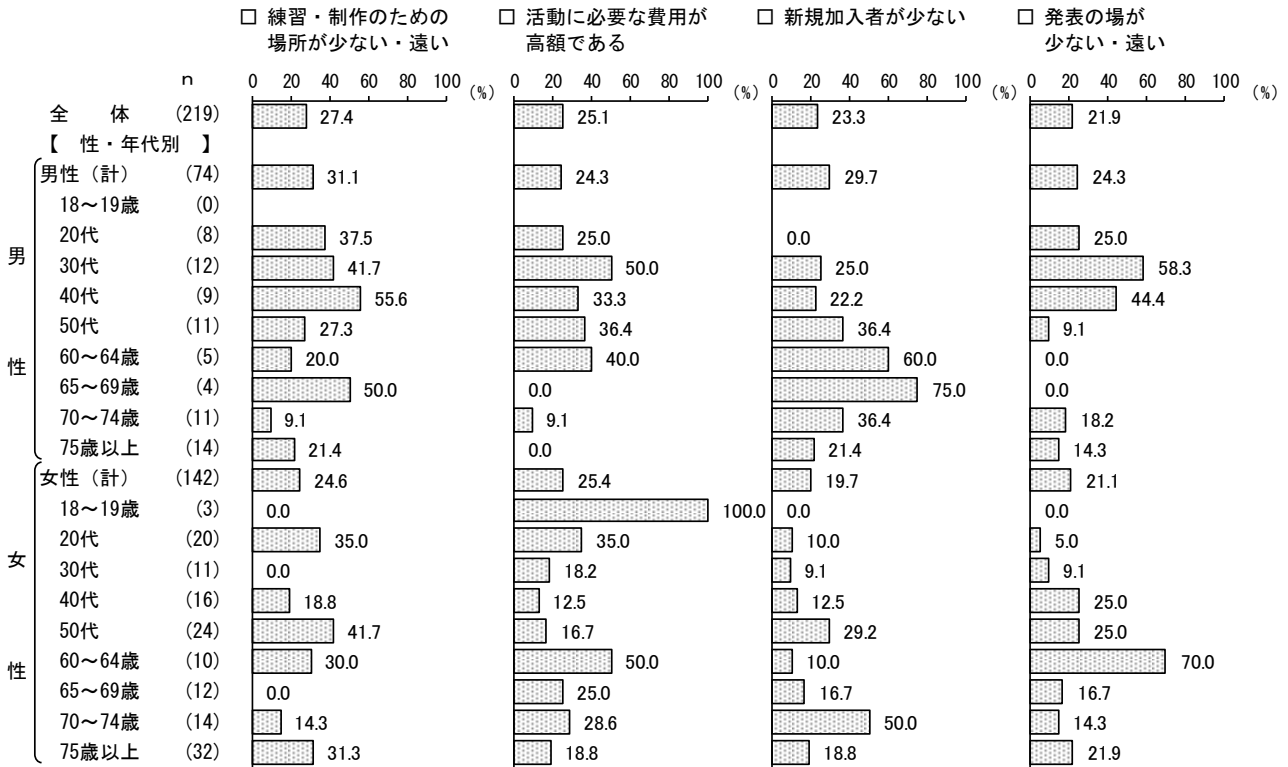
※サンプル数が少ないため、【地域別】、【性・年代別】は参考までに図示するにとどめる。

(11ページ「報告書の見方(4)」を参照) (図表2-13) (図表2-14)

<図表 2-13> 文化芸術活動を行う際に課題とを感じる点／地域別



<図表2-14>文化芸術活動を行う際に課題と感ずる点／性・年代別



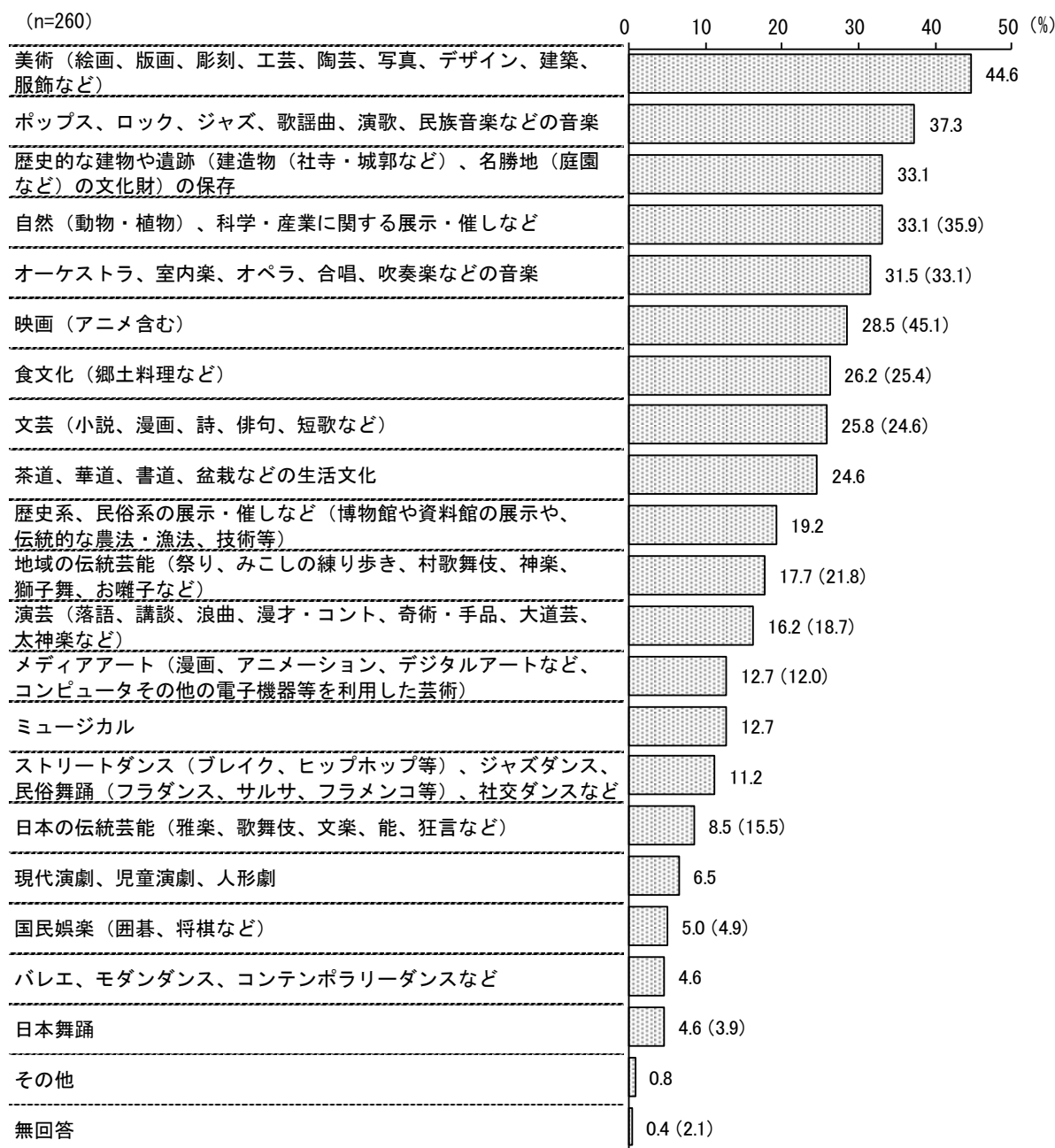
(7) 文化芸術活動を実施していない方の興味・関心があるジャンル

◇「美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、写真、デザイン、建築、服飾など）」が4割台半ばで最も高い

【問12で「1 興味・関心がある」とお答えで、問13で「2 行っていない」とお答えの方に】

問18 興味・関心がある文化芸術活動のジャンルはなんですか。（〇はいくつでも）

<図表2-15>文化芸術活動を実施していない方の興味・関心があるジャンル



注) ( ) の数字は令和元年度の同様の項目による調査結果 n=284

※「オーケストラ、室内楽、オペラ、合唱、吹奏楽などの音楽」は、令和元年度では「音楽（クラシック）」

※「地域の伝統芸能（祭り、みこしの練り歩き、村歌舞伎、神楽、獅子舞、お囃子など）」は、令和元年度では「地域の伝統芸能（みこしの練り歩き、村歌舞伎、踊り、笛・太鼓の音楽など）」

※「演芸（落語、講談、浪曲、漫才・コント、奇術・手品、大道芸、太神楽など）」は、令和元年度では「演芸（落語、講談、漫才など）」  
※「メディアアート（漫画、アニメーション、デジタルアートなど、コンピュータその他の電子機器等を利用した芸術）」は、令和元年度では「電子機器等を利用した芸術（デジタルアートなど）」  
※「日本の伝統芸能（雅楽、歌舞伎、文楽、能、狂言など）」は、令和元年度では「日本の伝統芸能（歌舞伎、文楽、能、狂言など）」

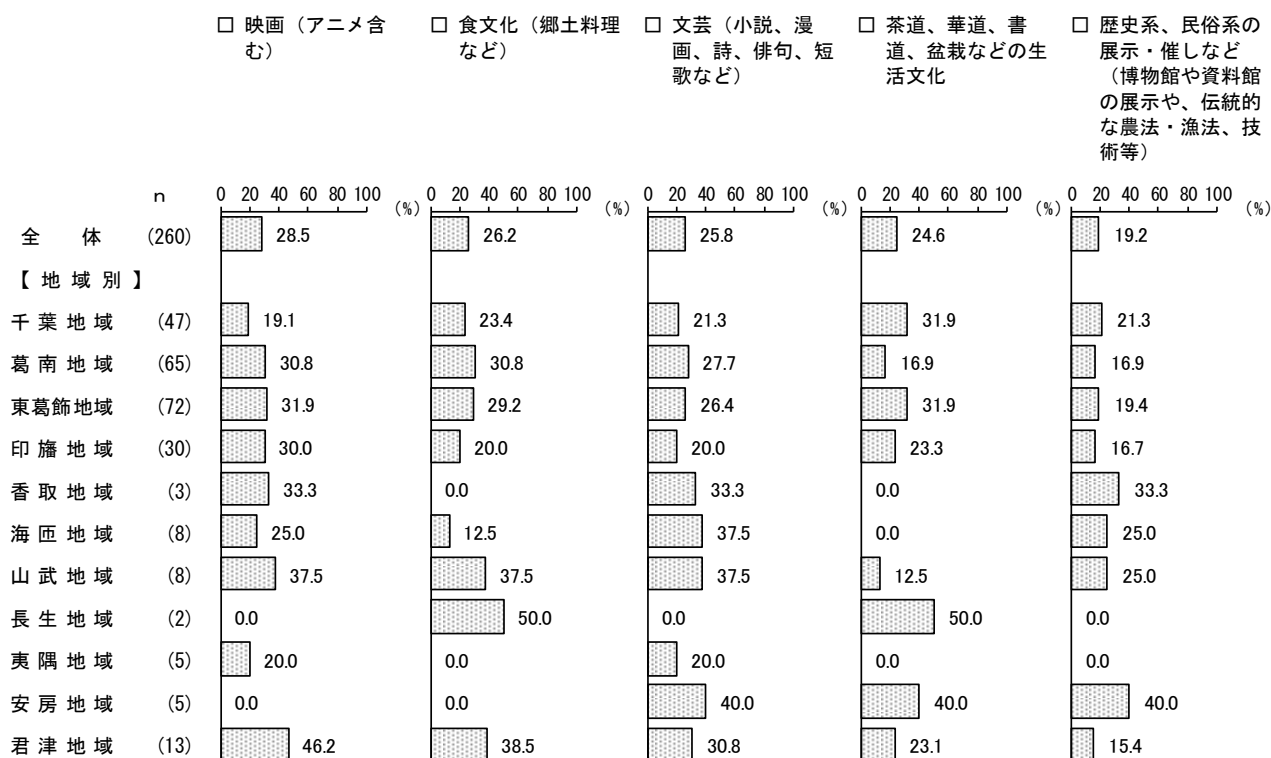
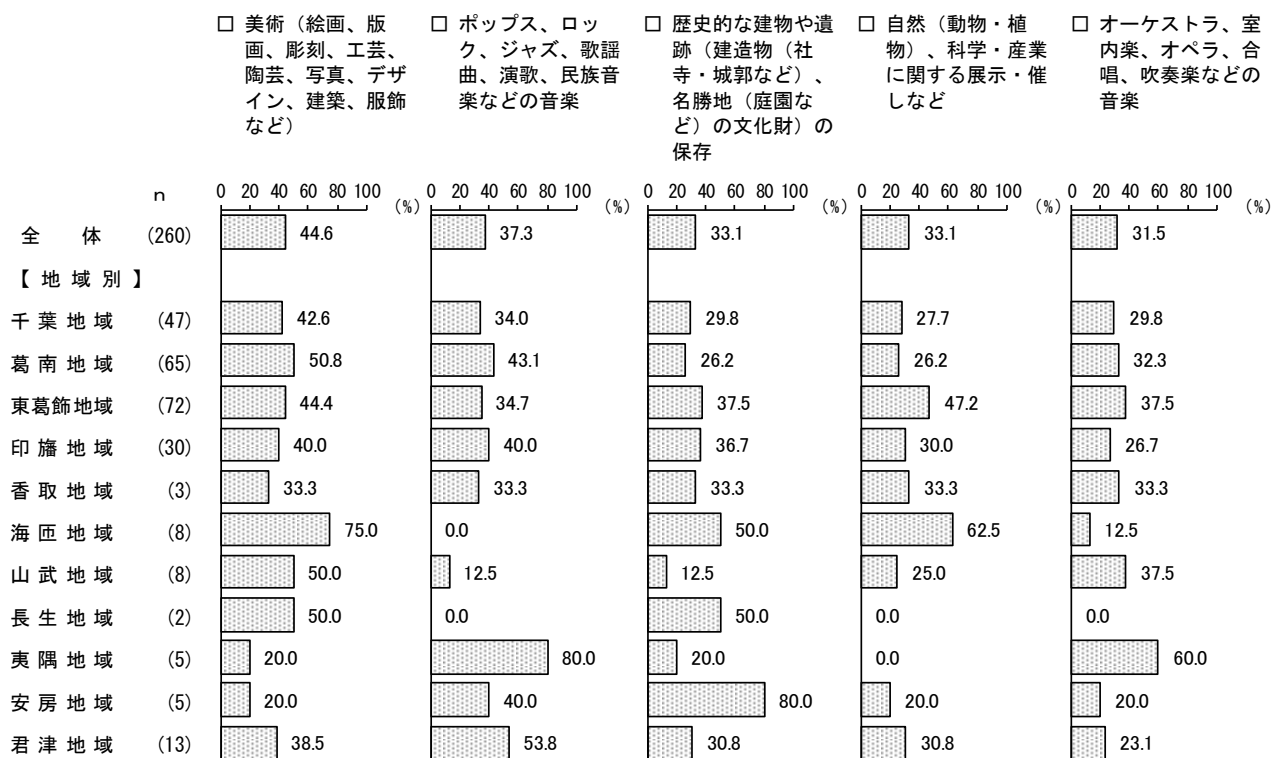
「文化芸術活動に興味・関心があるが実施していない」と回答した260人を対象に、興味・関心があるジャンルを聞いたところ、「美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、写真、デザイン、建築、服飾など）」（44.6%）が4割台半ばで最も高く、以下「ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽などの音楽」（37.3%）、「歴史的な建物や遺跡（建造物（社寺・城郭など）、名勝地（庭園など）の文化財）の保存」（33.1%）、「自然（動物・植物）、科学・産業に関する展示・催しなど」（33.1%）が続く。

（図表2-15）

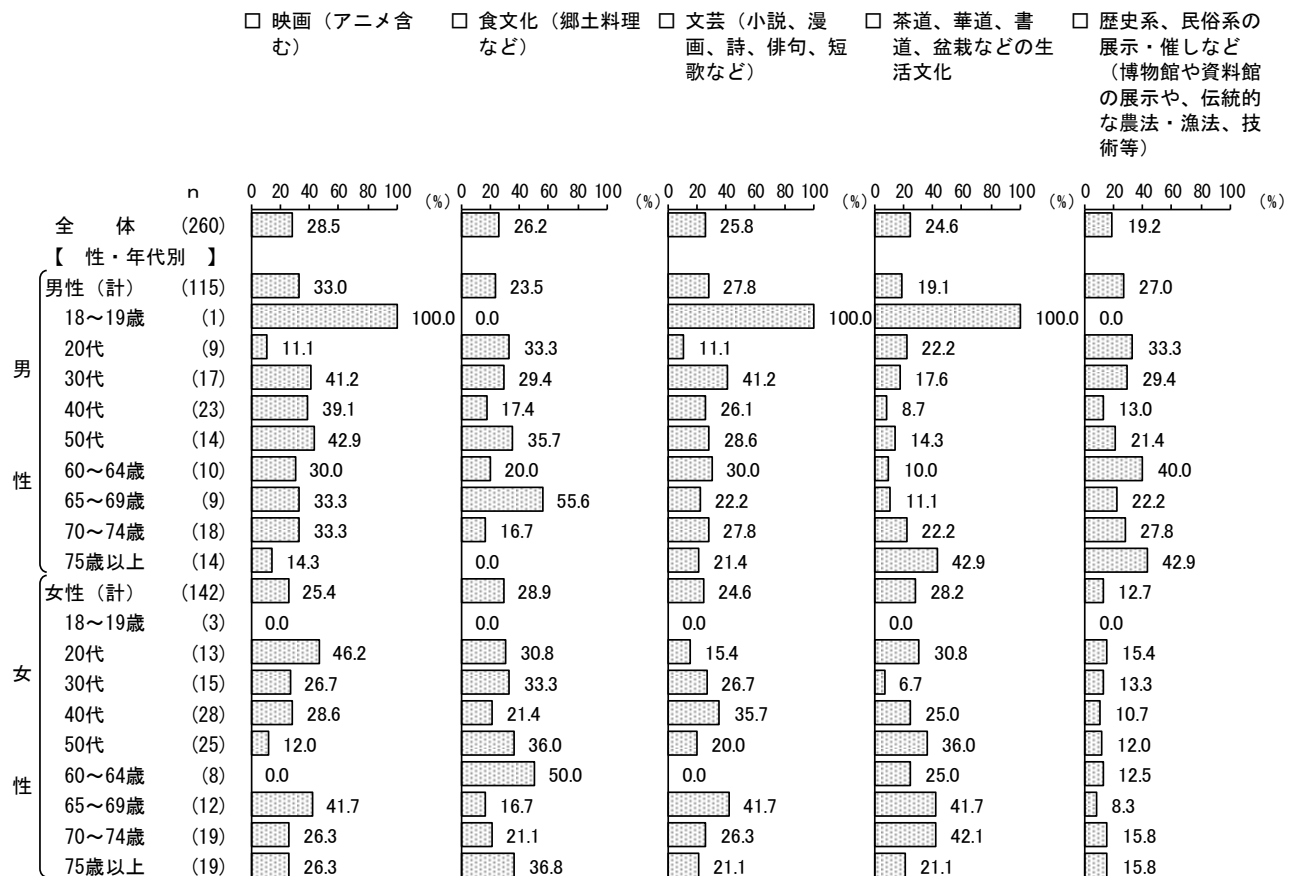
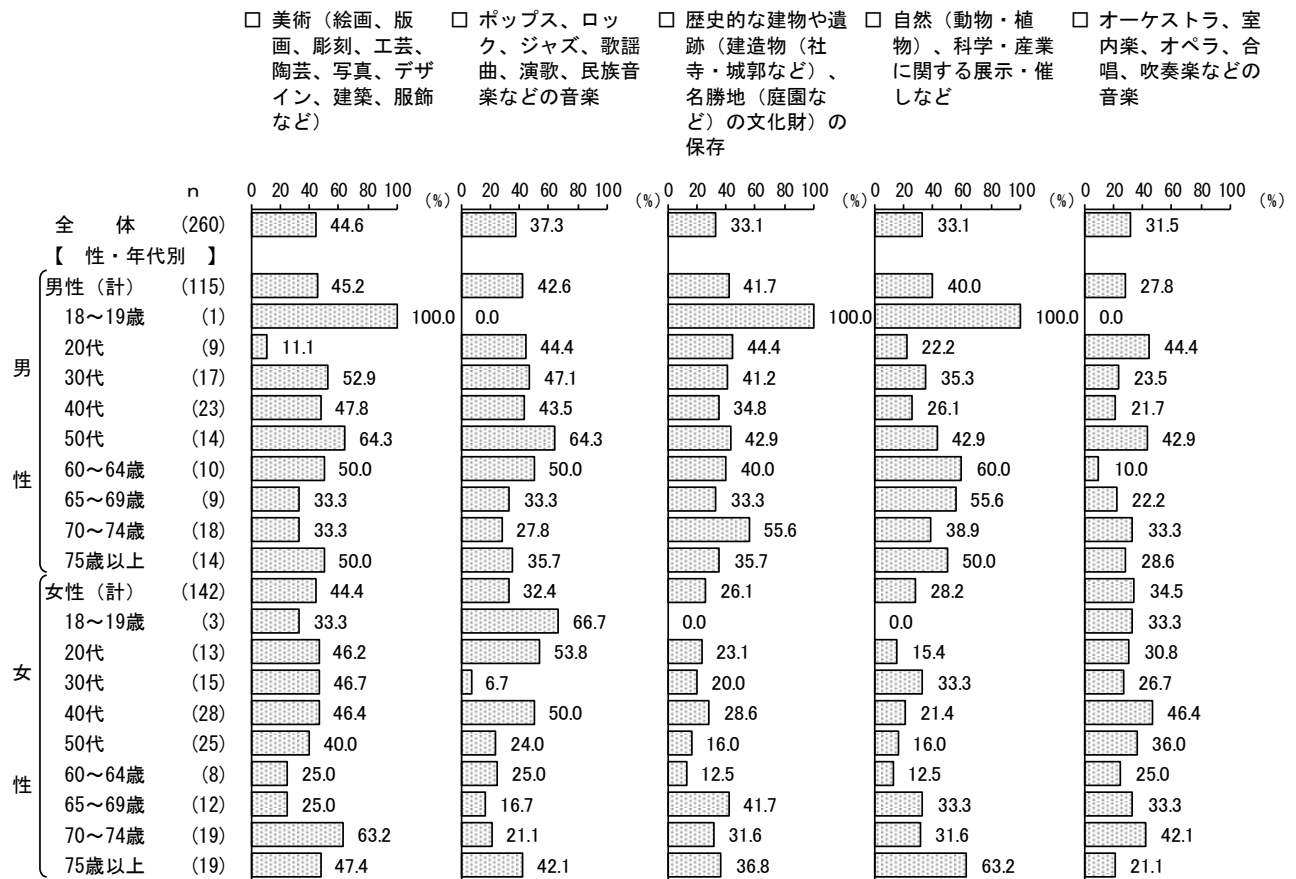
※サンプル数が少ないため、【地域別】、【性・年代別】は参考までに図示するにとどめる。

（11ページ「報告書の見方（4）」を参照）（図表2-16）（図表2-17）

<図表2-16>文化芸術活動を実施していない方の興味・関心があるジャンル／地域別（上位10項目）



<図表2-17>文化芸術活動を実施していない方の興味・関心があるジャンル／性・年代別（上位10項目）





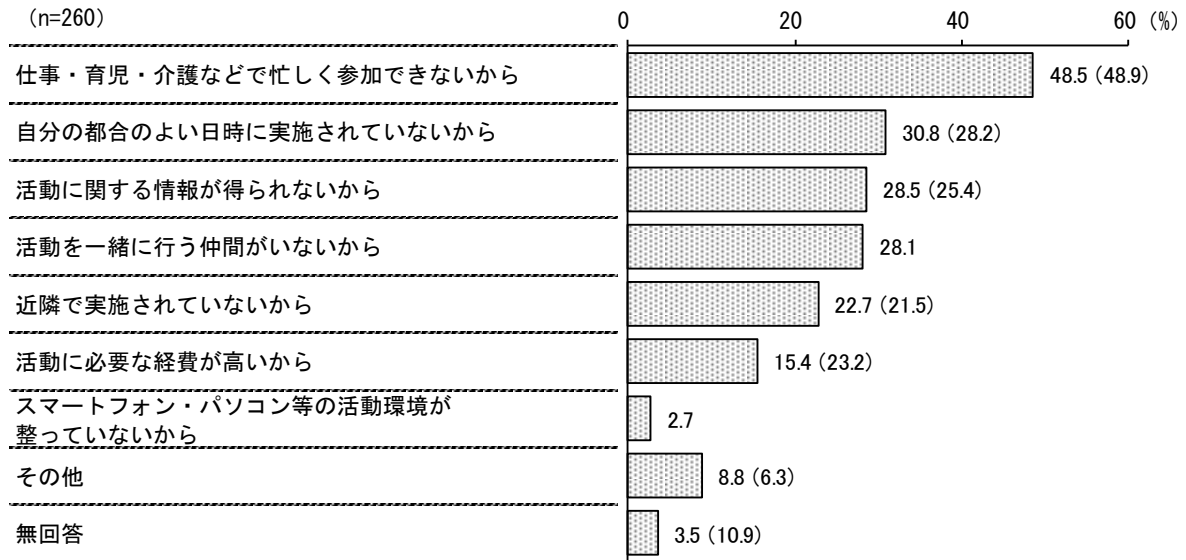
(8) 文化芸術活動を行っていない理由

◇「仕事・育児・介護などで忙しく参加できないから」が約5割で最も高い

【問12で「1 興味・関心がある」とお答えで、問13で「2 行っていない」とお答えの方に】

問19 興味・関心があるが文化芸術活動を行っていない理由はなんですか。(〇は3つまで)

<図表2-18>文化芸術活動を行っていない理由



注) ( ) の数字は令和元年度の同様の項目による調査結果 n=284

※「仕事・育児・介護などで忙しく参加できないから」は、令和元年度では「仕事・育児・介護などで忙しく参加する時間がないから」

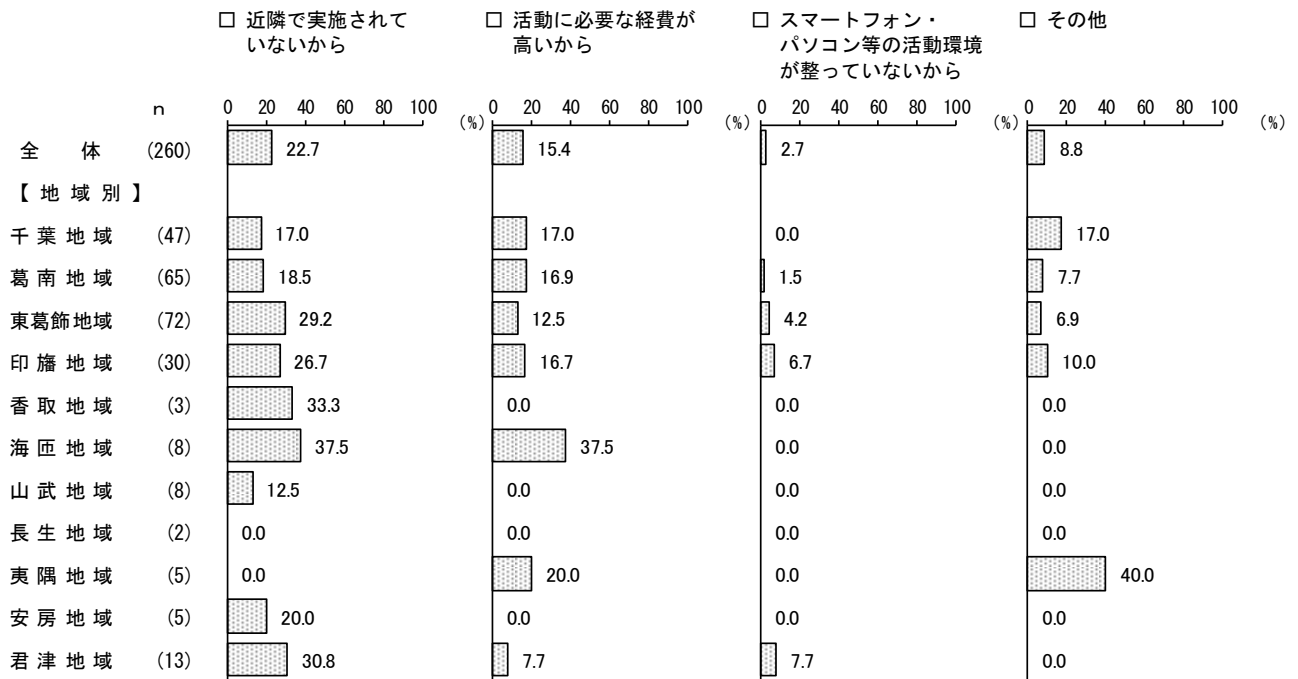
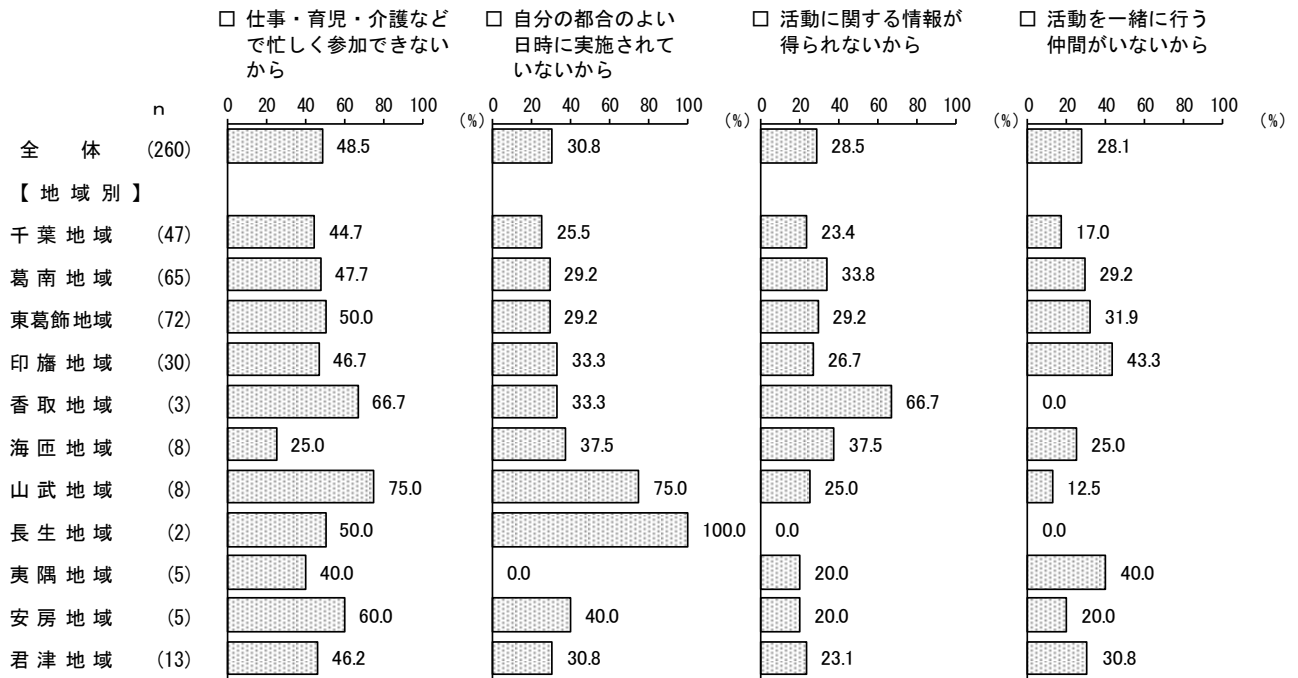
「文化芸術活動に興味・関心があるが行っていない」と回答した260人を対象に、行っていない理由を聞いたところ、「仕事・育児・介護などで忙しく参加できないから」(48.5%)が約5割で最も高く、以下「自分の都合のよい日時に実施されていないから」(30.8%)、「活動に関する情報が得られないから」(28.5%)、「活動と一緒にいる仲間がないから」(28.1%)が続く。

(図表2-18)

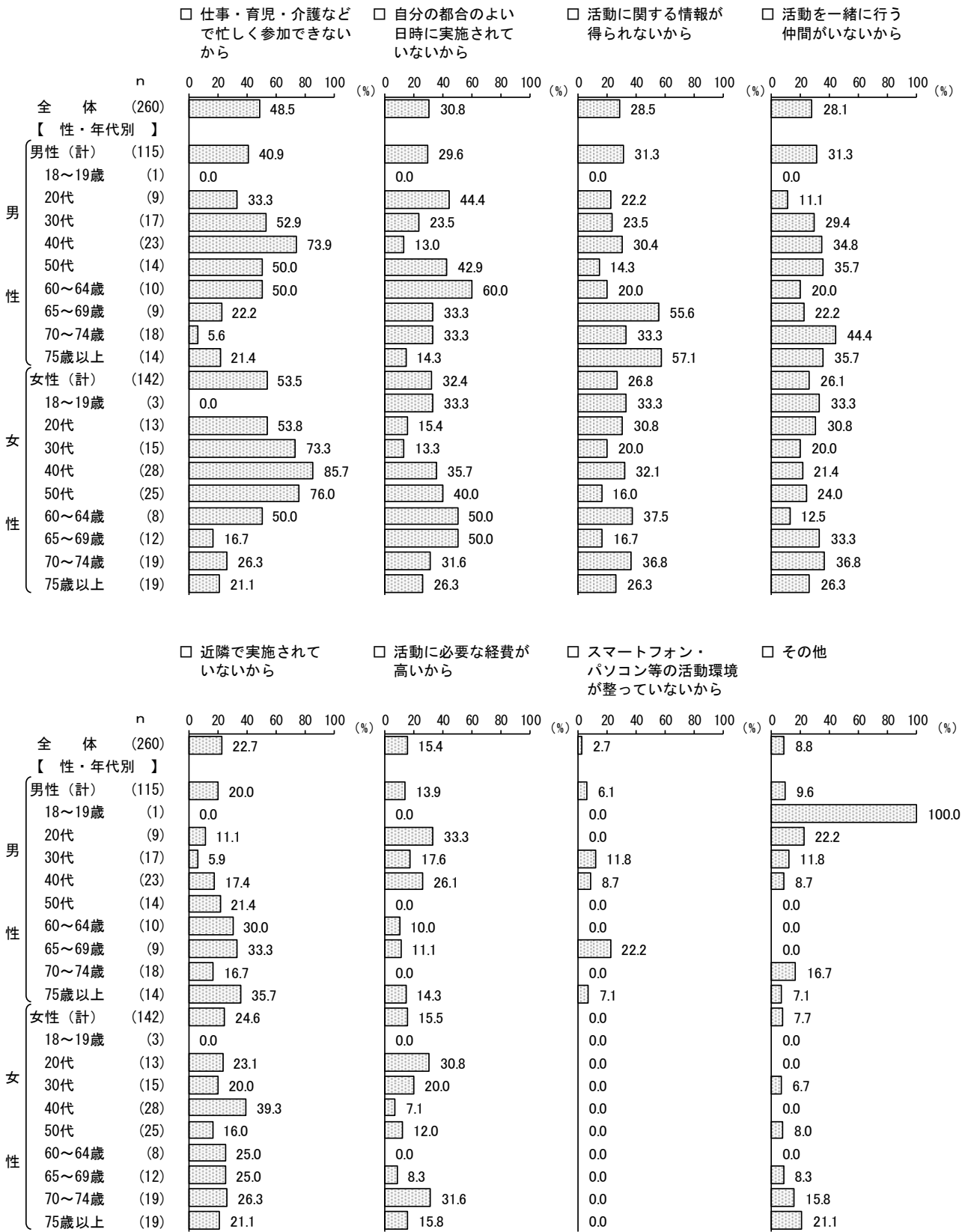
※サンプル数が少ないため、【地域別】、【性・年代別】は参考までに図示することと定める。

(11ページ「報告書の見方(4)」を参照) (図表2-19) (図表2-20)

<図表2-19>文化芸術活動を行っていない理由／地域別



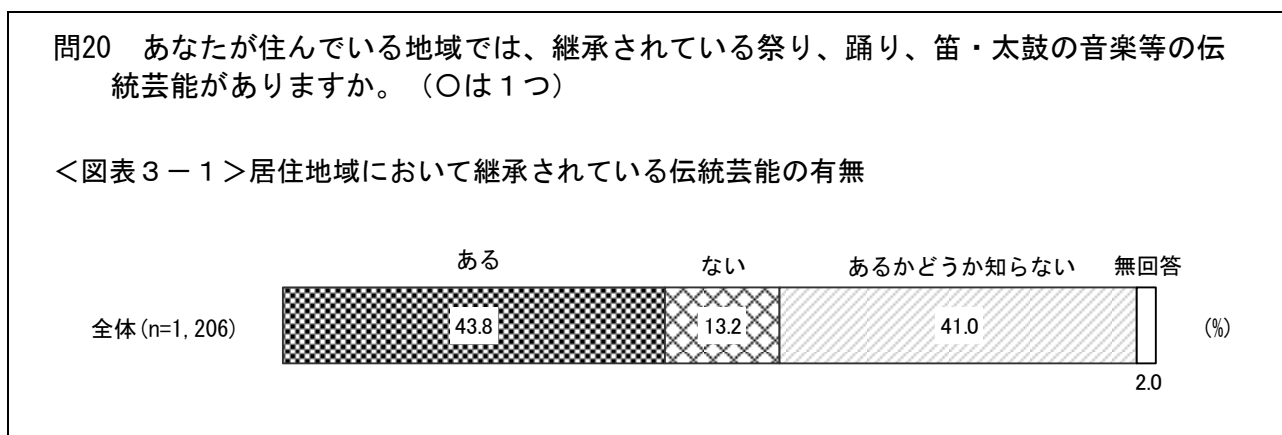
<図表2-20>文化芸術活動を行っていない理由／性・年代別



### 3. 各地域における伝統芸能について

#### (1) 居住地域において継承されている伝統芸能の有無

◇「ある」が4割台半ば



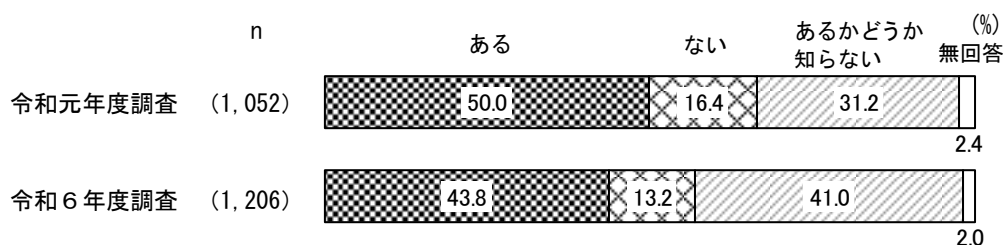
お住まいの地域で継承されている伝統芸能があるかを聞いたところ、「ある」(43.8%)が4割台半ばとなっている。

一方で「ない」(13.2%)が1割を超えている。

また、「あるかどうか知らない」(41.0%)が4割を超えている。

(図表3-1)

【参考】令和元年度・令和6年度の同様の項目による調査結果との比較(単位:%)



#### 【地域別】

地域別にみると、「ある」は“君津地域”(75.4%)が7割台半ばで高くなっている。また、回答者数は多くないものの、“安房地域”(92.9%)が9割を超え、“夷隅地域”(88.9%)が約9割、“海匝地域”(77.8%)が約8割で、それぞれ高くなっている。

一方で「あるかどうか知らない」は、“千葉地域”(49.8%)、“東葛飾地域”(48.2%)が約5割で、それぞれ高くなっている。

(図表3-2)

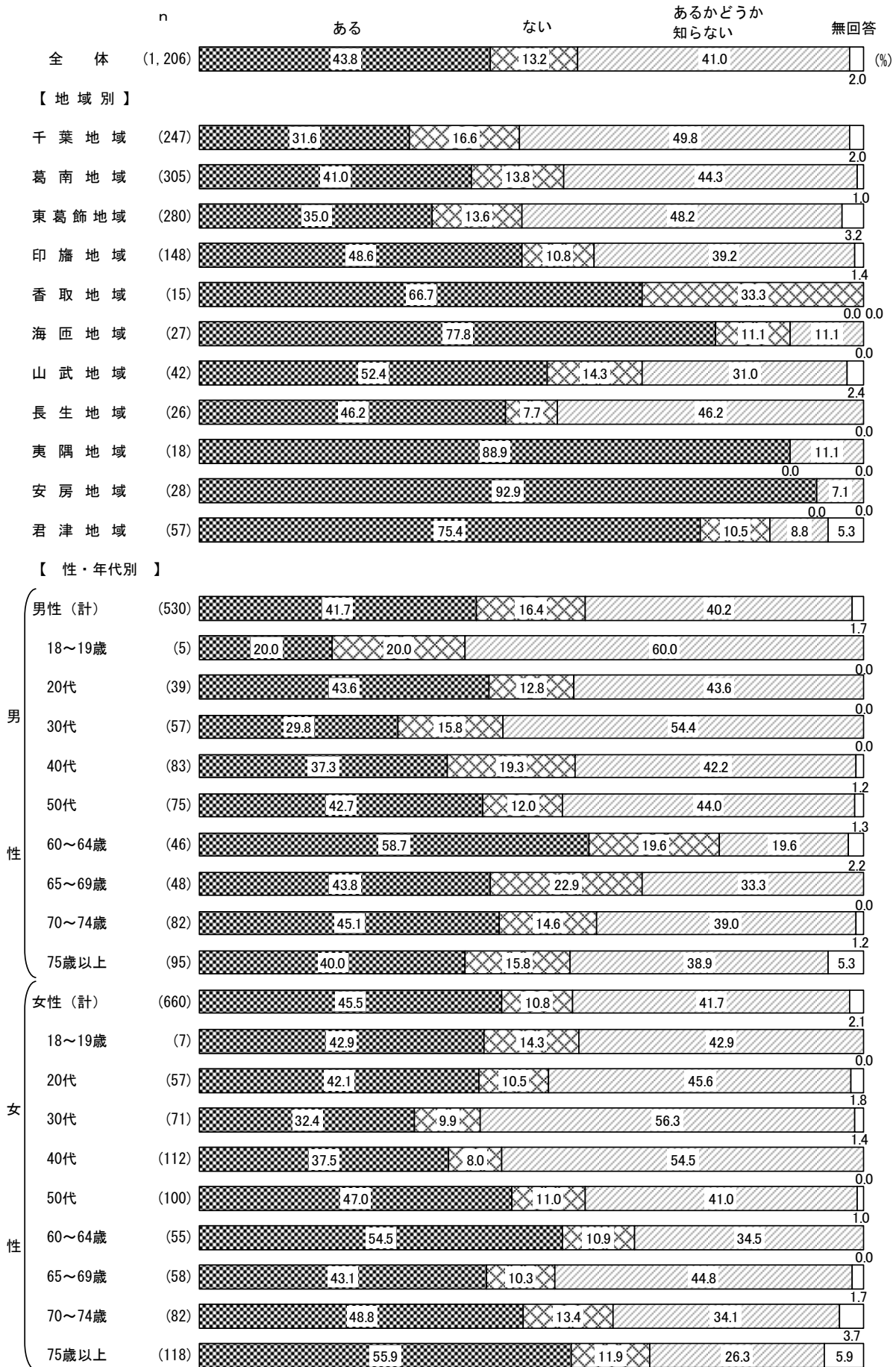
#### 【性・年代別】

性・年代別でみると、「ある」は男性の60~64歳(58.7%)が約6割、女性の75歳以上(55.9%)が5割台半ばで、それぞれ高くなっている。

一方で「あるかどうか知らない」は、女性の30代(56.3%)、女性の40代(54.5%)、男性の30代(54.4%)が5割台半ばで、それぞれ高くなっている。

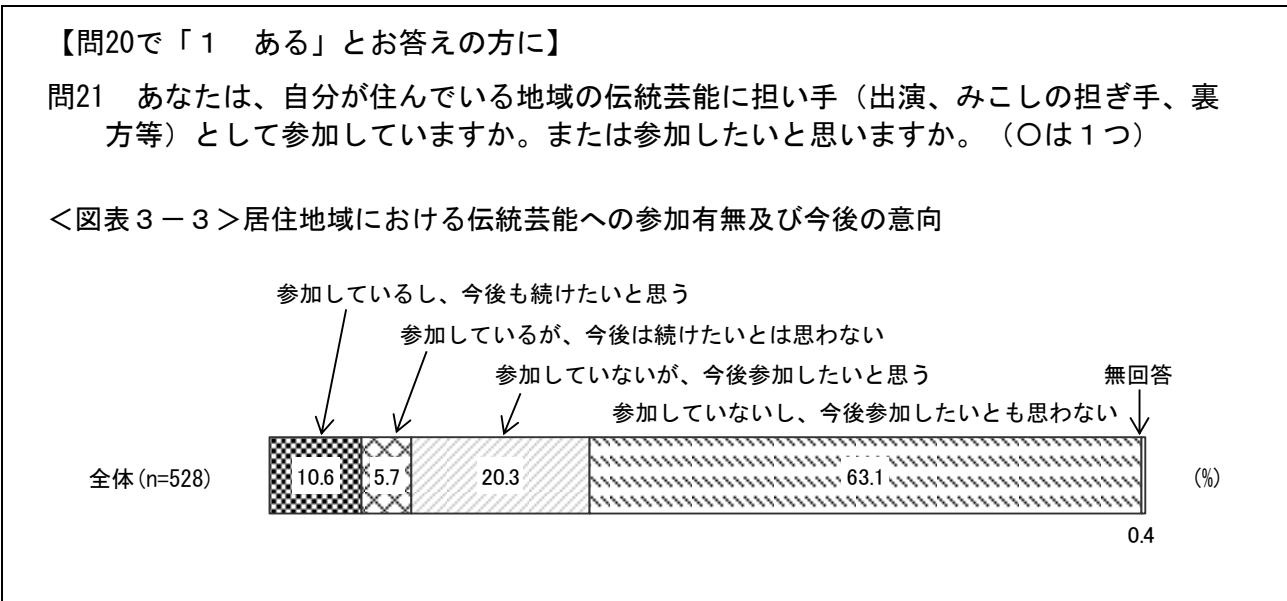
(図表3-2)

<図表3-2> 居住地域において継承されている伝統芸能の有無／地域別、性・年代別



(2) 居住地域における伝統芸能への参加有無及び今後の意向

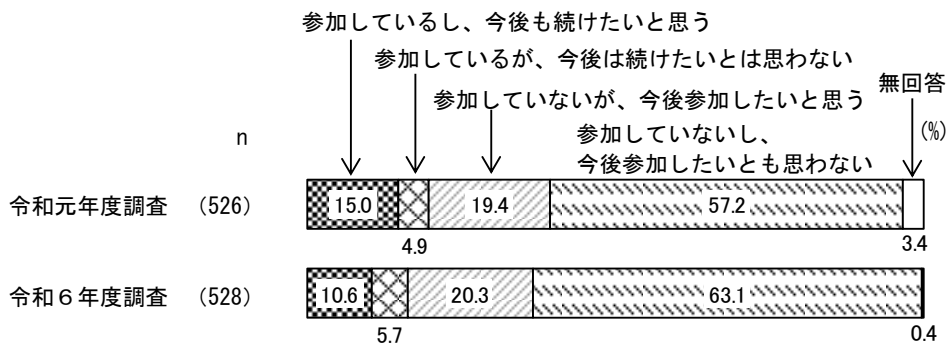
◇「参加しているし、今後も続けたいと思う」は1割



「お住まいの地域で継承されている伝統芸能がある」と回答した528人を対象に、担い手として参加の有無と今後の意向を聞いたところ、「参加しているし、今後も続けたいと思う」（10.6%）は1割となっている。

一方で、「参加していないし、今後参加したいとも思わない」（63.1%）が6割を超えて最も高くなっている。（図表3-3）

【参考】令和元年度・令和6年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

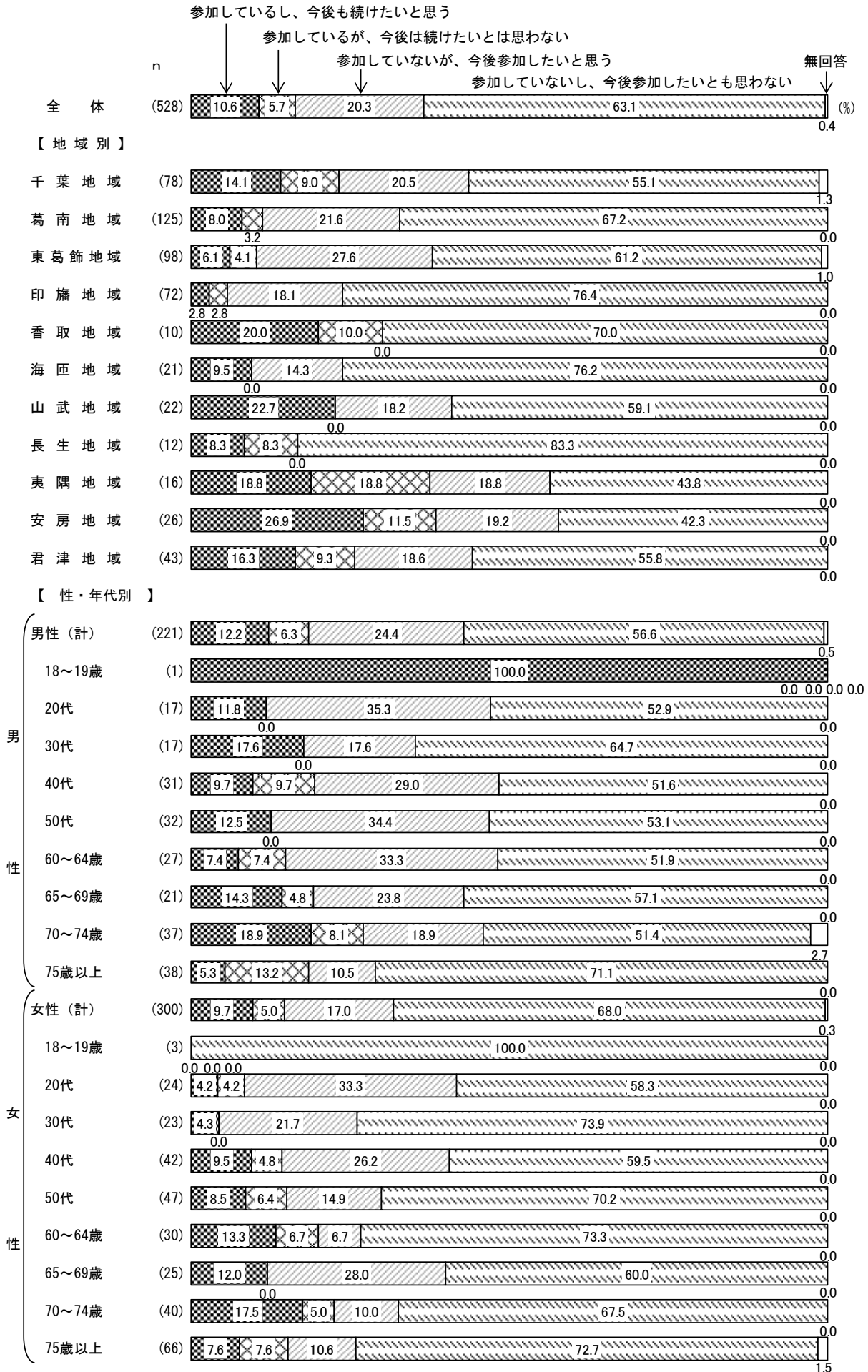
地域別にみると、回答数は少ないものの、「参加しているし、今後も続けたいと思う」は“安房地域”（26.9%）が2割台半ばで高くなっている。

一方で「参加していないし、今後参加したいとも思わない」は、“印旛地域”（76.4%）が7割台半ばで高くなっている。（図表3-4）

【性・年代別】

性・年代別でみると、「参加していないが、今後参加したいと思う」は、男性の50代（34.4%）が3割台半ばで高くなっている。（図表3-4）

<図表3-4> 居住地域における伝統芸能への参加有無及び今後の意向/地域別、性・年代別



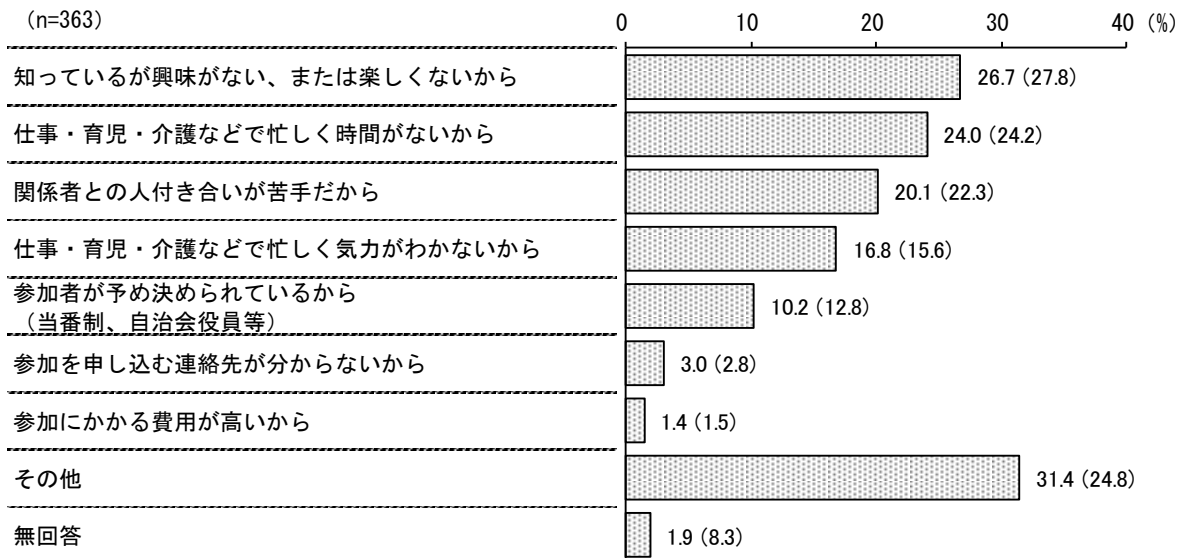
(3) 居住地域における伝統芸能に今後参加したくない理由

◇「その他」を除くと「知っているが興味がない、または楽しくないから」が2割台半ばで最も高い

【問21で「2 参加しているが、今後は続けたいとは思わない」または「4 参加していないし、今後参加したいとも思わない」とお答えの方に】

問22 あなたが担い手（出演、神輿の担ぎ手、裏方等）として参加を続けたいとは思わない、又は参加したいと思わない理由はなんですか。（〇は3つまで）

<図表3-5>居住地域における伝統芸能に今後参加したくない理由



注) ( ) の数字は令和元年度の同様の項目による調査結果 n=327

お住まいの地域で継承されている伝統芸能がある方で、担い手として「参加しているが今後は続けたいとは思わない」または「参加していないし、今後参加したいとも思わない」と回答した363人を対象に、その理由を聞いたところ、「知っているが興味がない、または楽しくないから」(26.7%)が2割台半ばで最も高く、以下「仕事・育児・介護などで忙しく時間がないから」(24.0%)、「関係者との人付き合いが苦手だから」(20.1%)、「仕事・育児・介護などで忙しく気力がわかないから」(16.8%)が続く。

(図表3-5)

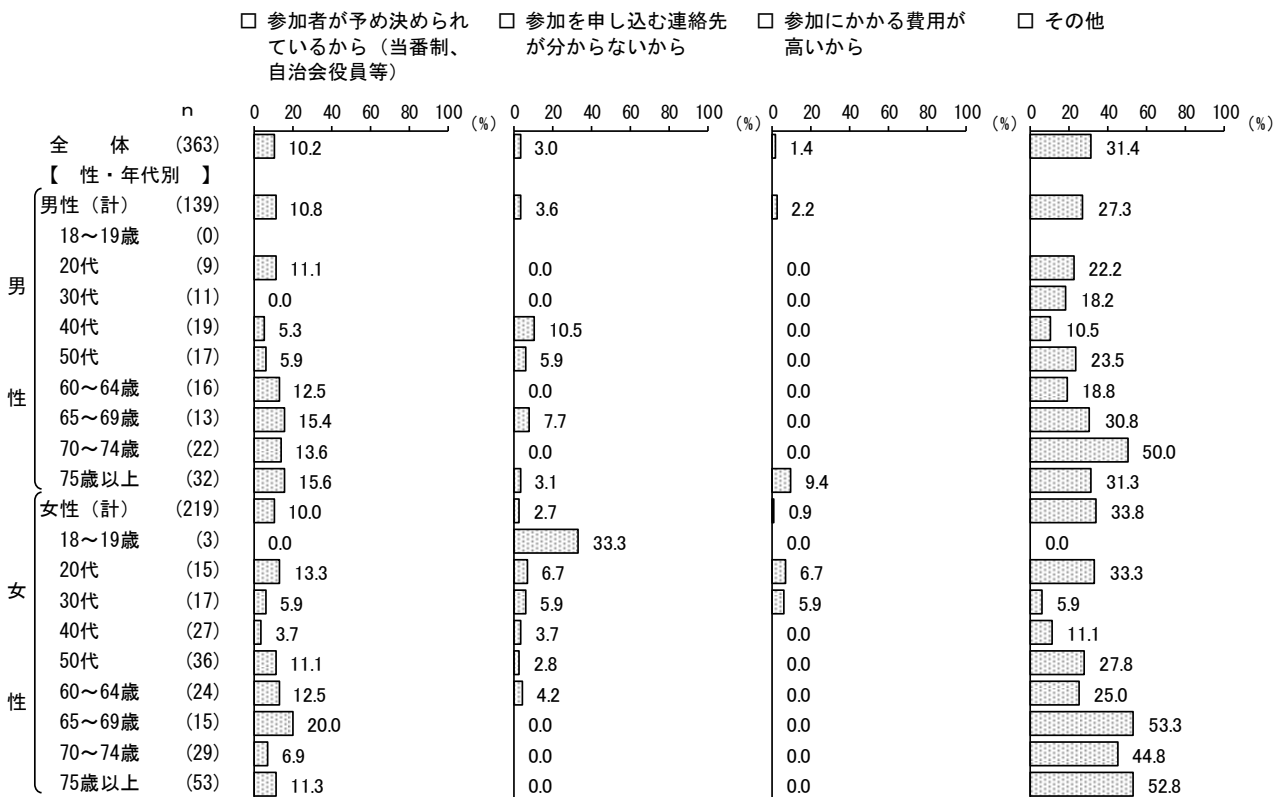
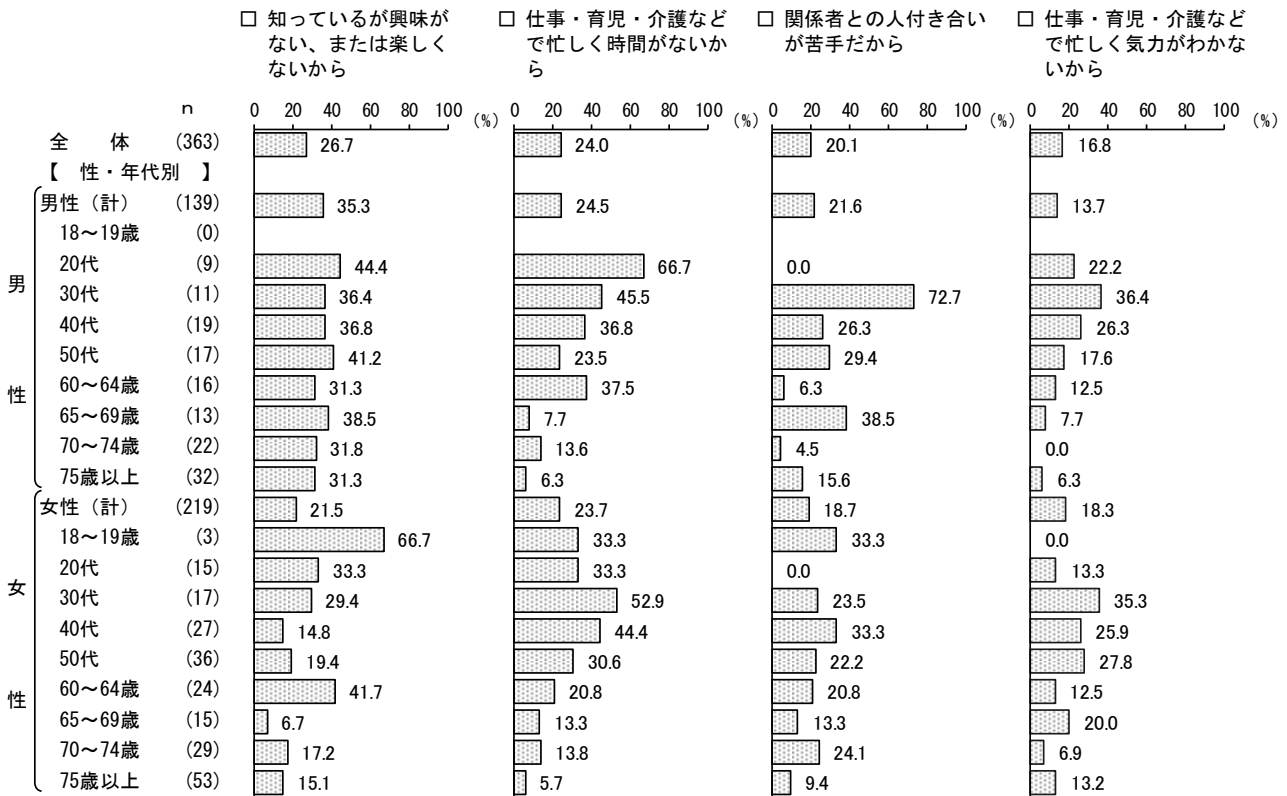
※サンプル数が少ないため、【地域別】、【性・年代別】は参考までに図示するにとどめる。

(11ページ「報告書の見方(4)」を参照) (図表3-6) (図表3-7)



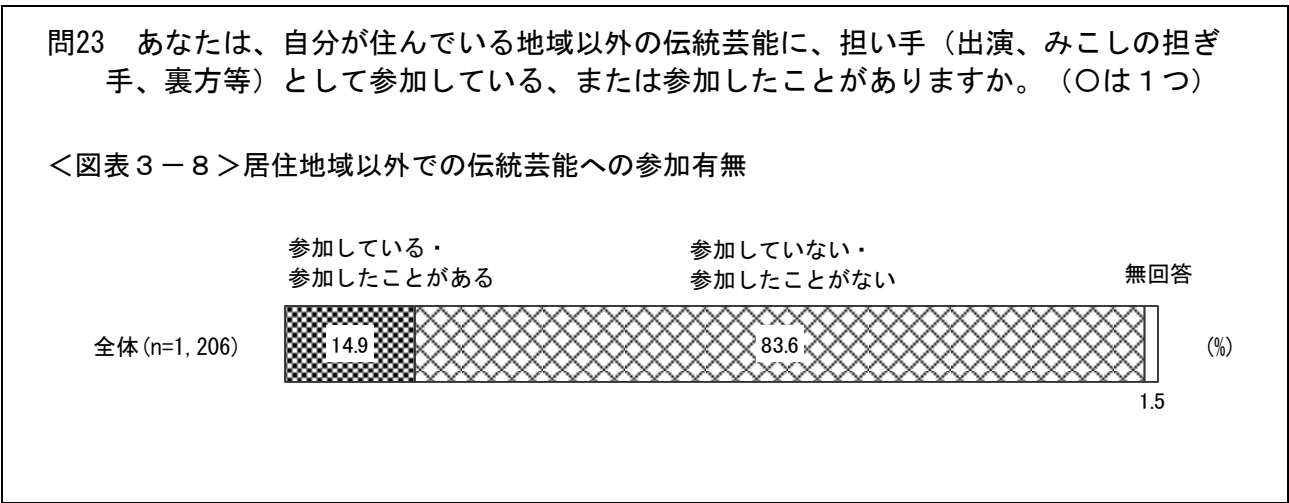


<図表3-7> 居住地域における伝統芸能に今後参加したくない理由／性・年代別



(4) 居住地域以外での伝統芸能への参加有無

◇「参加している・参加したことがある」が1割台半ば

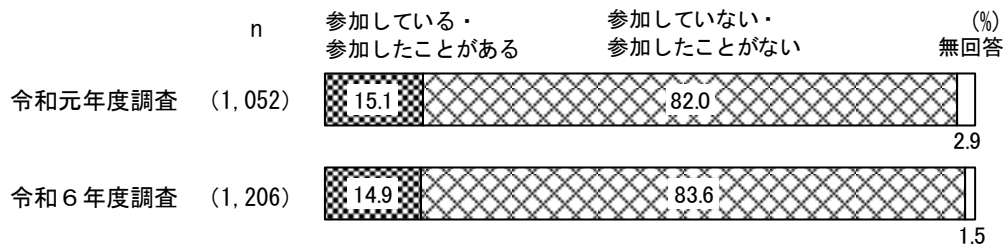


お住まいの地域以外で伝統芸能に担い手として参加経験があるかを聞いたところ、「参加している・参加したことがある」（14.9%）が1割台半ばとなっている。

一方で「参加していない・参加したことがない」（83.6%）は8割台半ばとなっている。

（図表3-8）

〔参考〕 令和元年度・令和6年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

地域別にみると、「参加している・参加したことがある」は“君津地域”（28.1%）が約3割で高くなっている。また、回答者数は多くないものの、“香取地域”（33.3%）、“安房地域”（32.1%）が3割を超え、それぞれ高くなっている。

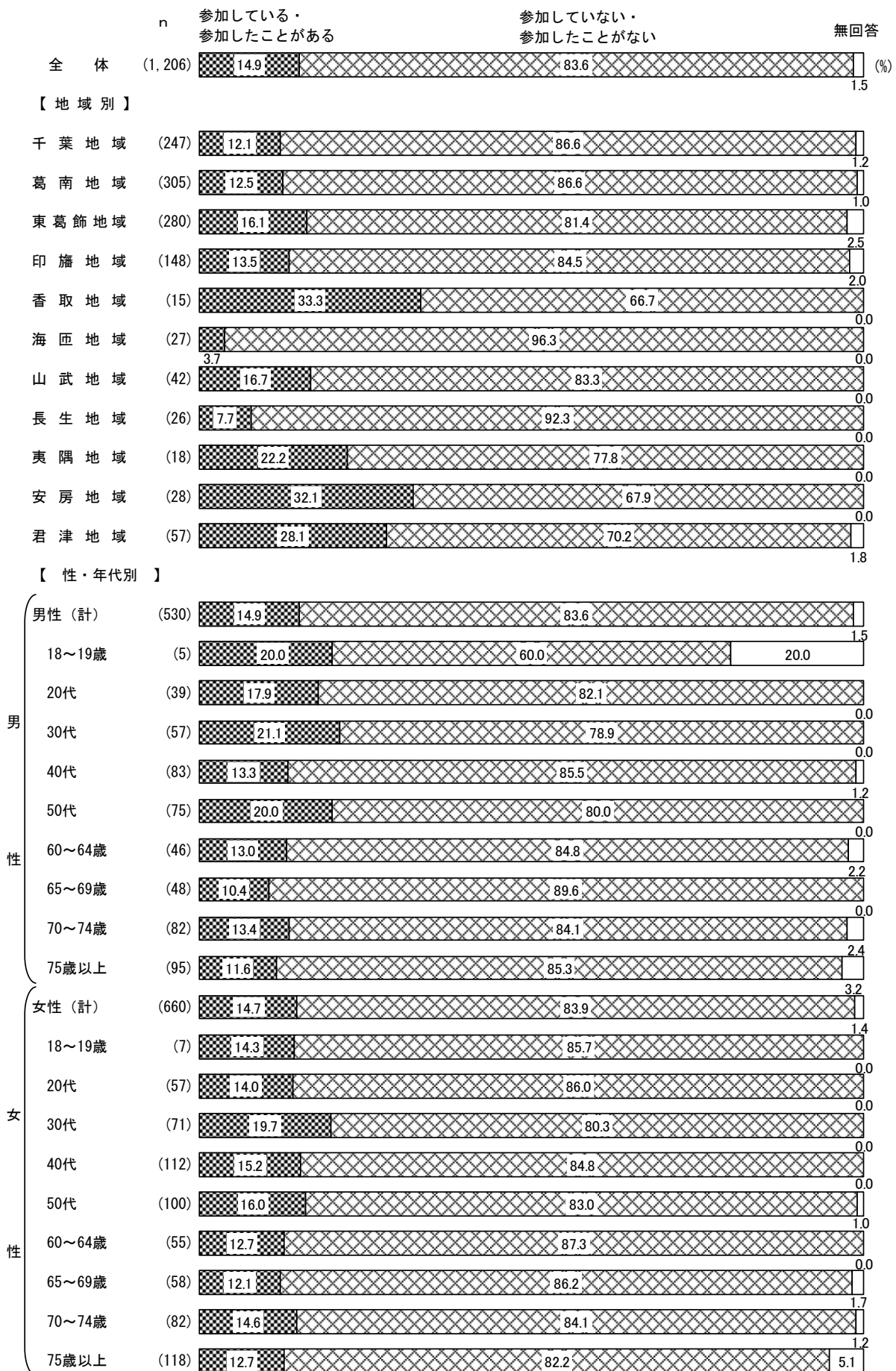
（図表3-9）

【性・年代別】

性・年代別で特に大きな違いは見られない。

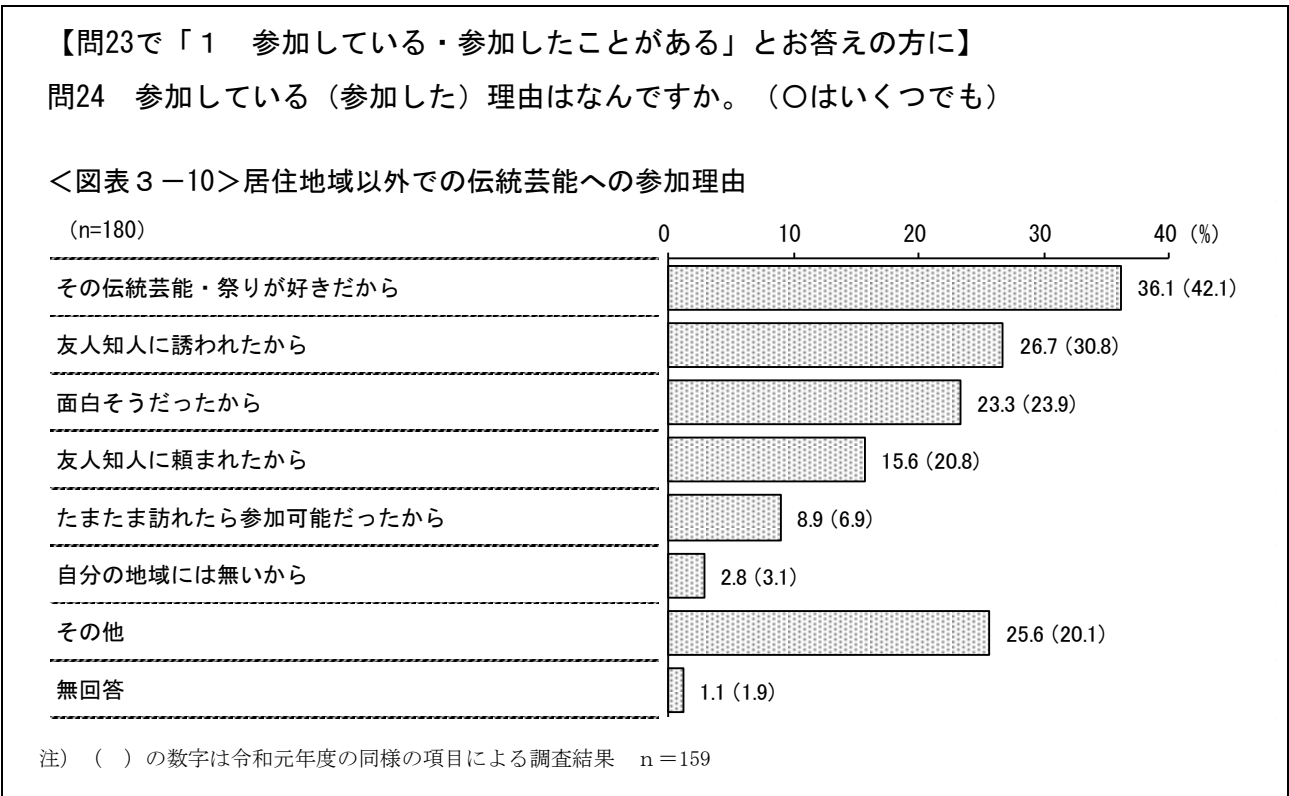
（図表3-9）

<図表3-9> 居住地域以外での伝統芸能への参加有無／地域別、性・年代別



(5) 居住地域以外での伝統芸能への参加理由

◇「その伝統芸能・祭りが好きだから」が3割台半ばで最も高い



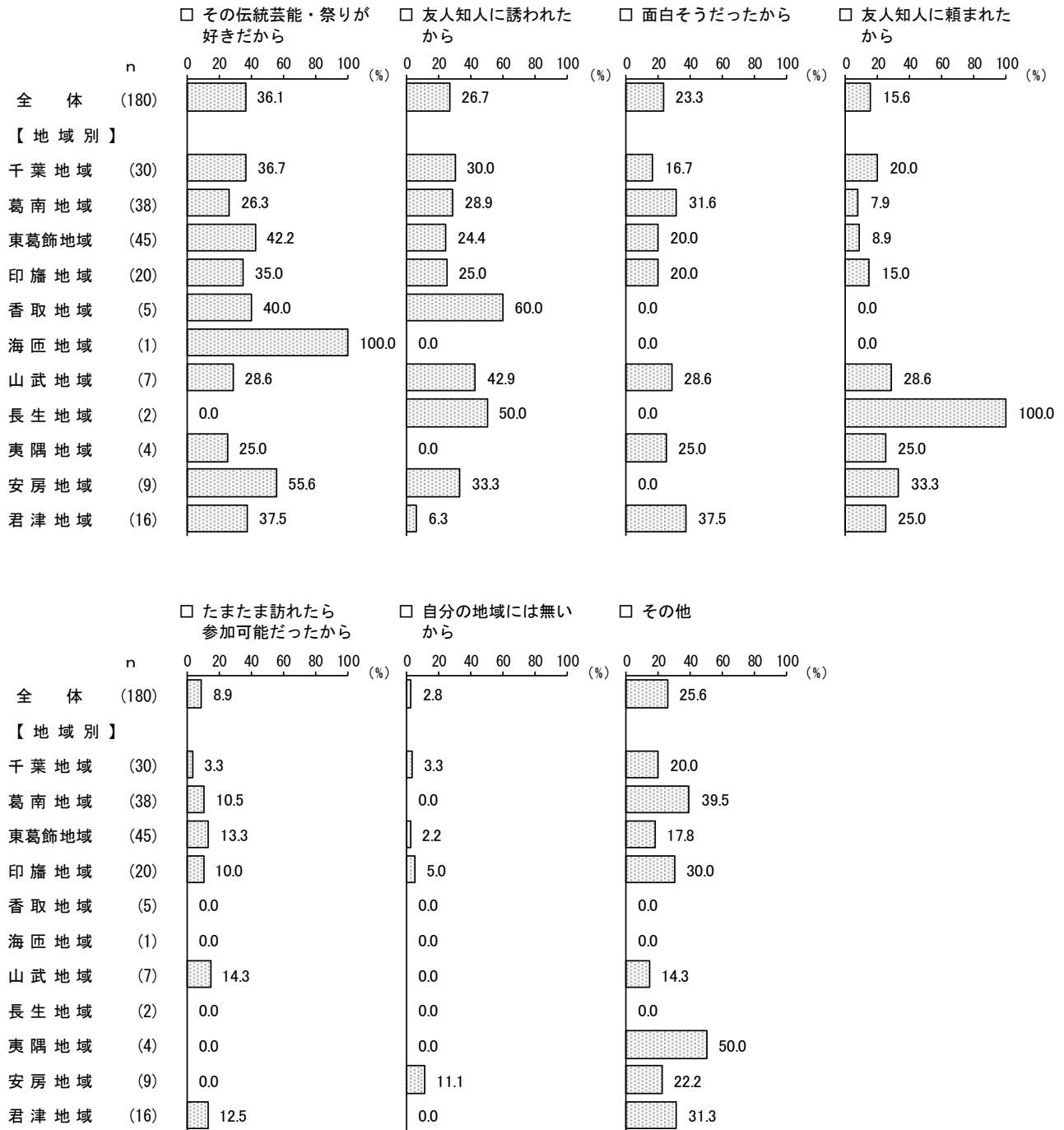
「お住まいの地域以外で伝統芸能に担い手として参加経験がある」と回答した180人を対象に、参加理由を聞いたところ、「その伝統芸能・祭りが好きだから」（36.1%）が3割台半ばで最も高く、以下「友人知人に誘われたから」（26.7%）、「面白そうだったから」（23.3%）、「友人知人に頼まれたから」（15.6%）が続く。

(図表3-10)

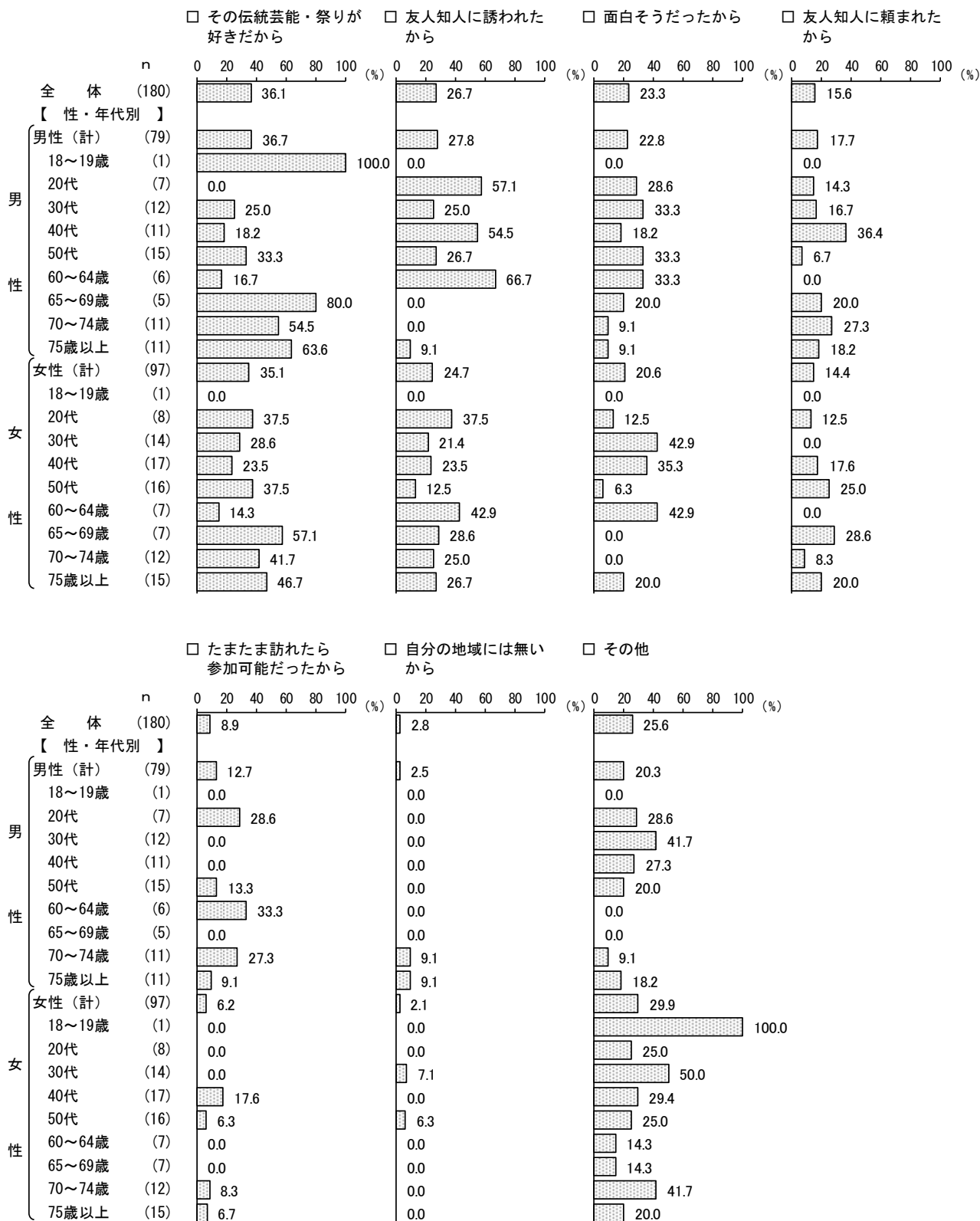
※サンプル数が少ないため、【地域別】、【性・年代別】は参考までに図示するにとどめる。

(11ページ「報告書の見方(4)」を参照) (図表3-11) (図表3-12)

<図表3-11> 居住地域以外での伝統芸能への参加理由／地域別



<図表3-12> 居住地域以外での伝統芸能への参加理由／地域別、性・年代別



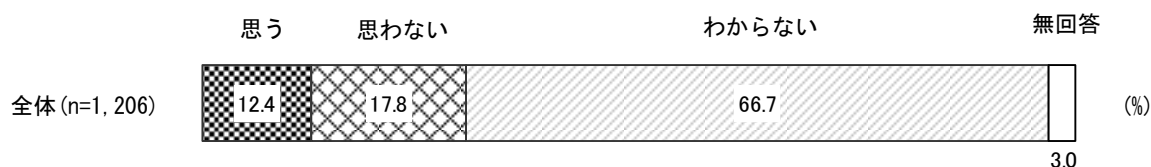
## 4. 障害がある方の文化芸術活動について

### (1) 障害の有無に関わらず文化芸術活動について鑑賞・参加できる機会

◇十分にありと「思う」は1割を超える

問25 県では、障害の有無に関わらず文化芸術活動について鑑賞・参加できることが大切だと考えていますが、県内でそのような鑑賞・参加ができる機会は十分だと思いますか。(〇は1つ)

<図表4-1>障害の有無に関わらず文化芸術活動について鑑賞・参加できる機会

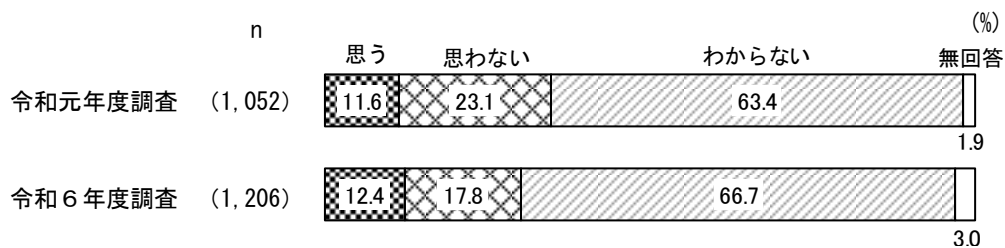


障害の有無に関わらず文化芸術活動について鑑賞・参加できる機会が十分にありと思うかを聞いたところ、「思う」(12.4%)が1割を超えている。

一方で、「思わない」(17.8%)が約2割、「わからない」(66.7%)が6割台半ばとなっている。

(図表4-1)

【参考】令和元年度・令和6年度の同様の項目による調査結果との比較(単位:%)



#### 【地域別】

地域別で特に大きな違いは見られない。

(図表4-2)

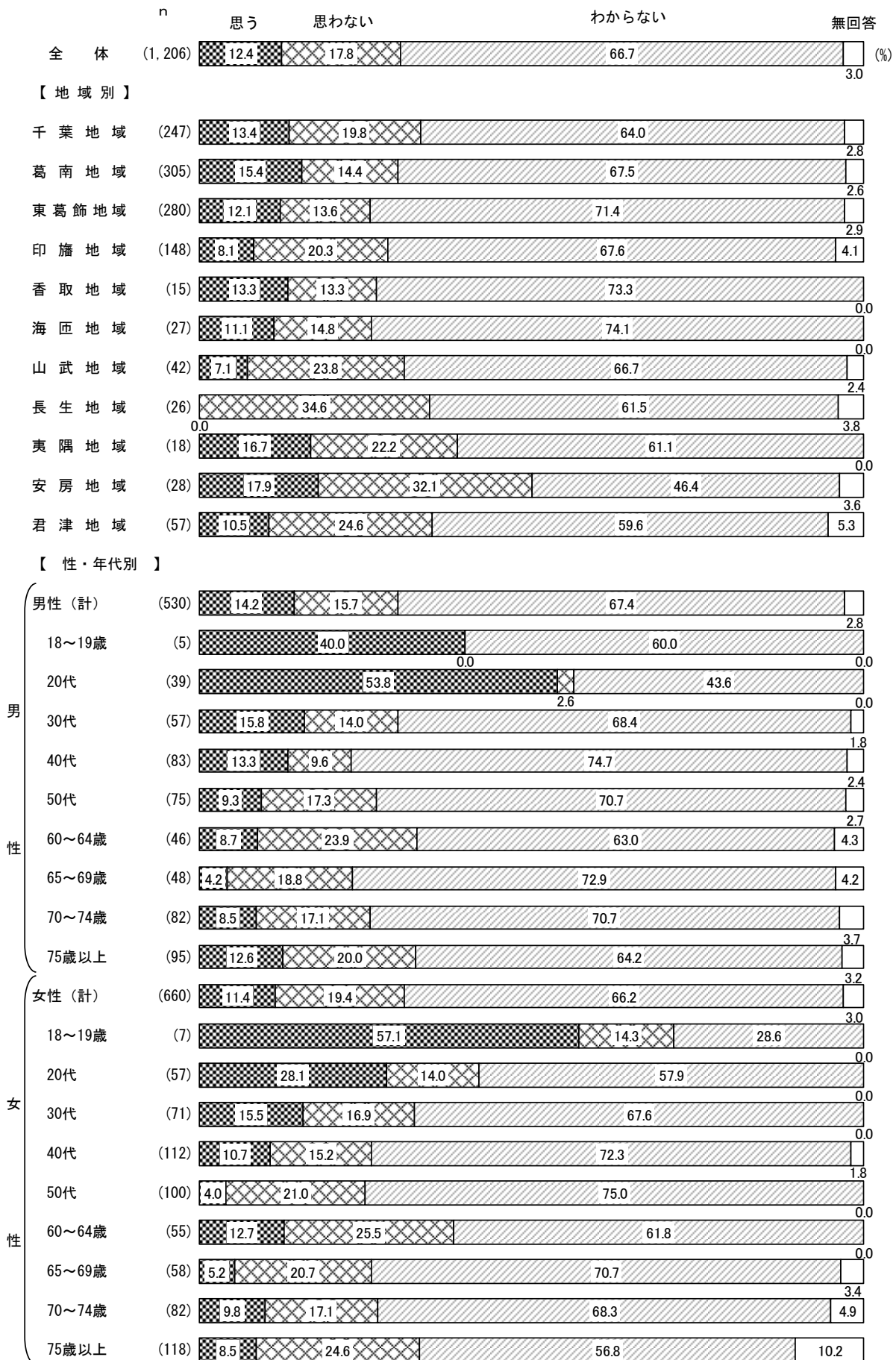
#### 【性・年代別】

性・年代別でみると、「思う」は、男性の20代(53.8%)が5割台半ば、女性の20代(28.1%)が約3割で高くなっている。

(図表4-2)



<図表4-2>障害の有無に関わらず文化芸術活動について鑑賞・参加できる機会／地域別、性・年代別

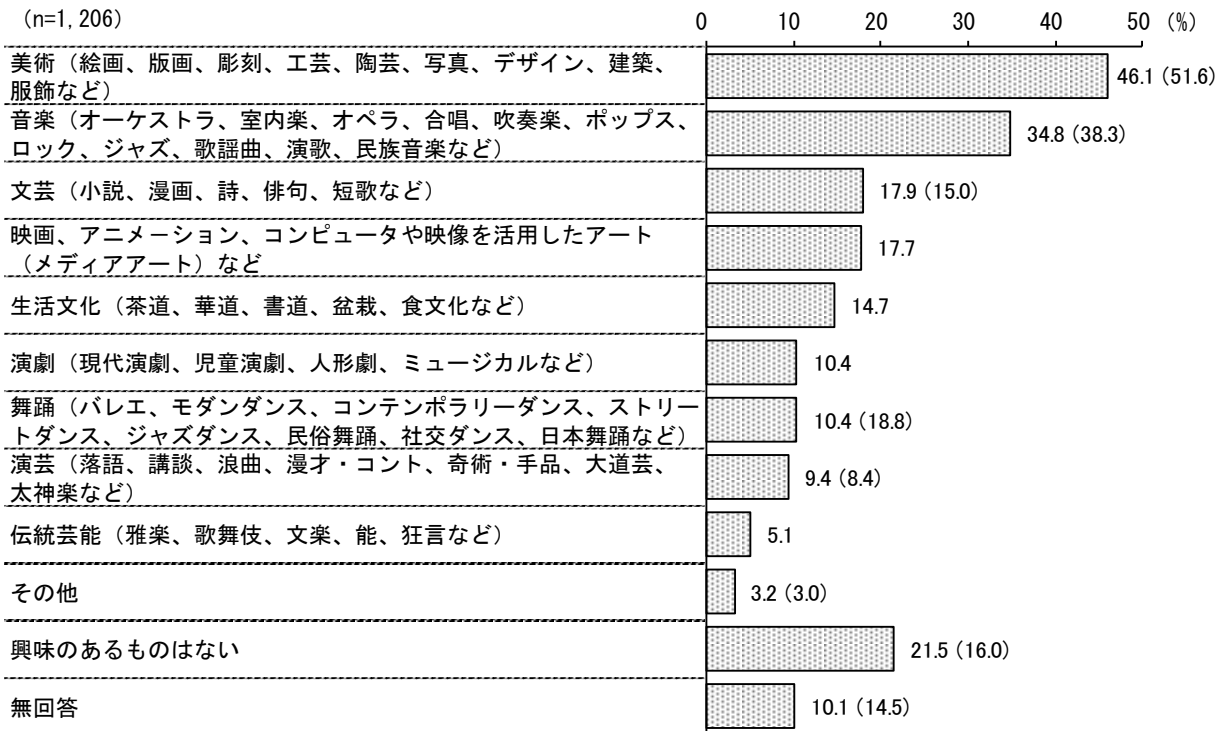


(2) 障害のある方の文化芸術活動で興味があるもの

◇「美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、写真、デザイン、建築、服飾など）」が4割台半ばで最も高い

問26 障害のある方による文化芸術活動のうち、あなたが興味のあるものはありますか。  
(〇はいくつでも)

<図表4-3>障害のある方の文化芸術活動で興味があるもの



注) ( ) の数字は令和元年度の同様の項目による調査結果 n=1,052

※「美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、写真、デザイン、建築、服飾など）」は、令和元年度では「美術（絵画、彫刻、工芸など）」

※「音楽（オーケストラ、室内楽、オペラ、合唱、吹奏楽、ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽など）」は、令和元年度では「音楽（合唱、演奏など）」

※「文芸（小説、漫画、詩、俳句、短歌など）」は、令和元年度では「文芸（小説、漫画、詩など）」

※「舞踊（バレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンス、ストリートダンス、ジャズダンス、民俗舞踊、社交ダンス、日本舞踊など）」は、令和元年度では「舞台・舞踊（演劇、ミュージカル、ダンスなど）」

※「演芸（落語、講談、浪曲、漫才・コント、奇術・手品、大道芸、太神楽など）」は、令和元年度では「演芸（落語、漫才など）」

障害のある方の文化芸術活動で興味があるものを聞いたところ、「美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、写真、デザイン、建築、服飾など）」（46.1%）が4割台半ばで最も高く、以下「音楽（オーケストラ、室内楽、オペラ、合唱、吹奏楽、ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽など）」（34.8%）、「文芸（小説、漫画、詩、俳句、短歌など）」（17.9%）、「映画、アニメーション、コンピュータや映像を活用したアート（メディアアート）など」（17.7%）が続く。

また、「興味のあるものはない」（21.5%）が2割を超える。

(図表4-3)

### 【地域別】

地域別にみると、「美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、写真、デザイン、建築、服飾など）」は、「印旛地域」（56.8%）が5割台半ばで高くなっている。

（図表4-4）

### 【性・年代別】

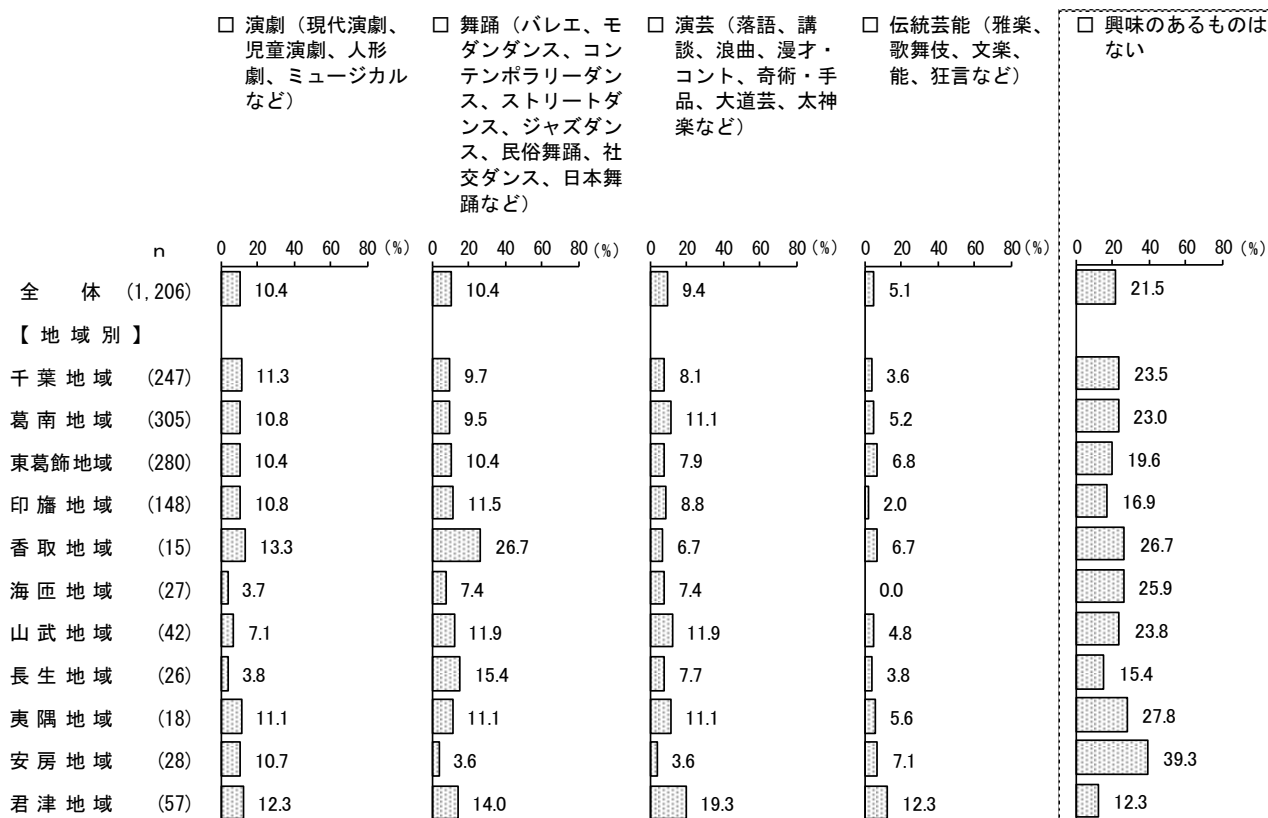
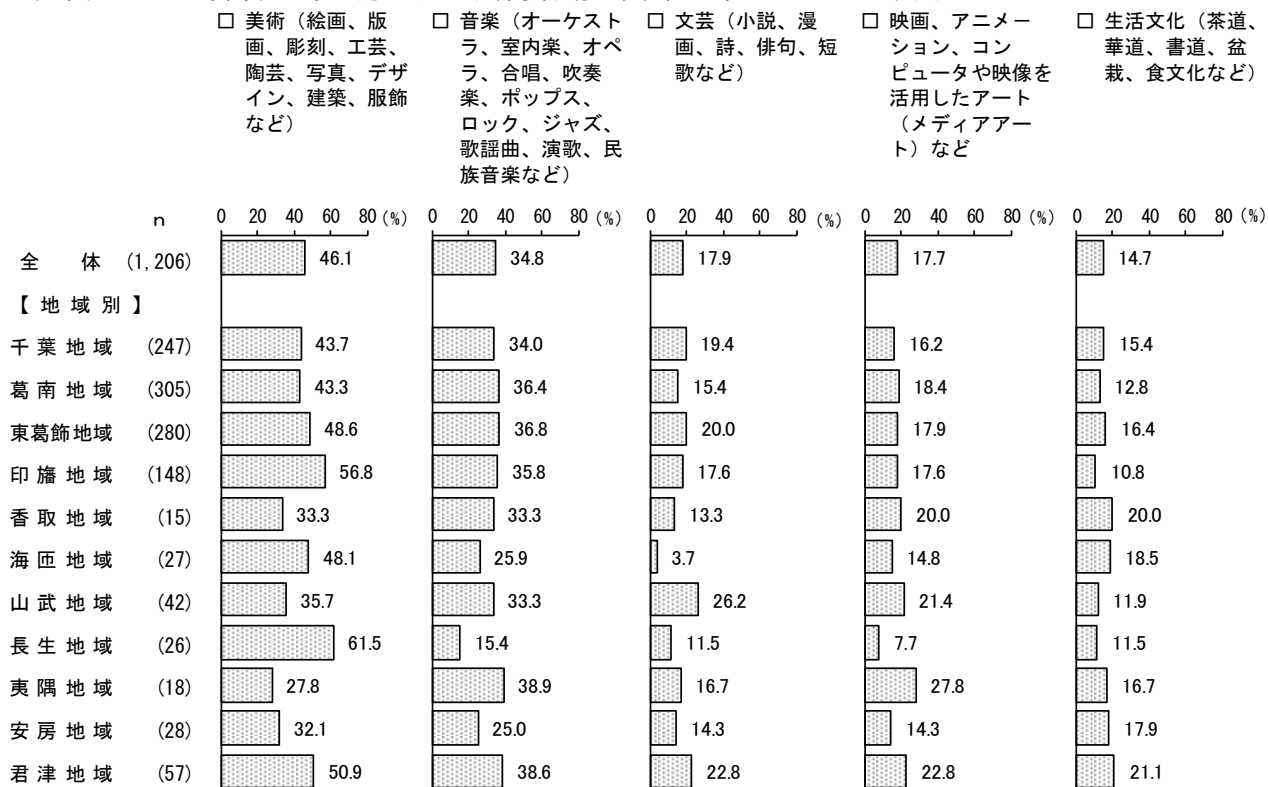
性・年代別でみると、「美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、写真、デザイン、建築、服飾など）」は、女性の40代（61.6%）が6割を超え、女性の65～69歳（58.6%）が約6割で、それぞれ高くなっている。

「文芸（小説、漫画、詩、俳句、短歌など）」は、女性の40代（25.9%）が2割台半ばで高くなっている。

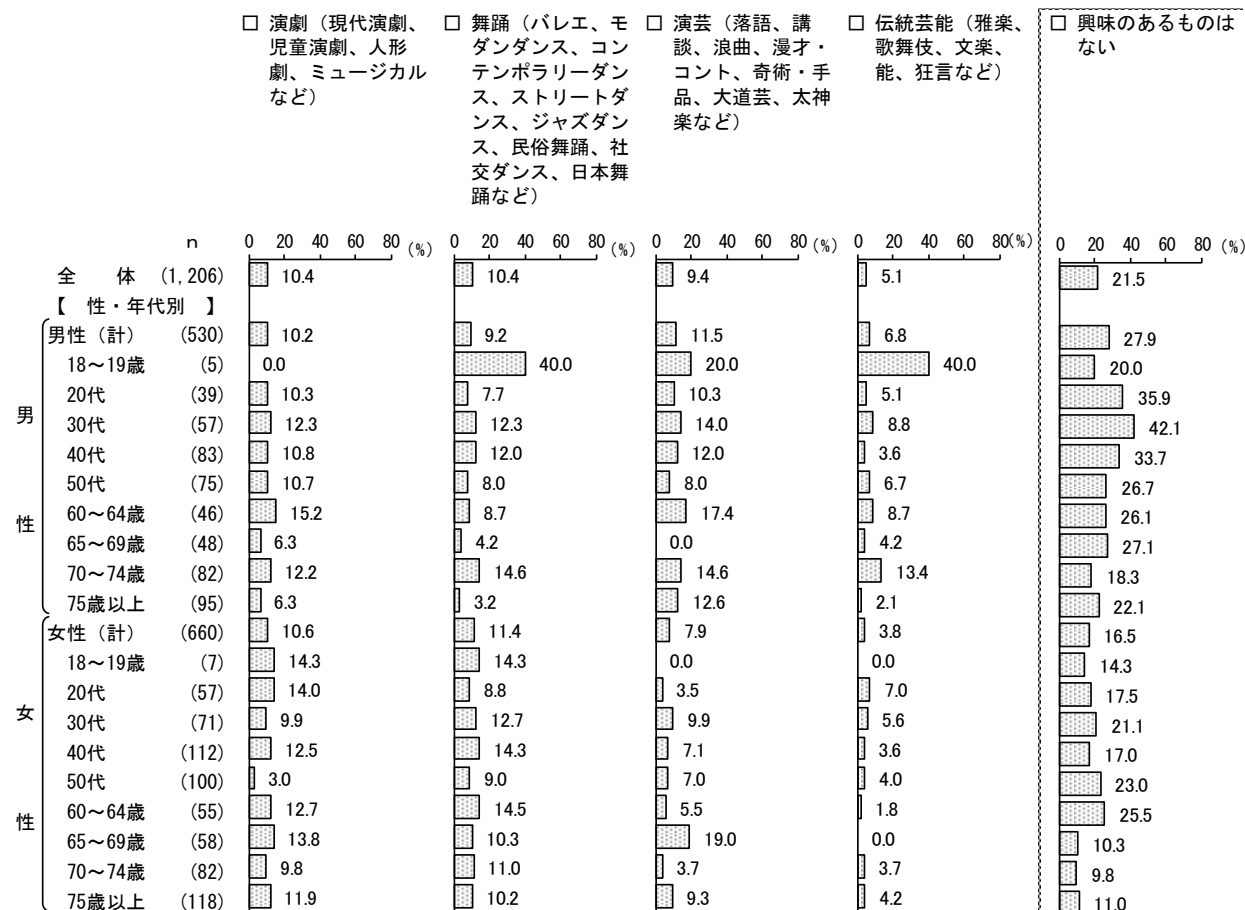
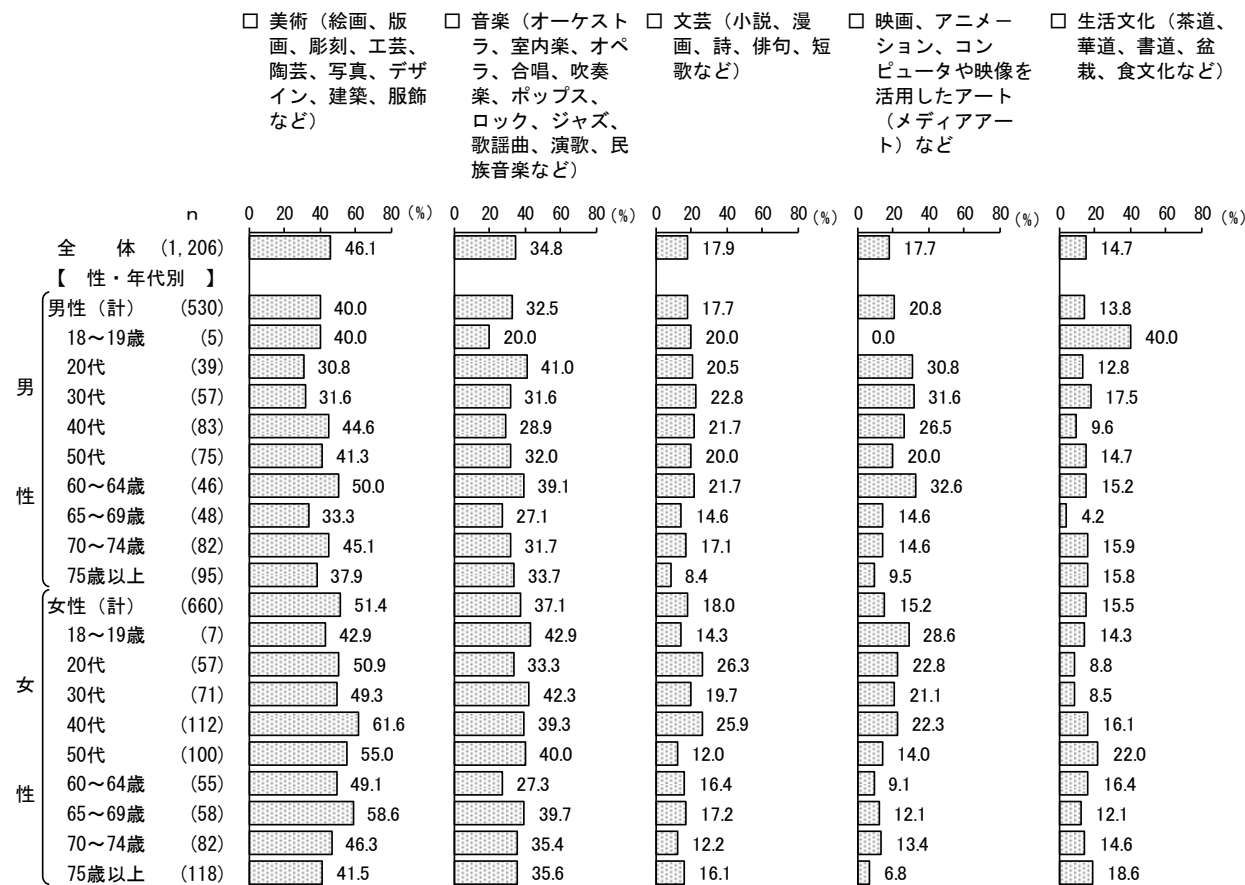
「映画、アニメーション、コンピュータや映像を活用したアート（メディアアート）など」は、男性の60～64歳（32.6%）、男性の30代（31.6%）が3割を超え、男性の20代（30.8%）が3割、男性の40代（26.5%）が2割台半ばで、それぞれ高くなっている。

（図表4-5）

＜図表４－４＞障害のある方の文化芸術活動で興味があるもの／地域別



<図表4-5>障害のある方の文化芸術活動で興味があるもの／性・年代別



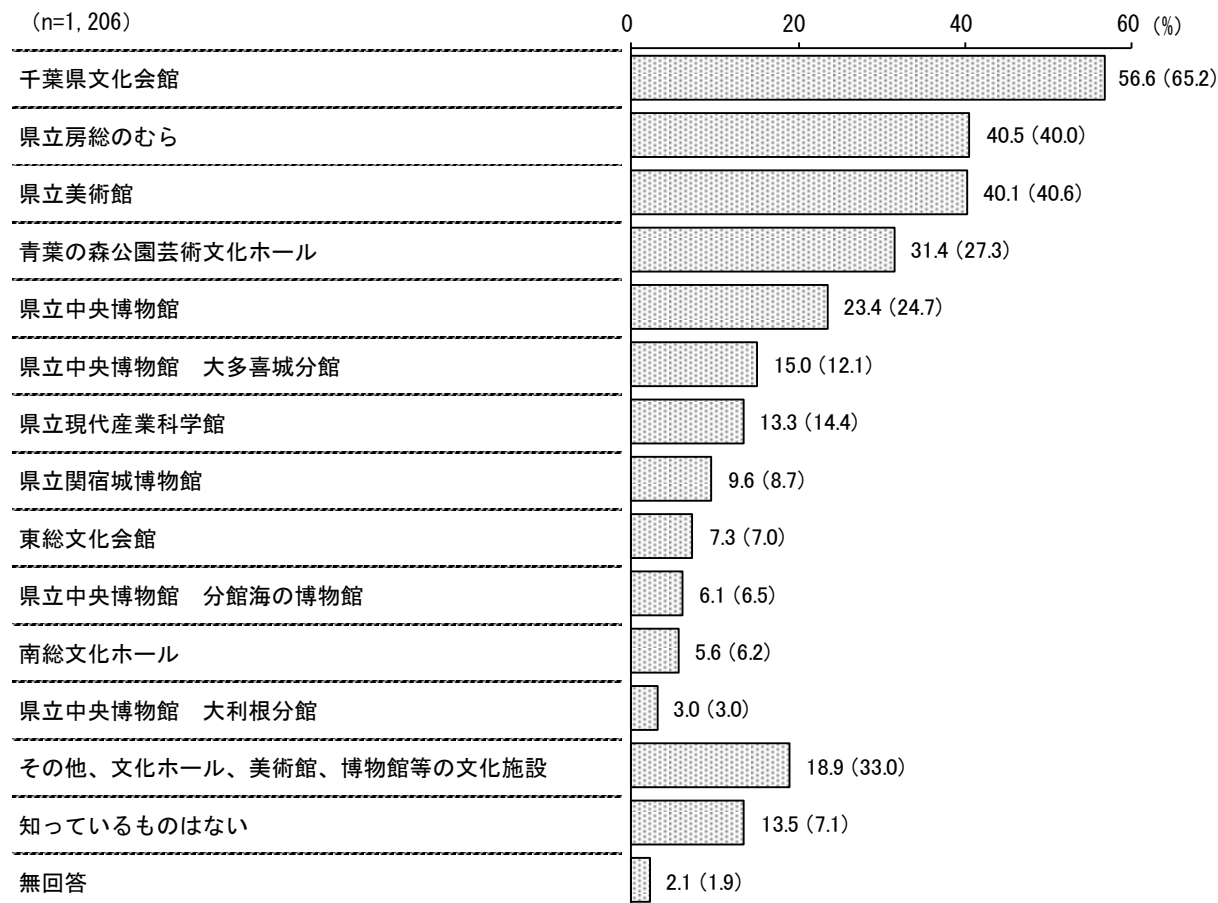
## 5. 文化施設について

### (1) 県内文化施設の認知

◇「千葉県文化会館」が5割台半ばで最も高い

問27 千葉県にある次の文化施設のうち、あなたが知っているものはどれですか。(〇はいくつでも)

<図表5-1> 県内文化施設の認知



注) ( ) の数字は令和元年度の同様の項目による調査結果 n=1,052

※「その他、文化ホール、美術館、博物館等の文化施設」は、令和元年度では「その他、お住まいの市町村にある文化ホール、美術館、博物館等の文化施設」

千葉県内の文化施設で知っているものを聞いたところ、「千葉県文化会館」(56.6%)が5割台半ばで最も高く、以下「県立房総のむら」(40.5%)、「県立美術館」(40.1%)、「青葉の森公園芸術文化ホール」(31.4%)が続く。

また、「知っているものはない」(13.5%)は1割台半ばとなっている。

(図表5-1)

#### 【地域別】

地域別にみると、「千葉県文化会館」は、“山武地域”(81.0%)が8割を超え、“千葉地域”(78.1%)が約8割で、それぞれ高くなっている。

「県立房総のむら」は、“印旛地域”（70.3%）が7割で高くなっている。

「県立美術館」は、“山武地域”（66.7%）が6割台半ば、“千葉地域”（63.2%）が6割を超え、それぞれ高くなっている。

「青葉の森公園芸術文化ホール」は、“千葉地域”（61.5%）が6割を超え、“山武地域”（47.6%）が約5割、“君津地域”（45.6%）が4割台半ばで、それぞれ高くなっている。

（図表5－2）

#### 【性・年代別】

性・年代別でみると、「千葉県文化会館」は、女性の40代（67.9%）が約7割、女性の50代（66.0%）が6割台半ばで、それぞれ高くなっている。

「県立房総のむら」は、女性の65～69歳（53.4%）、女性の70～74歳（51.2%）が5割を超え、それぞれ高くなっている。

「県立美術館」は、女性の50代（50.0%）が5割で高くなっている。

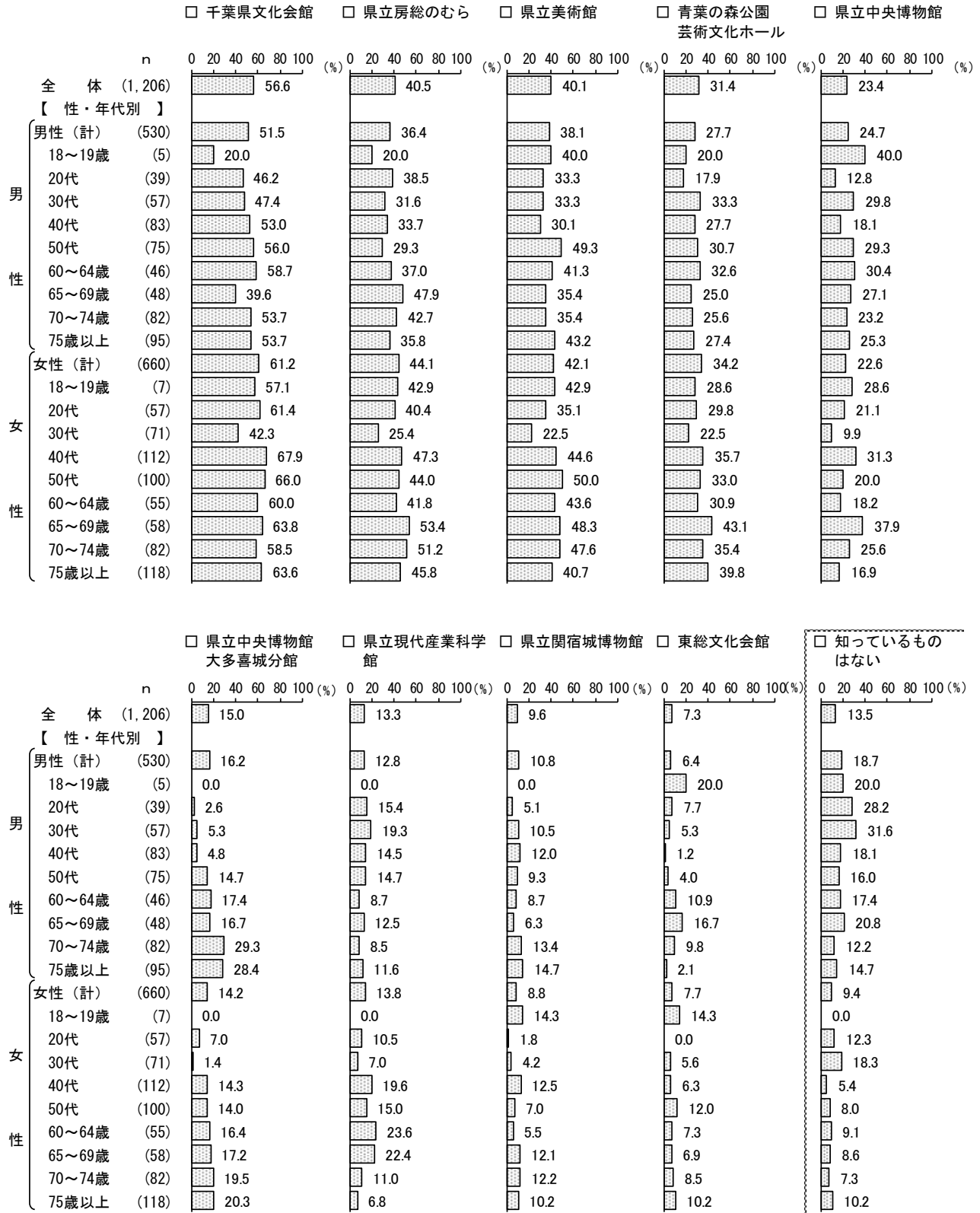
「青葉の森公園芸術文化ホール」は、女性の65～69歳（43.1%）が4割を超え、女性の75歳以上（39.8%）が約4割で、それぞれ高くなっている。

（図表5－3）





<図表5-3> 県内文化施設の認知／性・年代別（上位9項目+知っているものはない）

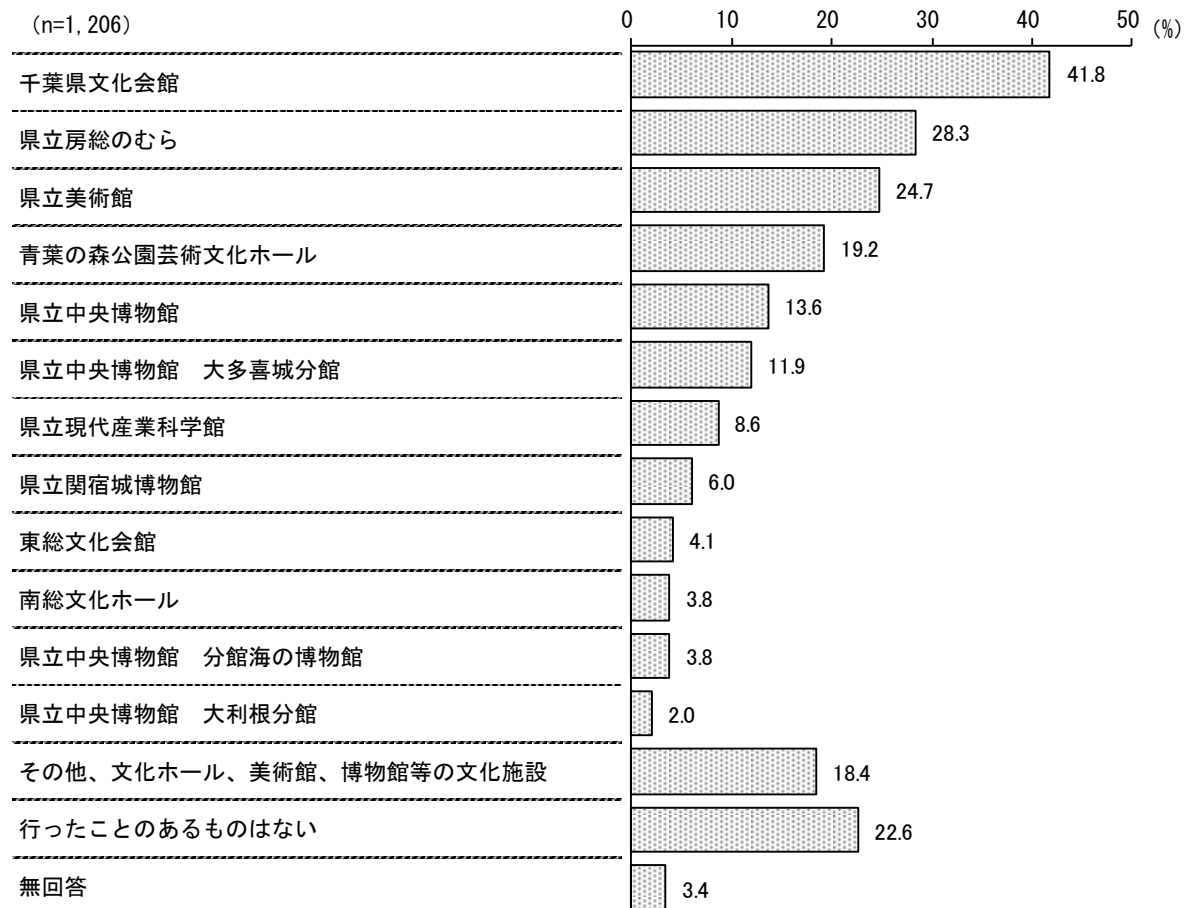


## (2) 県内文化施設の利用経験

◇「千葉県文化会館」が4割を超えて最も高い

問28 千葉県にある次の文化施設のうち、あなたが行ったことのあるものはどれですか。  
(〇はいくつでも)

<図表5-4> 県内文化施設の利用経験



千葉県内の文化施設で行ったことがあるものを聞いたところ、「千葉県文化会館」(41.8%)が4割を超えて最も高く、以下「県立房総のむら」(28.3%)、「県立美術館」(24.7%)、「青葉の森公園芸術文化ホール」(19.2%)が続く。

また、「行ったことのあるものはない」(22.6%)は2割を超えている。

(図表5-4)

### 【地域別】

地域別にみると、「千葉県文化会館」は、「山武地域」(66.7%)が6割台半ば、「千葉地域」(62.3%)が6割を超え、それぞれ高くなっている。

「県立房総のむら」は、「印旛地域」(56.1%)が5割台半ばで高くなっている。

「県立美術館」は、「千葉地域」(43.7%)が4割台半ば、「山武地域」(38.1%)が約4割で、それぞれ高くなっている。

「青葉の森公園芸術文化ホール」は、“千葉地域”（37.7%）が約4割で高くなっている。

（図表5-5）

#### 【性・年代別】

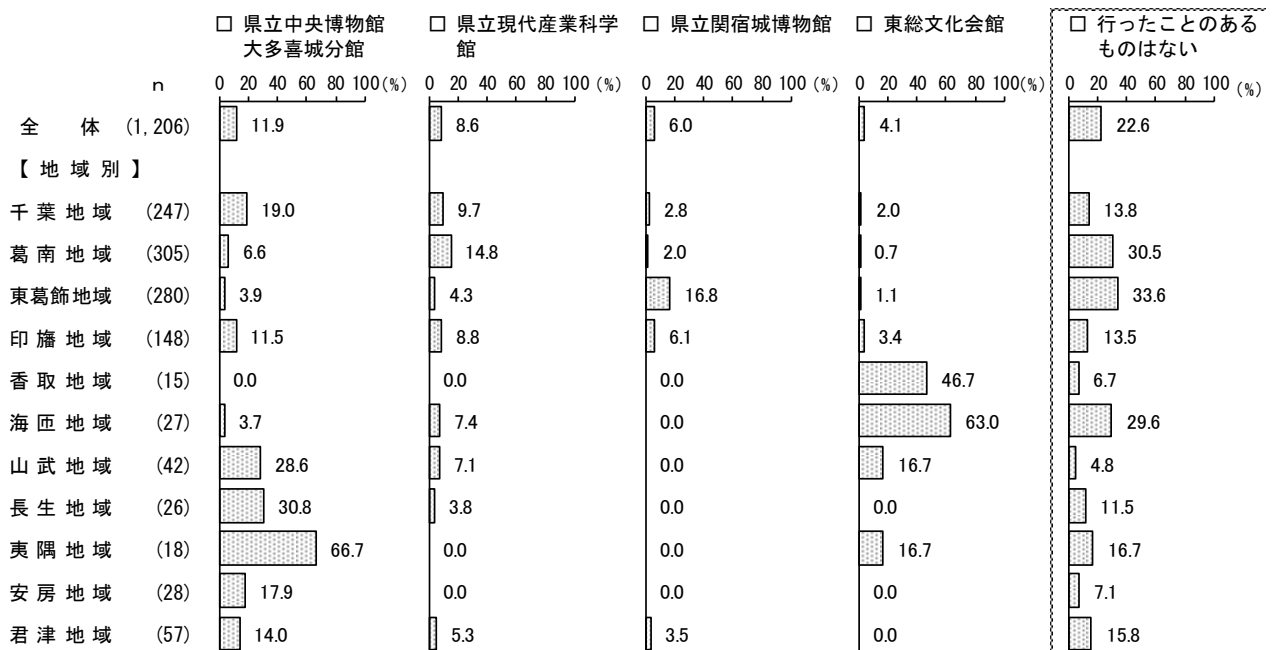
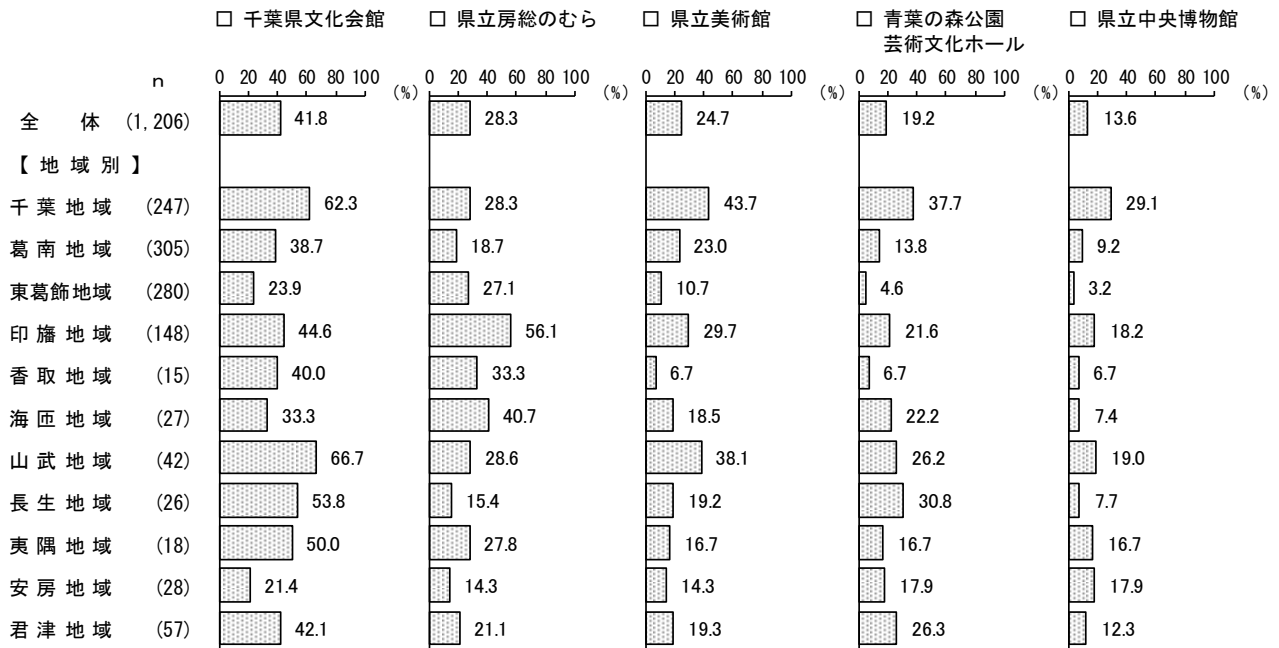
性・年代別でみると、「千葉県文化会館」は、女性の50代（55.0%）が5割台半ばで高くなっている。

「県立房総のむら」は、男性の65～69歳（41.7%）が4割を超え、女性の75歳以上（36.4%）が3割台半ばで、それぞれ高くなっている。

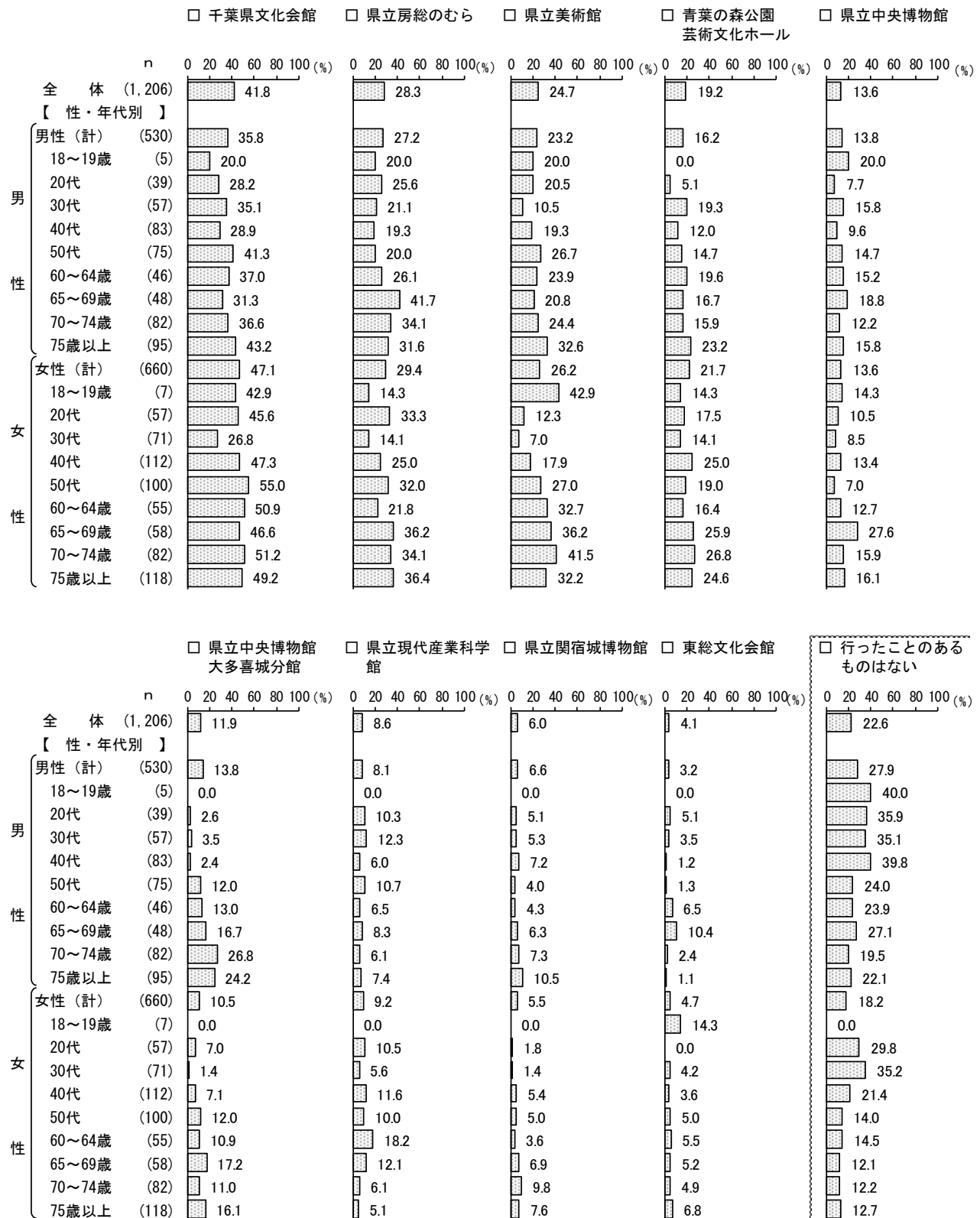
「県立美術館」は、女性の70～74歳（41.5%）が4割を超え、女性の65～69歳（36.2%）が3割台半ば、女性の75歳以上（32.2%）が3割を超え、それぞれ高くなっている。

（図表5-6）

<図表5-5> 県内文化施設の利用経験／地域別（上位9項目+行ったことのあるものはない）



<図表5-6> 県内文化施設の利用経験／性・年代別（上位9項目+行ったことのあるものはない）



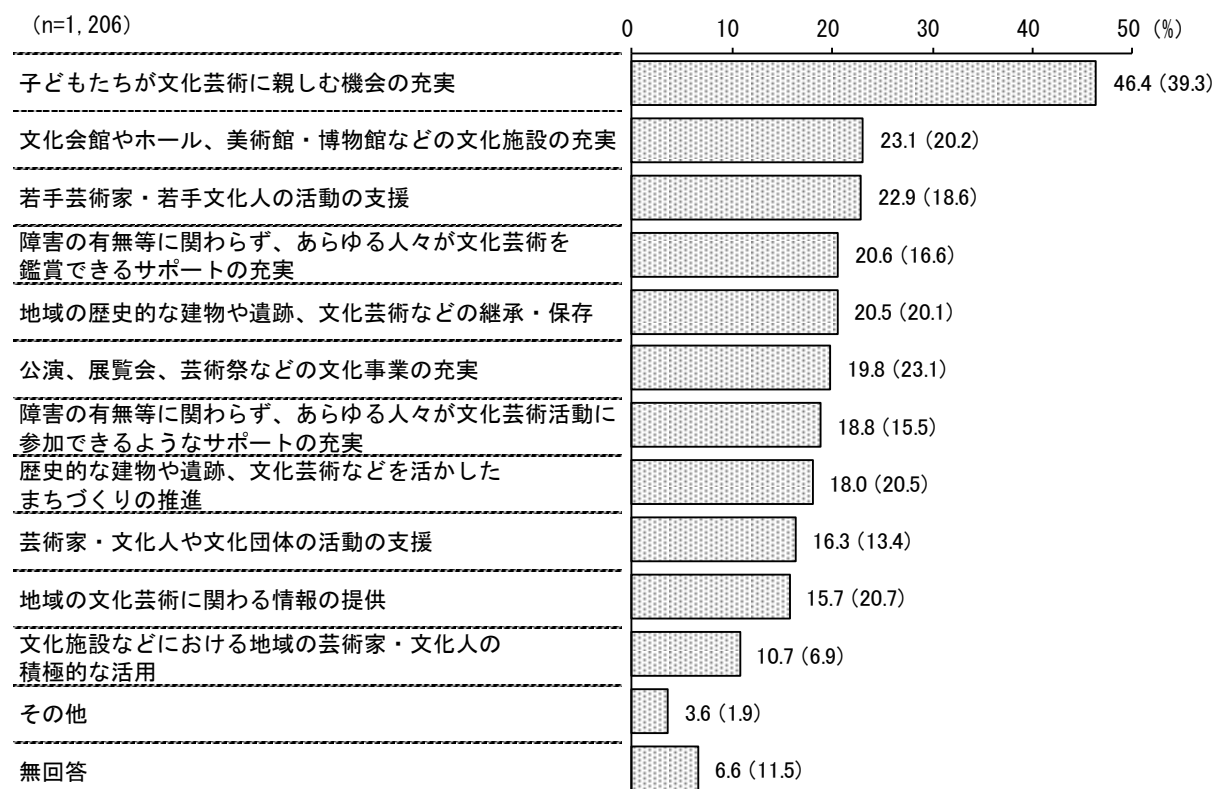
## 6. 県が実施する事業等について

### (1) 県が積極的に取り組むべき分野

◇「子どもたちが文化芸術に親しむ機会の充実」が4割台半ばで最も高い

問29 千葉県の文化芸術を振興するために、県が積極的に取り組むべき分野はどのようなことだと思いますか。(〇は3つまで)

<図表6-1> 県が積極的に取り組むべき分野



注) ( ) の数字は令和元年度の同様の項目による調査結果 n=1,052

※「障害の有無等に関わらず、あらゆる人々が文化芸術を鑑賞できるサポートの充実」は、令和元年度では「障害の有無に関わらず、文化芸術を鑑賞できるサポートの充実」

※「障害の有無等に関わらず、あらゆる人々が文化芸術活動に参加できるようなサポートの充実」は、令和元年度では「障害の有無に関わらず、文化芸術活動に参加できるようなサポートの充実」

千葉県が積極的に取り組むべき分野を聞いたところ、「子どもたちが文化芸術に親しむ機会の充実」(46.4%)が4割台半ばで最も高く、以下「文化会館やホール、美術館・博物館などの文化施設の充実」(23.1%)、「若手芸術家・若手文化人の活動の支援」(22.9%)、「障害の有無等に関わらず、あらゆる人々が文化芸術を鑑賞できるサポートの充実」(20.6%)が続く。

(図表6-1)

#### 【地域別】

地域別にみると、「地域の歴史的な建物や遺跡、文化芸術などの継承・保存」は、“千葉地域”(25.1%)が2割台半ばで高くなっている。

(図表6-2)

### 【性・年代別】

性・年代別でみると、「子どもたちが文化芸術に親しむ機会の充実」は女性の40代（55.4%）が5割台半ばで高くなっている。

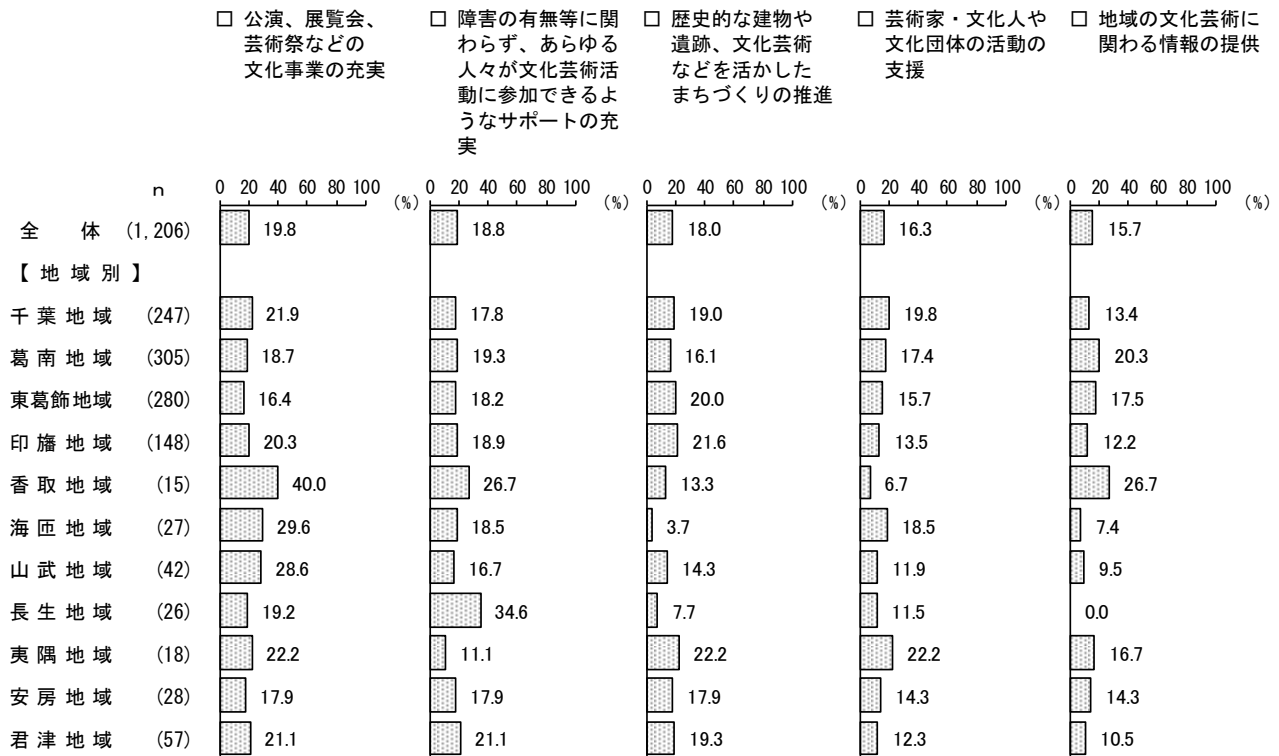
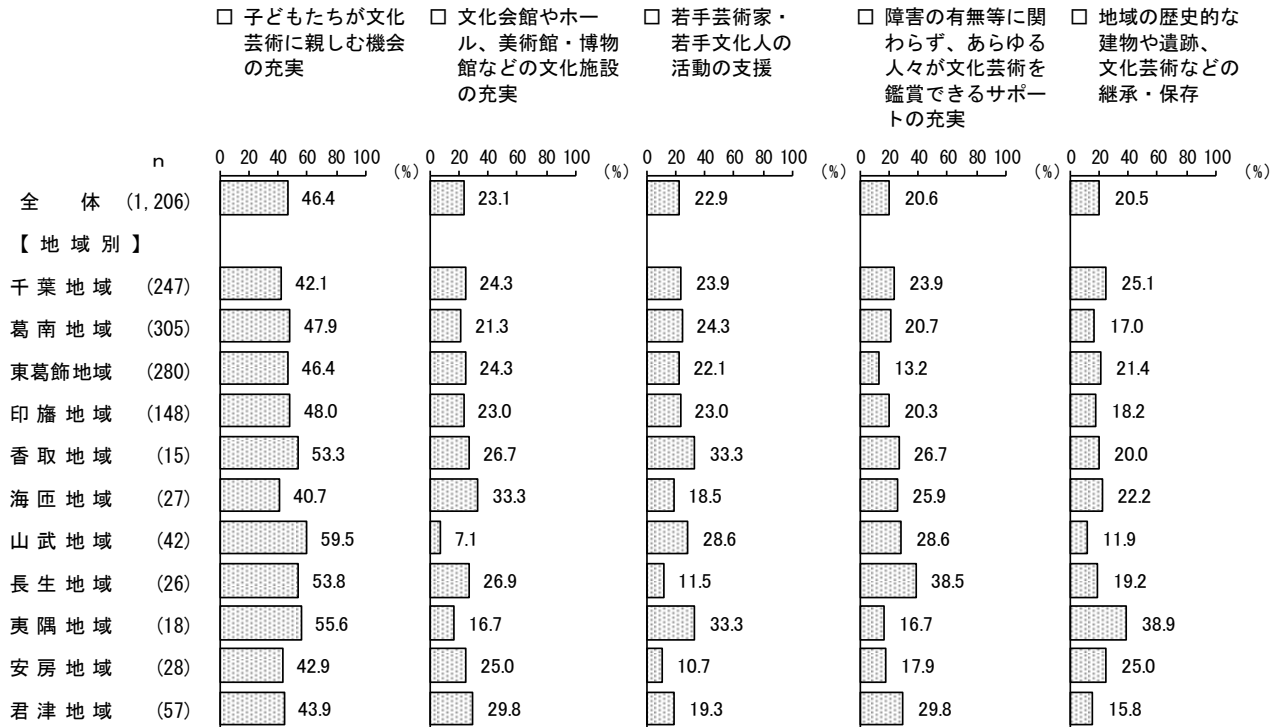
「文化会館やホール、美術館・博物館などの文化施設の充実」は、女性の60～64歳（38.2%）が約4割、男性の70～74歳（32.9%）が3割を超え、それぞれ高くなっている。

「若手芸術家・若手文化人の活動の支援」は、男性の20代（38.5%）が約4割で高くなっている。

「障害の有無等に関わらず、あらゆる人々が文化芸術を鑑賞できるサポートの充実」は、女性の65～69歳（34.5%）が3割台半ばで高くなっている。

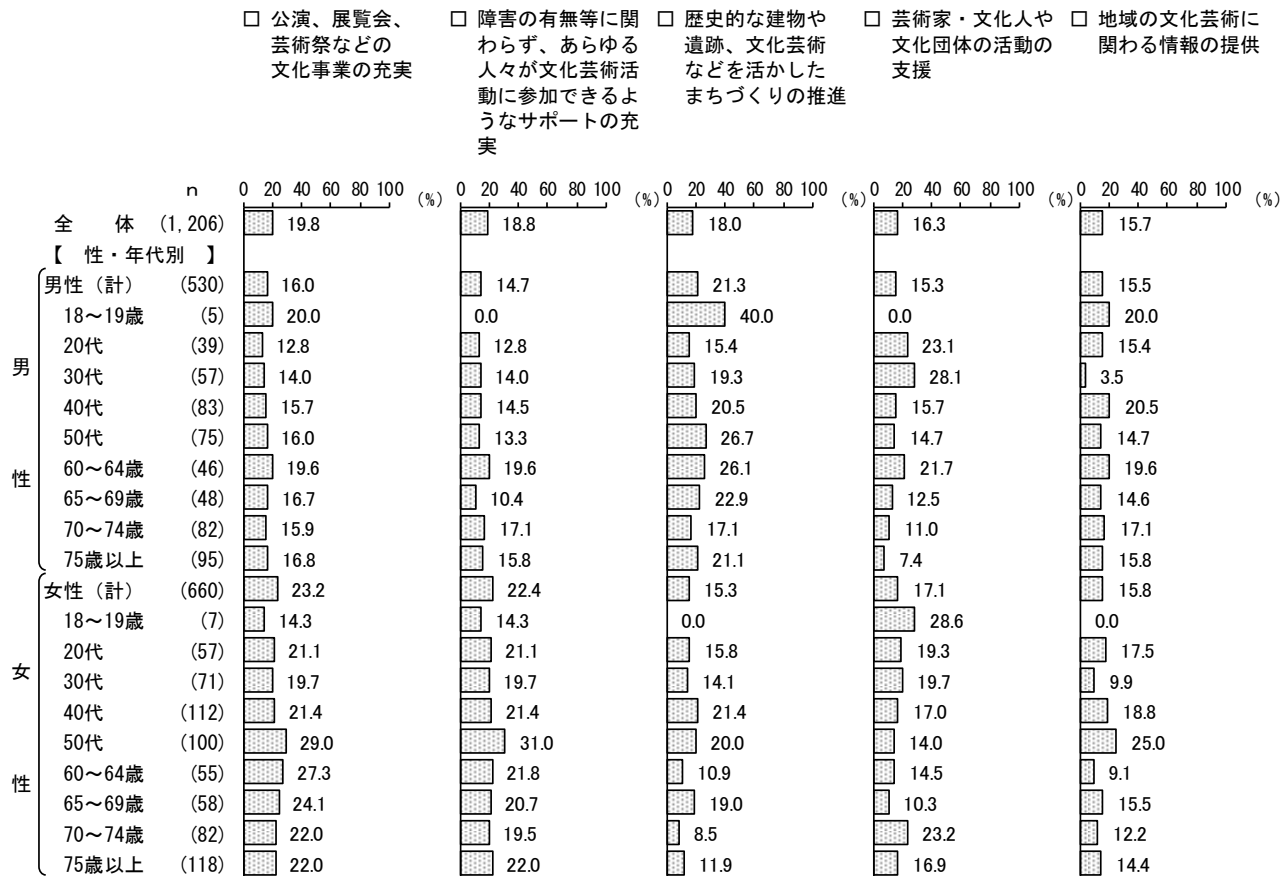
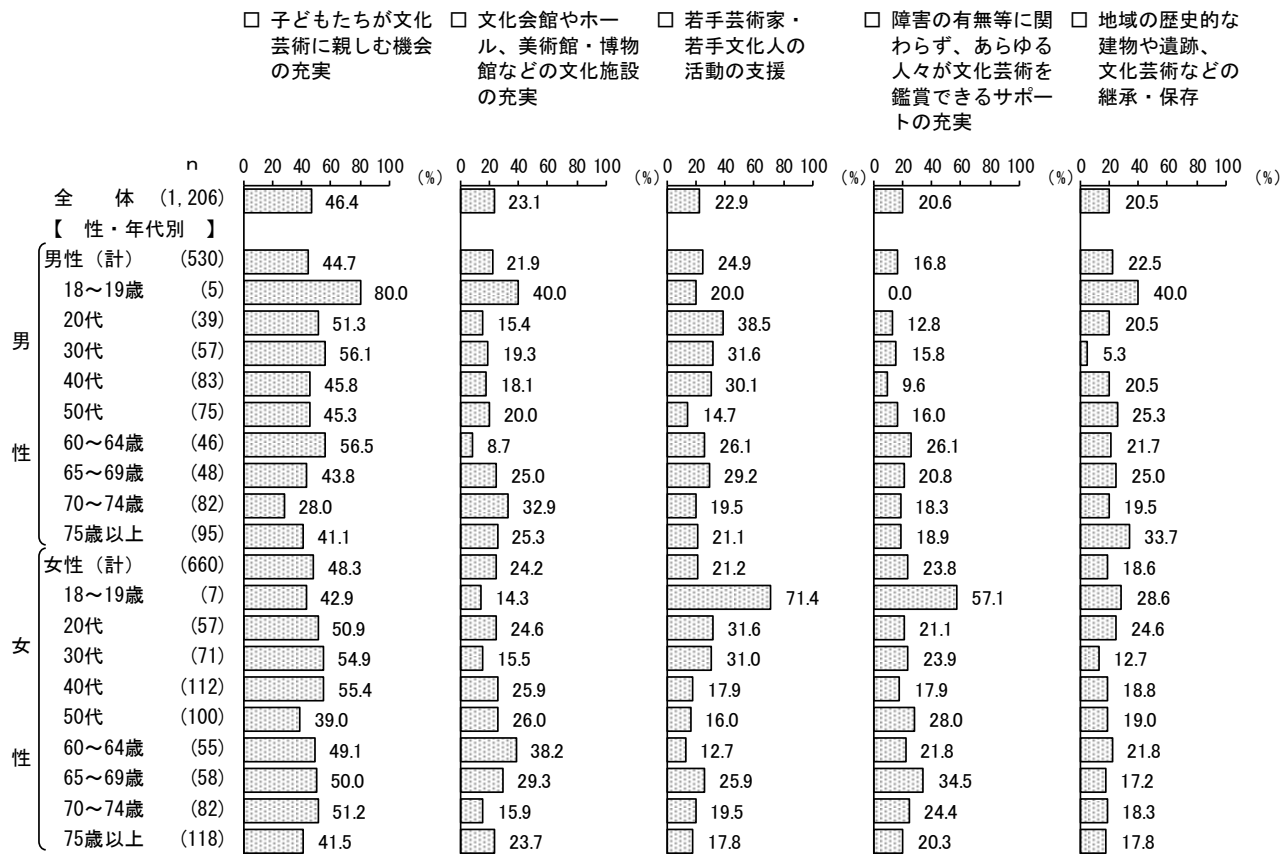
（図表6－3）

<図表6-2> 県が積極的に取り組むべき分野／地域別（上位10項目）





<図表6-3> 県が積極的に取り組むべき分野／性・年代別（上位10項目）



(2) 県が取り組む文化施策等に対するご意見等（自由記述の集計）

◇「広報、情報発信」に関するご意見が最も多い

問30 県が取り組む文化施策等に対してご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。

<図表6-4> 県が取り組む文化施策等に対するご意見等（自由記述）

順位	内容	件数
第1位	広報、情報発信	56
第2位	施設の充実	51
第3位	展示やイベント等の充実	40
第4位	子ども・子育てへの支援	28
第5位	文化芸術にふれる機会を増やしてほしい	18
第6位	施設へのアクセス向上	16
第7位	障害者への支援	14
第8位	活動への支援・援助	10
第9位	高齢者への支援	7
第10位	文化芸術に関わる人員の確保	6
第11位	若者への支援	5
〃	料金の見直し	5
-	アンケートについて	4
-	その他	36
-	特になし／わからない	46

合 計（延べ件数） 342

※回答内容ごとに項目へ分類。

※一人の回答が複数の内容にわたる場合には、それぞれの項目へ分類。

県が取り組む文化施策等に対するご意見等について聞いたところ、「広報、情報発信」が56件で最も多く、以下「施設の充実」（51件）、「展示やイベント等の充実」（40件）、「子ども・子育てへの支援」（28件）が続く。

（図表6-4）

紙面の都合上、全ての意見を掲載することはできないが、以下に意見の一部を抜粋して記載する。

## ◇広報、情報発信

- 東京に近い方面に比べて、下に行けば行くほどPR不足が否めないです。企画の内容自体は良くても圧倒的に認知度不足だと思います。今ならGoogle・インスタ広告に力を入れるべきだと思います。大型イベントでも、都内の人は知っているが千葉に住んでる人が知らないなど、。確かに流入も大切だとは思いますが、まずは県内にいるネット世代に向けての配信などで、来場を促すのが効果的なのではないかと考えます。 (女性、20代、千葉地域)
- 少子高齢化、人口減少社会となると、特に地域伝統芸能継承の観点から、他都道府県民に千葉県内の文化芸術をアピールする必要もあると考える。目的として端からそういうもんじゃないのかもしれないが、150周年事業はもう少し千葉県外でも広報してもよかったのではないかと  
思う。 (男性、20代、夷隅地域)
- 今、文化施設がどのような取り組みを実施しているか、何をしていくかなどもっとアナウンスしてほしいです。情報の伝達の仕方をもっと考えてほしい。(女性、60～64歳、東葛飾地域)
- もっとたくさんの人に文化芸術振興をしていることを伝える方法を考えたらいいと思う。そもそも、そんなことをしていると思っていない人の方が大多数と思うので、意識する人、興味のある人へではなく真逆の所にいる人へ情報が届いてこそ、の活動をされたらどうでしょうか。 (女性、40代、千葉地域)

## ◇施設の充実

- 芸術にもっと予算をあてて欲しい。国内で誇れるような文化施設が全くない。 (男性、50代、印旛地域)
- さいたまスーパーアリーナのようなビッグアーティストに対応できる施設が千葉にない。県庁や周辺に於いても芸術性を感じる事が無い。まず足元(本千葉)から文化芸術性のある街づくりを熱望します。 (男性、70～74歳、千葉地域)
- 誰もが気軽に行ける施設で、しかも、その場所が他の施設へ行く事が可能な様に、施設を転々と移動出来る様にしてほしい。たまたま来たら何かの催しが行われているから参加しようと思える。 (男性、50代、君津地域)
- 大きなホールや文化施設でなく、もっと低料金で気軽に利用出来る少人数(100人程度)のための施設があると、幅広い世代の多くの人々が活用しやすいのではないかと思います。 (女性、60～64歳、千葉地域)

## ◇展示やイベント等の充実

- 面白そうな展示会が全て上野あたりで行われてしまうため、千葉県内で何かを見ようという気にならない。もっと情報発信してもらいたいし、インパクトのある展示会をしてもらいたい。それに伴い、周辺の施設の充実にも尽力していただきたいです。 (女性、20代、葛南地域)
- 積極的にアニメや漫画のイベント、音楽フェスやライブイベントをやってほしい (男性、30代、葛南地域)
- 文化芸術には、とても興味があるのですが、そこへ足を向かわせる為には、もっと付加価値が必要だと思います。ただ学ぶだけではなく、楽しい思い出を老若男女が刻めるようなイベント、祭り、食、環境等を希望します。 (女性、50代、東葛飾地域)
- イベントの充実。入館しやすい雰囲気。体験型施設にして欲しい。 (男性、65～69歳、海匝地域)

## ◇子ども・子育てへの支援

- 子どもがもっと文化芸術に興味を持つような、楽しみながら学べる事業をやってほしい (女性、40代、香取地域)
- 日本の伝統芸能、歌舞伎、能、狂言を含め、生の舞台を子供達に親しむ機会をもっと与えられると、実際間近で芸術にふれることで子供達が自分の将来、夢を広げられるのではないかと思います。 (女性、70～74歳、印旛地域)
- より自由に参加、鑑賞できるようにしていただく。子どもたちがより鑑賞しやすい環境にしていただきたい。働いていると、そういったものに関わる機会が少ないので、子ども経由だと鑑賞、参加しやすいと思う。 (男性、30代、千葉地域)
- 義務教育9年間の間に、児童・生徒がきちんとしたホールや美術館で、演劇・音楽・美術作品を鑑賞できるプログラムを組んでほしいです。「PTA予算で体育館」のレベルでは十分な体験になりません。「千葉の子は、小中学校の間に全員生の芸術に触れて育っている」となってこそその「文化県」です。是非お願いします。 (女性、65～69歳、東葛飾地域)

## ◇文化芸術にふれる機会を増やしてほしい

- 内容の拡充よりも、まずは文化芸術に触れるきっかけづくりが重要と感じます。  
(男性、60～64歳、印旛地域)
- スマートフォンでなんでも楽しめる時代だが、生のステージで見る事、聞く事、ふれる事、楽しめる事、あらゆる所で、いろいろな人がふれあう事の出来る活動を希望します。  
(女性、60～64歳、東葛飾地域)
- コロナ禍を経て、自分の時間を充実させることが大事という認識は広まっていると思います。文化芸術とのふれあいはそのためにも重要です。地域の日常の身近なところにそうした機会が増えるといいと思いますし、それを周知していただければいいと思います。県民が主体的に参加することが大事で、行政にはそのための環境づくりなどの支援を期待します。  
(男性、70～74歳、葛南地域)

## ◇施設へのアクセス向上

- 文化施設などへ行く交通手段が不便。  
(女性、75歳以上、印旛地域)
- 文化、施設をもちあげたいが、高齢者が多く、バスが少なくなってきたため、行けないという方が多いと思う。交通手段を考えてほしい。  
(女性、50代、千葉地域)
- どうしてもコンサートや演芸などの施設、催物などは県内より都内へ出かけるほうが、内容の選択肢も多いし時間的にも費用的にもさほど変わらない。私の住んでいる市にも文化会館はあるが、施設が古く交通の便も悪く、障害者への対応ももう一つ。  
(男性、70～74歳、東葛飾地域)

## ◇障害者への支援

- 障害者による発表会等の開催支援。  
(男性、60～64歳、葛南地域)
- 障害のある人達が気がねなく参加見学できる場所を増やしてほしい。バリアフリーの施設、手話通訳者。  
(女性、70～74歳、山武地域)
- 市原市などでお笑いのライブがあり行きたいが、障がい手帳があるけれど、割引きなどが聞いてもわからないといわれていつも断念します。できればそういう割引きがわかりやすいと良いです。  
(男性、30代、千葉地域)

#### ◇活動への支援・援助

- 伝統的なものの歴史を知る機会を大事にするとともに、新しい分野の文化的活動の機会も開拓してほしい。  
(男性、40代、東葛飾地域)
- 観に行く側としては、文化芸術施設はとにかく居住地から遠いので都内に行きがち。近くにあるとありがたいな、と思います。若手としては、とにかくお金がかかるので役所からの支援がいただけると皆目指しやすく、続けられるかと  
(男性、30代、印旛地域)

#### ◇高齢者への支援

- 文化芸術に関心はありますが、高齢のため出掛ける事が出来にくくなりました（体力、交通手段等）。以前は県内外問わず出かけていましたが…。  
(女性、75歳以上、千葉地域)
- 施設入場料割引等、シニア向けのサービスを検討して下さい。  
(男性、75歳以上、印旛地域)

#### ◇文化芸術に関わる人員の確保

- 地域の祭礼に関しては、お金の使用が不透明なので、開示する様ルールを決めるなどはした方が良かったと思います。他地域から転入してくる人々が参加する事を嫌がらない様な運用も必要なのかと思います。千葉県は高齢化率の高い地域も多いので、転入者の参加が文化継承には必要かと思います。  
(男性、30代、安房地域)

#### ◇若者への支援

- 未来ある子供達や若い世代が夢や希望をもてるようにしてほしい。  
(女性、50代、君津地域)

#### ◇料金の見直し

- 映画のように割引日等があると来客が増えるのでは  
(男性、30代、葛南地域)